



學原論 完

法學士 小林丑三郎講述



司法大臣指定
文部大臣認定

日本大學發行

經濟學原論

目次

第一卷 緒論	一
第一章 概言	同
第二章 經濟說ノ發達	三
第一節 貴金主義及ヒ商業政策	五
第二節 自然法主義及ヒ重農政策	九
第三節 自由勤勞主義	一三
第四節 人口論	一六
第五節 地代論	二〇
第六節 勞銀基金說	二四
第七節 社會主義及ヒ社會政策	二九
第八節 國家社會主義	三六

第二卷 純正經濟學汎論

第一章 經濟學字義ノ沿革

第二章 經濟學ノ主眼及ヒ定義

第三章 經濟

第四章 經濟單位

第五章 經濟制度

第六章 經濟要件

第七章 經濟理法

第三卷 價值成立論

第一章 人欲

第二章 物能

第三章 物能ノ種類

四一丁

同丁

四五丁

五〇丁

五一丁

五三丁

五六丁

七七丁

八九丁

九一丁

九四丁

九七丁

第四章 生産ノ物能

第五章 生産ノ種類

第六章 生産ノ要素

第一節 天然又ハ土地

第二節 勞力

第三節 資本

第一款 資本ノ定義

第二款 資本ノ種類

第七章 生産ノ企業

第一節 企業ノ性質

第二節 企業ノ種類

第八章 生産ノ發達

第一節 土地生産力ノ増進

第二節 勞働生産力ノ増進

九九丁

一〇二丁

一〇五丁

一〇六丁

一一一丁

一一八丁

一二九丁

一二九丁

一五二丁

同丁

一五七丁

一六五丁

同丁

一七三丁

第三節	資本生產力ノ増進	一八七丁
第九章	生産ノ結果	一九七丁
第四卷	價值ノ變動	二〇六丁
第一章	概論	同 丁
第二章	價值ノ種類	二〇七丁
第三章	價格ノ意義	二一八丁
第四章	價格變動ノ一般原則	二二二丁
第五章	價格ノ法則ト自他競爭トノ關係	二四三丁
第六章	交換ノ種類	二四七丁
第一節	實物交換ト貨幣及ヒ信用交換	同 丁
第一款	實物交換	二四八丁
第二款	貨幣交換	二五二丁
第三款	信用交換	二九〇丁

第二節	難波の交換ト貨幣の交換	三〇四丁
第七章	價格ノ種類	三〇六丁
第八章	物價ノ變動	三一五丁
第一節	變動ノ理法	同 丁
第二節	變動ノ結果	三二二丁
第九章	爲替ノ變動	三三〇丁
第一節	變動ノ理法	同 丁
第一款	爲替通貨ノ價值	三三五丁
第二款	爲替ノ需要供給	三四〇丁
第三款	變動ノ限度	三四八丁
第二節	變動ノ結果	三五二丁
第十章	分配價格	三五六丁
第十一章	地代	三六二丁
第一節	地代ノ意義及ヒ種類	同 丁

經濟學原論目次終

第二節 地代ノ理法	三六五丁
第十二章 勞銀	三七二丁
第一節 勞銀ノ意義及ヒ種類	同 丁
第二節 勞銀ノ理法	三七四丁
第十三章 利子	三七九丁
第一節 利子ノ意義及ヒ種類	同 丁
第二節 利子ノ理法	三八〇丁
第十四章 利潤	三八七丁
第一節 利潤ノ意義及ヒ特質	同 丁
第二節 利潤ノ理法	三八九丁
第五卷 價值消滅論	三九〇丁
第一章 消費ノ意義及ヒ種類	同 丁
第二章 消費ト生産トノ關係	三九五丁

經濟學原論

法學士 小林丑三郎 講述

第一卷 緒論

第一章 概言

余ハ之ヨリ此有爲ニテ愉快ナル授業ヲ開始スルニ當リ豫メ讀者ノ留意ヲ乞フヘキモノ凡ソ三件アリ其一ハ即チ本論ノ參考書ニ關ス余ハ本論ノ參考書トシテ英國系統ニ在テハアダムスミスジョンステューアードミルマクラウドゼボンスオムカアケヤネスデツクマーシャルクラークコンモンズハツドレー及バルグレイブ氏等ノ著書及論文獨逸系統ニ在リテハロツシエルワグネルノイマンミートホフシエンペルヒスミットコーンヒリボフチコンラードペンバエルク氏等ノ著書及ヒ論文ヲ採擇シタリニハ即チ本論ノ眼目ニ關ス余ハ以上ノ諸書ヲ參考シタル

ニモ拘ハラス、經濟學トハ價值ノ成立、變動及消滅ニ關スル理ヲ論スルモノナリト定義シ此定義ノ結果トシテ本論全般ノ編制上並ニ各所ノ説明上往々新奇獨斷ノ片影ヲ留ムルコトアリ例ヘハ資本論、通貨論而シテ之ニ對シテ物價論及爲替論ノ如キ是レナリ此等ニ關シテ余ハ竊カニ以テ自ラ大膽ナリトスルモノナキニアラスト雖モ純正經濟學ノ學論微々トシテ振ハサルノ今日聊カ所信ヲ掲ケテ廣ク江湖ノ批評ニ訴ヘ以テ學理ノ發達ニ資スル所アラハ敢テ無益ユ了ラサルヘキヲ知ル三八即チ本論ノ實用ヲ旨トシ彼ノ所謂經濟學ノ職分、功用、地位、範圍、研究方法及其諸學科ニ對スル關係如何ノ如キ比較的不實用ノ問題ヲ詳論セサルコト是レナリ是レ蓋シ此等ノ問題ハ特ニ別題トシテ論述セサルモ本論中各所ノ説明ニ依リテ其大體ヲ推知スルヲ得ヘキノミナラス今ヤ財政ニ經濟ニ關スル實地ノ研究上必用ナル問題未タ純理上ノ斷定ヲ得スシテ學者政治家並ニ實業家ノ間緊急ノ解釋ヲ待ツモノアレハナリ余ハ今直接ニ本論ニ於テ現實上ノ評論ヲ爲スモノニアラスト雖モ純理上ヨリ間接ニ個々ノ斷案ヲ下サント欲スルカ故ニ比較的不實用ノ問題ノ如キハ姑ク之ヲ他日ニ讓リカメテ現實ニ近キ問題ノ論理ヲ研究スヘ

シ但シ現實ニ於ケル經濟ノ現象及理法ハ皆是レ過去ノ現象及學說ノ發達ニ基因スルモノナルカ故ニ經濟學說ノ歴史ニ關シテハ本論ニ對スル重要ナル基礎トシテ此緒論中ニ略述セサルヘカラサルナリ

第二章 經濟說ノ發達

古代ト雖モ經濟ニ關スル研究ハ全ク存在セザリシニアラサルナリ夫ノ希臘時代ニ於テゼノホン氏ノ經濟論アリアリストール氏ノ政治論アリキ然レトモ當時財產ノ如キハ總國民ソ生活ニ對スル重要ヲ認メラレスシテ單ニ個人幸福ノ生活ニ對スル一方便タル價值ヲ認メラレタルノミ獨リ土地私有權ハ政治上ヨリ正當ノモノトシテ最大ノ價值ヲ付セラレタルカ爲メニ土地耕作ノ農業ノミハ個々自由人ノ重要ナル生存業トシテ認メラレタリト雖モ工業、賃勞及ヒ商業(海國ナ除外)ハ全ク不正當ノモノトセラレタリ即チ希臘ニ於テハ個人ノ價值ハ却テ社會ノ不利タル如ク認メラレタリト云ハサルヘカラス之レト均シク羅馬時代ニ在テモ個人ノ富裕カ社會全體ニ有要ナル效果ヲ有スヘキコトハ認知セラレス從テ節儉以テ富裕ヲ欲トスル夫ノ個人ノ勤勉ハ賞揚セラレタリキ(シヒロロ及其果シテ然ラ

ハ古代ニ於テハ個人ノ價值ハ社會ノ價值ナラヌトセラレタリト斷言スルヲ得ヘシ

中世紀ニ至リテハ耶蘇宗ノ誤解說ノ流行シタル結果トシテ經濟問題ニ關シテモ更ニ缺點多キ研究行ハレタリ之ヲ神學的研究法ト云フ此研究法ハ中世紀全部ニ涉リテ久シク行ハレ繼ニ利息ヲ嚴禁スルノ立法ヲナシムルニ至レリ次テ十七世紀ニ至リテ法學的研究方法ナルモノ起レリト雖モ其見解ハ經濟學ニ依リテ人々意思ノ衝突ヲ防止シ又ハ平穩仲裁ニ到ラシメント云フニ在リタルカ如シ要スルニ十七世紀ニ至ルマテハ個人ノ價值利益ハ社會ノ價值利益トセラレスシテ個人ノ價值利益ハ總忌セラレ嚴禁セラレ商工及賃勞賃利皆不正當ノモノトセラレタル有様ナルヲ以テ經濟說ノ發達ハ微々振フ能ハナリシナリ

然ルニ中世ヨリ近世ニ推移スル變遷ノ時代ニ際シ實ニ十六世紀ノ後半ニ當リ封建制家ノ幕始メテ破レ社會ノ組織一變シ諸侯ト僧門トノ勢力ハ地ニ墜テ君主ト市民トノ權勢ハ益々張リ豪族層層ノ軍制廢レテ常備徵發ノ軍制起リ新數諸國ニ於ケル寺院ノ領地ハ俗人ノ手ニ歸シテ貧民救助ノ責任ハ各邦國ノ上ニ集マリ來

リ國費益々膨脹シテ王侯料地ノ收入ハ以テ之ニ應スヘクモアラヌ米國銀山發見セラレテ實物經濟ノ世界ヨリ貨幣經濟ノ世界トナリ貨幣益々増加シテ物價益々騰貴シ物價益々騰貴シテ國費益々増加シ王侯ノ料地ハ賣リ盡クシ特權收入ハ漁シ盡クシ政府ハ如何ニシテ此膨脹ノ國費ニ充應スルヲ得ンカ租稅徵收ノ外他ニ由ルヘキノ途ナク而レテ租稅ノ徵收ハ個人ノ價值ノ分配ニ外ナラサルカ故ニ個人ノ價值利益ヲ増進スルニアラサレハ此國費ヲ維持シ此國力ヲ富裕ナラシムルヲ得ストノ觀念起ラサルヲ得ナルナリ

斯クノ如ク個人ノ價值利益ハ社會ノ價值利益タリトノ觀念僅ニ發起スト雖モ其所謂個人並ニ社會ノ價值利益ナルモノハ如何ニシテ又何ニ依リテ之ヲ發作増進スヘキカニ至リテハ當時政治家及學者ノ尤モ苦心セシ所ニシテ數度ノ失敗ヲ經驗セシナリ

第一節 貴金主義及ヒ商業政策

此主義及政策ノ根源ハ貨幣ヲ以テ價值ハ本體ナリト誤認シタルニテ蓋シ貨幣ハ人生至便ノ具ニシテ人ノ貧富國ノ盛衰モ其多少ニ依リテ定マルカ如キ觀ヲ有

スルニヨリ一國一社會ノ富裕ハ其内ニ存在スル貴金屬ノ多少ニ之レ依ルヘシト
 ノ考ハ貨幣缺乏ノ爲メニ滅亡セル羅馬帝國ノ後ヲ承ケタル歐洲各國ニ於テ勢ヒ
 發起セサルヘカラサルノ觀念ナリ既ニ此觀念ニシテ發生ス之ヨリシテ各國政府
 ハ貴金屬ニ富メル殖民地ノ占領竝ニ内國鑛山ノ管理ニ汲々タルノ有様トナリ金
 銀ノ輸出ヲ禁シ之レカ輸入ヲ獎勵スルノ立法ヲ採用セリ
 然ルニ此立法ノ精神ハ此立法ノミヲ以テ充分ニ貫徹スルコトヲ得ス何トナレハ
 此立法ノ施行セラル、結果一タヒハ國內ニ金銀ノ流入ヲシテ豊カナラシムト雖
 モ金銀内ニ増加スレハ金銀ノ價格ハ下落スヘキカ故ニ一旦流入シタル金銀ハ再
 他ノ外物ト交換セラレテ漸次市場ヲ去リ他ノ比較的高價ノ地ニ向ツテ逸出セ
 ナルヲ得サレハナリ然ルトキハ貿易上ニ於ケル貨物ノ超入ヲ防害スルノ策ヲ立
 ツルニアラサルヨリハ金銀吸收ノ目的ハ之ヲ完納スルニ由テカラントス是ニ於
 テカ單純ナル貴金屬主義ニ代補シテ商業保護ノ政策家輩出スルニ至レリ商業政策
 ハ物品ノ輸入ヨリ輸出ヲ超過セシメ其差額ニヨリテ金銀ヲ吸收セントスルニ存
 スルモノニシテ第一ニ内國品ノ輸出ヲ獎勵シ第二ニ外國品ノ輸入ヲ防害スルノ

必要ヨリ輸出ノ獎勵トシテハ輸出品保護稅輸出戻稅並ニ航海獎勵金ヲ與ヘ輸入
 ノ妨害トシテハ内國品ト競争スヘキ若クハ貿易上不利ヲ自國ニ加フヘキ外國品
 ノ輸入ニ對シ重稅ヲ課シ又ハ全ク之ヲ禁止ス斯ル政策ヲ主張シ實行シタル人物
 ハ佛國ニ於テハコルベルト(一千六百六十年)英國ニ於テハクロンウエル(一千六百
 十六年)ヲ以テ首トス故ニ此政策ニ基ケル制度ヲ「コルベルト」制度ト稱シ其内國商業ヲ保
 護スルニ因リテ商業制度ト云フナリ而シテ此制度ハ英佛ニ實行セラレテヨリ
 漸々其他ノ各國ニ及ホシ相争フテ輸出ヲ獎勵シ輸入ヲ制限シ其貿易ノ差額ヲ自
 國ニ利セシメ以テ間接ニ貴金屬主義ヲ遂行セント計リタルナリ
 此政策タルヤ全然非難スヘキニアラス彼ノスミス、マクラウド氏等ノ如キハ之ヲ
 以テ單ニ貨幣ト富トノ混視誤認ニ歸シ根本的ニ排斥シ去ラントスト雖モ吾人ヲ
 以テ之ヲ見レハ此政策モ斯ル簡單ノモノニ非サルヘシ蓋シ信用並ニ文明器械ノ
 發達セサル時代若クハ國柄ニ於テ一旦物品ノ輸入輸出ニ超過シ金銀ノ外出増加
 シタルノ結果貨幣ト物品ト非常ノ不平均ヲ生シ通貨資本ノ減少トナリ金利ハ騰
 貴シ物價ハ下落ス此時ニ當リテ信用ヲ以テ資本ヲ得ルノ途ナク器械ヲ以テ生産

費ヲ減スルノ法ナクシハ内國産業ハ茲ニ挫折シ他日勞銀ノ下落資本ノ増加ニ遭
ヒ産業再ヒ振起セントスルモ既ニ久シク其販路ハ輸入品ノ獨占スル所トナリ技
術ハ退歩シテ復タ如何トモスヘカラス竟ニ恢復スルコト能ハサルコトナキヲ保
セス果シテ斯クノ如キ事情アリトモハ一時輸出ハ獎勵シ輸入ヲ抑制シ以テ物價
ヲ騰貴セシメ以テ通貨資本ヲ流入セシメ其將サニ挫折セツトスル産業ヲ維持ス
ルノ策全ク無用ナリト云フヘカラス唯夫レ此等ノ政策ハ一時ノ窮策ニシテ決シ
テ永ク實行スヘカラス又其實行セントスル物品ノ種類ニ付充分ノ注意ヲ加ヘサ
ルヘカラナルナリ然ルニ當時ノ事茲ニ出テスシテ各國相競ヒ反目以テ無差別ニ
諸種ノ物品ニ付キ之ヲ施行シタルカ故ニ各國徒ラニ物價ノ騰貴ヲ促シタルノミ
ナラス一般ヨリ取ル租稅ヲ以テ之ヲ輸出品商人ノ保護金ニ充テ特ニ農民ノ負擔
ヲ省ミナルノ觀アリシナリ

要スルニ商業政策ハ既ニ個人ノ價值ト社會ノ價值トノ聯絡ヲ稍々感得セント雖
モ其價值ノ主要ヲ貨幣ニ歸シ其之ヲ得ルノ方法ヲ保護干涉ニ採リ貿易ノ差額ヲ
自國ニ利シテ以テ金銀ノ吸收ヲ完行セントシタルノ缺點ヲ有シ之レカ爲メニ輸
入ヲ妨害シ輸出ヲ獎勵シ其結果ハ獨リ商業ノ保護ニシテ一般及ヒ農業ノ不利ヲ
省ミナルノ弊ニ陷リ遂ニ自然法主義重農學派ノ反對論ヲ喚起スルニ至レリ

第二節 自然法主義及ヒ重農政策

千六百九十四年佛國王路易十五世ノ侍醫ニフランソア・ケネー(一)乃一千六百九十七年
年(四)ナル者アリ所謂自然法主義(Physiology)ヲ唱導シタリシカ此主義ノ適用トシテ
經濟上財政上重農政策ノ説起レリ
氏ノ主義ノ大要ニ曰ク

我カ此世界ハ天地自然ノ順序ヨリ生シタル形體上心理上一定不易ノ法則ヲ以
テ支配セラレ此法則ヲ總稱シテ天則又ハ自然法ト云フ其ハ自然ニヨリテ生レ
自然ノ欲念アリ此欲念ヲ充タスニ必要ナル性質ヲ有スル產物ヲ生スルモノハ
自然ノ土地ナリ自然ノ土地ヨリ原物ヲ產出セシカ爲メ使用セラレ、人力ハ
之ヲ生産的勞力ト稱スヘク此生産的勞力ハ動物植物及礦物ノ三界ニ涉リ所謂
農夫、獵師、礦夫、牧丁、漁士、樵夫ノ類之ニ屬ス何故ニ此等ヲ以テ生産的勞力ト云フ
ヤ曰ク一國ノ富即チ產物ノ數量ヲ増加スルモノハ此勞力ノ外ニアラサルヲ以

テナリ自家ノ出費ヲ支拂フテ尙ホ剩餘ヲ生スヘキ勞力ハ實ニ此種ノ勞力ニ限
ルヲ以テナリ年々土地ヨリ得ル所ノ產物ヨリ之ヲ得ルニ要シタル出費ヲ控除
シテ殘ル所ノ餘潤ハ純收入ト稱セラレ此純收入ヲ以テ社會ノ他ノ階級一切ヲ
維持ス此純收入ノ代價ハ一國唯一ノ歲入ニシテ實ニ國民富財ノ唯一ノ増加ナ
リ若シ夫レ土地產出ノ原物ニ付キ此他ニ於テ費ヤサレタル一切ノ勞力ハ其改
良ノ爲メナルト製造若クハ運搬ノ爲メタルト問ハス是レ皆不生産的ノ勞力
ナリ如何トナレハ此等ノ勞費ノ爲メニ國ノ富財ハ決シテ何等ノ加除モアラサ
レハナリ工匠ノ勞力モ商業ノ作用モ決シテ國ヲ富マスモノニアラス先ツ之ヲ
商業ニ付キテ論セシニ商業ナルモノハ單ニ同價ニ對スル同價ノ交換ニ過キス
シテ之レカ爲メニ少シモ一國ヲ富裕ナラシムルモノニアラス唯商業ノ作用ニ
ヨリテ人欲充當ノ方法ヲ變化シ又ハ加乘スルノ效アルノミ國富ニ向ツテ何等
ノ増加ヲナスコトナシ若シ時トシテ富ノ増加スルコトアリトスルモ是レ唯商
業ナクハ市場ヲ發見スルニ由ナクシテ了ルヘキ土地產物ニ向ツテ多少ノ價
ヲ與フルコトアルノミ次ニ工匠ノ勞力ニ付テ論セシニ此勞力ハ物產ノ價ヲ增

加スルニ相違ナキモ是レ其製造手續中ニ於テ彼レ工匠タル者必ス其衣食ヲ費
消スヘク而シテ勞力ノ爲メニ產物ニ加ヘタル價ハ偶々以テ彼カ勞働中消費シ
タル衣食ノ代價タルヲ表スルモノナリ故ニ價格ハ増加スルモ富ハ生産セラレ
タルナリ斯クノ如ク土地ノミ獨リ能ク純收入ヲ生ス此純收入ヲ土地ヨリ生セ
シムル勤勞ハ農業ナリ租税ハ必ス純收入ニ課セラルヘカラサルモノナルカ故
ニ土地ノミ課税スヘキモノニシテ商業及ヒ製造業ノ如キハ課税スヘキモノニ
アラス要スルニ農業ノ純收入ハ總合シテ一國ノ自由收入ヲナシ國家ノ財源ヲ
爲スモノナルカ故ニ政府ハ之ニ單一ノ直税ヲ課スルノ至當ナルト同時ニ其永
久ノ財源トシテ之ヲ保護セラルヘカラス然ルニ從來各國政府ノナス所ヲ見ル
ニ單ニ商業ヲ保護シテ之ニ餘分ノ利ヲ得セシメントスト雖モ夫レ丈一國ノ租
税トシテ一般ヨリ徵收セラルヘキノ結果忽チニ農民ノ負擔ヲ重クシ地主ノ地
代ヲ減少シ國家ノ眞財源ヲ斯クノ如クニ枯渴セシメタルナリ宜シク政府ハ不
殖産タル商業ヲ保護セシテ斷然國本タル農業ノ束縛ヲ解放スヘシ而シテ之
レ實ニ天然ノ法則ニ至適スル所以ナリト斯クノ如クニシテ其政策トシテ呈出

シタルモノハ凡ソ左ノ如シ

- 一 土地ノ耕作並ニ土地ノ產物ノ賣買ヲ内外共ニ全ク自由ニスヘシ
- 二 耕作者カ義務トシテ負フ所ノ人身及物品上ニ關スル一切ノ制限ヲ廢止スヘシ
- 三 道路ヲ開通増加シ教育ヲ盛ニスヘシ
- 四 此等ノ爲メニ獎勵金賞與金ヲ附與スヘシ
- 五 製造及商業ノ組合獨占ヲ除去シ自由競争ニ任セテ物價ヲ低廉ナラシムヘシ
- 六 租稅ハ單一直接稅トシ土地借料ニ課スヘシ

此主義ノ缺點ハ價值ヲ有形產物トナシ有形產物ハ土地ヨリ生スルカ故ニ價值ノ本源ハ唯一的ニ土地ニ在リトナシ土地ニ關スル農業ヲ保護スヘク農業ノ純收入ヲ消費シテ生活スル商業製造業ヲ以テ不生産的ナリトシ斯クシテ又不思議ニモ純收入課稅ノ名義ニヨリ彼ノ所關唯一ノ生産業ナル農業ノ收入ニノミ課稅スヘク却テ農業ノ產物ニヨリテ利潤ヲ得ルト云ヘル不生産的職業即チ商業製造業ニ

ハ課稅スヘカラスト主張シテ單一稅說ヲ採リ單一地租ノ一般的性質ヲ欠ケルヲ悟ラスシテ却テ之レカ爲メニ國家ノ職分ヲ狹限セントシタルニ在リ要スルニ此主義ニ於テハ價值ノ主因ハ貨幣ニアラスシテ土地即チ自然ナリトシ自然ヲ利用スルモノハ農業ノミナルカ故ニ他ノ諸業ハ保護スヘカラス農業ハ束縛ヲ撤スルヲ要ス是レ即チ社會ノ價值ヲナスモノナリト觀タルモノト云フヘシ

第三節 自由勤勞主義

價值ノ本體ハ土地ノ產物ニアラスシテ土地及勤勞ノ產物ナリ價值ノ増進ハ保護ニアラスシテ自由放任ニアリト主張シ個々人々ノ自利心ヨリスル個人ノ價值ハ必ス社會ノ價值ト互ニ相關和スルモノナリ商業ト云ハス農業ト云ハス將タ工業ト云ハス一切ノ産業ハ皆價值ヲ増進スル所以ノ生産的勤勞ナルカ故ニ均シク之ヲ自由ニシ貨幣ノ吸收特種生産ノ保護ヲ打破シテ放任ニ付スヘシト絶叫シタルモノハ經濟學史上ノ一大偉人アダムスミス氏(千七百二十年)其人ナリトス氏ハ千七百二十年ヲ以テ蘇國ニ生レ千七百七十六年ニ有名ナル富國論ウェリファレインヲ著セリ富國論ノ結構ハ五卷ヨリ成リ其第一卷及第二卷ハ氏ノ自ラ以テ經濟原理ナリト認

ムル所ノモノヲ論シ富資本勞力等ノ問題之レカ主タリ第三卷ハ歐洲各國ニ於テ
 ル富強ノ異同ヲ歴史的ニ評説シ第四卷ハ巧ミニ商業制度及重農學派ヲ論述辯難
 シ第五卷ハ帝王歳入論ヲ保有セリ此富國論カ經濟學トシテ非難セラレ、中ニ就
 テ其生産論ニノミ重ヲ置キ殆ント分配論ニ注目セス人口地代勞銀等ノ問題ヲ等
 閑ニ附シタル如キ缺點ハ素ヨリ辯解スヘキニアラスト雖モ元來此富國論ハ時事
 政策ノ論文ニ外ナラスシテ況ク經濟及財政ノ事實竝ニ應用ニ涉リ個人ト社會ト
 ノ利益ノ調和ヲ證明シ教訓シ以テ現實各政府ノ採レル保護干涉ノ百害ヲ指摘シ
 テ個人ノ利益ノ自動ニ任カセ其儘ニ社會ノ幸福ヲ増進スヘシト主張シタルモノ
 ナルカ故ニ理法研究トシテハ不完全ナルニモ拘ラス善ク事實ニヨリテ經濟原則
 ヲ研究シタルモノニシテハ不完全ナルニモ拘ラス善ク事實ニヨリテ經濟原則
 經濟學上ニ於テ勤勞ヲ以テ價值ノ要素トナシ個人ト社會トハ價值ノ調和自然ニ
 存在スルモノトシ殆ト完全ニ干涉經濟策ヲ排斥シタルハ實ニ氏ノ以テ之カ首
 唱トナサ、ル可カラスト雖モ個人主義放任主義自由主義トシテ歐洲各國ニ流行
 シ佛ニ在リテカリーナードセイシスモンデールノ著書トナリ英ニ在リテハリカール

バルネルマツカロクノ著書トナリ獨ニ在リテハヤコブフルタロウノ著書トナリ
 經濟學史上尤モ長キ間隙ヲ支配スルニ至レル所以ノモノハ獨リ氏ノ主義ノミノ
 然ルニ由ルニアラスシテ前ニ於テハグルネー(一千七百五十二年)ノ放任主義及モン
 テスキュー(一千七百八十九年)氏ノ三權分立主義而シテ殆ント同時ニ在リテハル
 ーソニー氏(一千七百七十八年)ノ平等主義並ニカント民(二千七百)ノ自由意思主義等、
 政治學、法理學、社會學上ノ發達及米國ノ獨立布告與リテ力アリタルモノト云ハサ
 ルヘカラス

斯クノ如クニシテ個人主義自由主義ハ經濟學、財政學、政治學、法理學、社會學ニ共通
 セル一貫ノ大主義、大原則トナリ特ニルーソニー氏ノ平等自由主義ノ極端ハ現實社
 會ニ於ケル價值(富)分配ノ不平等ヲ政府人爲ノ結果ナリトシ政府ハ有害無害ノ魔
 物ナルカ故ニ此人爲ヲ排却シテ天然平等ノ狀態ニ復セシメサルヘカラスト信ス
 ルニ至リ滔々トシテ十八世紀ノ末葉ニ進ミ千七百九十八年佛國ノ大革命ヲ現出
 シ帝王ヲ斬ニ處シ不動産分配ヲ均一ニシ貧民ニ政權ヲ附與シタリ
 然ルニ此改革ハ決シテ豫期ノ好果ヲ奏セスシテ社會ノ秩序ハ爲メニ破壞セラレ

貧富ノ懸隔却テ益々甚シキヲ加フルニ至リレカハ貧富ノ懸隔ハ人爲ニアラストノ説忽チ起ラサルヲ得サルニ至レリ

第四節 人口論

貧富ノ懸隔ハ價值分配ノ不平等ニ在リ價值分配ノ不平等ハ人爲ニアラスト天爲ノ結果ナリト觀タルモノハ英人マルサス氏(一千七百六十四年)其人ナリ氏ハ千七百九十八年ニ著ハシテ千八百三年ニ訂正シタル人口論ヲ以テ有名ナリ氏ハ此人口論ニ於テ貧困ハ人爲ニアラスト人口増加ト云ヘル天然事實ニ根基スルノミルソノ一派ノ聲ハ一ノ夢想國ヲ描出シ絶對ノ放任ヲ以テ真正ノ極樂世界ナリト公言スト雖モ人口ノ増加ハ自然ナリ眞ニ幸福圓滿ノ社會ニ於テハ人口ノ増加止ムコトナキカ故ニ真正ノ極樂世界ハ人口増加ノ完全ナル極致ナリト論決セリ而シテ氏カ此論決ニ達シタル證據ハ人口ノ増加ハ食物増加ヨリモ速カナル永久的傾向ヲ有スト云フニ在リテ證據ヲ組成スルニ付キ氏ノ採用シタル事實ハ凡ソ左ノ如シ

抑モ人ハ一配偶ヲ以テ多數ノ配偶者ヲ生スヘキ娛樂的自然力ヲ有スルモノニ

シテ各社會ハ一世毎ニ否ナ少クトモ二十五年間ニ二倍ノ増加ヲ爲スモノナリ人口ノ斯クノ如キ増加ハ食物ノ増加ノ之レト同步調ヲ以テ伴フ場合ニ於テ尙ホ且ツ之ヲ見ル況ンヤ食物ノ増加ハ到底人口ノ増加ト同步調ナルコト能ハタルニ於テオヤ何トナレハ地球ノ表面ハ既ニ限リアルノミナラスト耕作ニ適シ若クハ採捕ニ便ナル部分ニ至リテハ更ラニ狹限セリ此狹限ノ地積ヨリ食物ヲ得ルノ困難ハ採捕ノ増加スル毎ニ増加スヘケレハナリ故ニ人類ハ一、二、四、八、十六等ノ幾何的級數ヲ以テ増加スルニ反シ食物ハ好順ノ場合ニ於テモ一、三、五、七、九等ノ算術的級數ヲ以テ増加スルニ過キス從テ數世ノ後テハ兩者ノ數字著シキ懸隔ヲ生セスツハアラス果シテ然ランニハ人生ノ將來ハ到底貧困ニ終ルト云フノ外ナシ其今日ニ於テ甚シキニ達セサル所以ノモノハ人口ノ増加ニ對シテ豫防及ヒ制止ノ障礙アルニ之レ由レリ豫防ノ障礙 Preventive check トハ事前ニ於テ人口ノ増殖ヲ防制スル行爲ニシテ克己制情又ハ殘忍放蕩ニヨル消極ノ障礙ヲ云ヒ制止ノ障礙 Repressive check トハ事後ニ於テ人口ノ増殖ヲ防制スル天爲若クハ人爲ニシテ食物不足、飢饉、疾病、戰爭、憂愁、殺兒、移住、殖民ニヨル積極ノ障礙ヲ

云フ云々

然ルニ之ニ反對シテ米人ケリー氏ハマルサスノ統計ヲ以テ格段ニシテ不備ナリトシ之レカ例外ノ場合ヲ列舉シタル後更ニ生理上ニ訴ヘテ生物ノ生殖力ハ其高等ニ進ムニ從テ漸々減少スルカ故ニ草木ノ繁殖最モ盛ニシテ下等動物之ニ次キ人類ノ生殖ハ數ニ於テモ度ニ於テモ最モ少ナシ要ハ動植ノ増加ニヨリテ人口増加スルモノニシテ人口ノ増加ハ結果ナリ動植ノ増加ハ其原因ナリマルサスノ論理ハ此原因結果ヲ顛倒スル杞憂ノ談ニ過キスト攻撃セリ

然リマルサス氏カ人口ノ増加ヲ以テ幾何的級數ナリトシ食物ノ増加ヲ以テ算術的級數ナリトセルハ極論ナリ又新開國ノ例ヲ採リ人口ハ二十五年ニ二倍ストセルモ從前ノ論法ニアラサルナリ然レトモ是レ概言例說ニ過キスレテ深ク答ムヘキニアラス要ハ唯人口ト食物トヲ各別單獨ニ研究スレハ食物ノ増加ヨリモ人口ノ増加ハ強力ニシテ若シ他ニ障礙スルモノナカラシムヤ人口増加ハ無限ノ天然的傾向ヲ有スヘシト論シタルニ止マレリ氏ト雖モ此傾向ノ實際ニ於テ反對ノ事實ヲ現ハシ食物ノ供給ニシテ人口ニ超過セルモノアルヲ認メサルニアラス否ナ

氏ハ此反對ノ事實ヲ研究シテ消極及積極ノ障礙アルコトヲ發見シ其積極ノ障礙中氏ハ朋カニ食物ノ不足ヲモ列記シタリ此食物ノ不足ニヨリテ人口ノ増加ハ防止セラル、カ爲メニ氏ノ人口無限増加論ヲ非ナリトスルハ甚タ酷ナリト謂フヘシ何トナレハ本問題ノ係ル所ハ人口ト食物トハ何レカ増加ノ割合速カナルヤニ存スルモノニシテ世ノ貧困ノ基ヲ研究セントスルニ在リタレハナリ要スルニマルサス氏ノ人口論ハ其證明ニ於テ不備ナルヲ免レスト雖モ人口増加ノ自然的傾向ハ敢テ疑フヘキニアラス而シテ人口増加ハ其進行ノ間ニ於テ近世進化論ニ所謂人為淘汰並ニ自然淘汰ニヨリテ時々防止セラル、マテニシテ其永久ノ傾向カ増加ニ在ルコトハ之ヲ認メサルヘカラサルナリ若シ此傾向ヲ認メストセハ社會ノ進歩スルニ從テ何故ニ地代ハ騰貴シ利潤ハ低減スルノ事實アルヤ又何故ニ英國ノ勞力者ハ米國ノ勞力者ヨリ低下ノ勞銀ヲ受クルノ事實アルヤ將タ何故ニ舊國ハ原料ヲ輸入シ製品ヲ輸出シ新國ハ原料ヲ輸出シ製品ヲ輸入スルノ事實アルヤ此等ノ經濟現象ハ到底人口増加ノ永久的傾向ヲ認ムルニアラサレハ説明スヘカラサルナリ

第五節 地代論

マルサス氏カ價值分配ノ不平等ニ注目シテ貧民困難ノ原因ハ人口増加ノ自然ニアリト断定シタルニ尋イテ他ノ一因ヲ發見シタルモノハダビツドリカイド氏(千七百七十二年乃至千七百八十三年)ナリ氏ノ傑作ハ千八百十七年ノ著經濟及課税ノ原理ト題スルモノニシテ就中時代論ヲ以テ後世最モ著名ナリトスル所ナリ

氏ハ先ツ地代ノ定義ヲ下シテ曰ク地代ハ土地ノ固有ニシテ且ツ不滅ナル力ヲ使用スル爲メニ地主ニ拂フ所ノ代價即チ土地ノ自然力ニ對スル報酬ノミト斯克ラ氏カ地代ノ起因ヲ説明スルニ曰ク抑モ土地ナルモノハ地味地位即チ自然力ノ異同ニヨリテ其效用ヲ異ニスルカ故ニ同量ノ資本ト勞力トヲ投スルモ其報酬ハ必スシモ相同キヲ得ス一町十石ノ收穫ニ止マル所アリ一町二十石ナルアリ三十石ナルアリ四十石ナルアリ五十石ナルアリ此中一町五十石ノ田地ヲ以テ一等地トスレハ一町四十石ノ田地ハ第二等地ニシテ一町三十石ノ田地ハ第三等地一町二十石ノ田地ハ第四等地一町十石ノ田地ハ第五等地トシテ最下田ト謂ハサルヘカラス而シテ此等ノ上下相異ナレル田地ハ如何ナル順序ニ於テ使用セラレハヤト

云フニ人ノ此土ニ生存スルヤ其初メハ必ス地味地位ニ於テ上田ト稱スヘキ第一等地ヨリ耕作ヲ行フモノナルハ論ヲ待タス後チ社會人口ノ益増加スルニ從ヒ食物ノ不足ヲ告クルニ及ヘハ勢ヒ地質地位ノ劣レル第二等地ヲ耕作セサルヲ得ナルヘシ斯克ノ如ク人口ノ増加食物ノ不足ニ伴フテ第三等地第四等地第五等地ト云フ順序ヲ以テ耕境ハ益々下降スヘキナリ今理論上ノ想像ニヨリテ耕境ノ上位ナル第一等地(例五ハ一)ノ耕作ヲ以テ足レル時代アリトセンカ此場合ニハ未タ地代ナルモノ生スルニ由ナシ地代ノ起ル所ハ實ニ其耕境ノ一下降シテ第二等地ノ耕作セラル、點ニアリ人口増加シ食物不足シ劣等ノ耕境ヲ擴張スルニアラスンハ充分ノ食物ヲ供給スル能ハサルニ及ハ、穀價必ス騰貴シテ(例五ハ一)五十石ノ代價四十石ニシテ(例五ハ一)劣等地生産ノ結果モ利益アルニ至ルヘシ即チ同量ノ資本ト勞力トヲ使用シテ却テ四十石ヲ得ルニ過キサル第二等地ト雖モ之ヲ耕作シテ賣却スレハ農利アルニ至ルヘシ何トナレハ同種ノ穀物ハ其生産費ノ多少ニ拘ラズ同一ノ市場ニ於テ唯一ノ價格ヲ有スルモノナレハナリ然レトモ其農利ハ生産入費ト相當ノ利潤トアルノミニシテ他ニ何等ノ餘裕ナキカ故ニ此第二等地ニハ地

代ナルモノナカルヘシ若シ尙ホ地代アリトスルトキハ農業者ハ相當ノ利潤ヲキカ故ニ之ヲ耕作セサルヘケレハナリ之ニ反シテ第一等地タル五十石ノ田地ハ四十石ノ第二等地ニ比シテ十石ノ剩餘ナリ故ニ農民ハ相争フテ之ヲ耕作セントスルナルヘシ此競争ニヨリテ茲ニ地代ヲ生ス蓋シ此場合ニ於テ農民ハ十石ノ剩餘アルヲ以テ此十石丈ハ地主ニ對シテ地代ヲ提供スルモ尙ホ四十石ノ剩餘アリナ此類ハ第二等地ノ收穫ト同一ナレハナリ斯クノ如クニシテ人口増加シ食物不足スレハ第二等地(四十石ノ田地)十石ノ地代ヲ生セシメンカ爲メニ三十石ノ第三等地耕作セラレ此第三等地ニ十石ノ地代ヲ生セシメンカ爲メニ第四等地耕作セラレ第四等地ニ十石ノ地代ヲ生セシメンカ爲メニ第五等地耕作セラレ此第五等地即チ僅ニ十石ノ收穫アル田地ヲ耕シテ尙ホ相當ノ農利アル時ニ及ヒ願テ第一等地ノ地代ヲ見レハ四十石ノ地代トナリ第二等地ハ三十石ノ地代トナリ第三等地ハ二十石ノ地代トナリ第四等地ハ十石ノ地代トナリ而シテ最下田タル第五等地其レ自身ハ單ニ相當ノ農利アリテ僅ニ耕作シ得ルノミニシテ別ニ地代ナルモノアルヘカラサルナリ今之ヲ表示セハ左ノ如シ

地品	生産力	地代	利益
五等地	十石	○	十石
四等地	二十石	十石	十石
三等地	三十石	二十石	十石
二等地	四十石	三十石	十石
一等地	五十石	四十石	十石

此表ニ示メスカ如ク一等地ノ耕作者ハ地代四十石ヲ納ムルモ尙ホ無地代ノ五等地ト稱シク十石ノ相當利益ヲ得ルモノナリ故ニ若シ地代ニシテ一等地ニ對シテ十石以下ナルニ於テハ人皆争フテ之ヲ耕作セントシ終ニ四十石ノ地代ニ至リテ止マルヘキナリ此四十石ナル地代ハ即チ第五等地ノ産額十石ト一等地ノ産額五十石トノ差額ニシテ其基ク所ハ全ク資本及ヒ勞力以外ノ地味地位即チ自然如何ニ存スルモノナリ

既ニ地代ハ地味地位ノ懸隔ニヨリテ生スル天然ノ恩惠ニシテ最下田ノ産額ト其以上ノ各等地ノ各産額トノ差ナルカ故ニ之ヲ得ル所ノ地主ハ無勞偶然ノ伴利ヲ

得ツ、ナルモノナリ此地主ニ歸スル偶然ノ俸利ハ社會進步シ人口増加スルニ從テ益増大ヲ來タスモノナルニ反シ日夕流汗劬勞シテ手足ヲ耗消スル勞働者ノ賃銀ハ人口ノ増加ノ爲メニ却テ益減少ス果シテ然ラハ富ハ益富ミ貧ハ益貧ナル自然ノ作用ト云フノ外ナキナリ物ハ自然ニ價格ヲ有スルモノニアラス勞力ヲシテ價格アラシムルナリ天下如何ナル貨物カ勞力ナクシテ之レカ價格ヲ有スルモノヤアル天下ノ價格ハ實ニ勞力其者ナリト謂フテ可ナリ然ルニ價格ノ基礎タル勞力ノ報酬ハ益減少シテ却テ無勞力ナル地主ニ於テ報酬ノ増加止マスト云フハ豈不法ノ至リナラスヤ云々ト

第六節 勞銀基金說

勤勞ハアダムスミスニ依リテ價值ノ本體トセラレテヨリマルサスノ人口論ニヨリテ直接ニ其研究ヲ豫言セラレリカードノ地代論ニヨリテ間接ニ其ノ報酬(勞)ノ減少ヲ證明セラレタリト雖モ英國ノ碩儒ジョン・スチュワード、ミルニ至ルマテハ未タ書ク之カ爲メニ何等ノ政策ヲモ呈出シタル者ハアラサリシナリ、ミル氏ハ千八百六年ヲ以テ英國ニ生レ其二十三歳ノ時即チ千八百四十四年ニ於テ「經濟學上

ノ未定問題」ヲ著ハシ後チ千八百四十八年ニ及ンテ「經濟原理及ヒ其社會哲學」ニ關スル應用ヲ著ハセリ氏ハスミス、リカードノ流ヲ汲ミ其先說卓論ヲ集綜シテ以テ一大經濟學ノ建成ヲ奏シタルカ爲メニ英國學派中殿軍ノ將ト稱セラレ而シテ其論及スル所ノ範圍ハ素ヨリ經濟學ノ各問題ニ通涉セリト雖モ專ラ時世ノ救濟トシテ特色ヲ呈スルモノ、一ハ實ニ氏ノ勞銀基金說ナリトス

氏ハ經濟學ニ付キ生産論ト分配論トヲ劃然區分シ生産理法ハ主トシテ人力ノ左右スヘカラサル天然現象ヲ支配スル一定不變ノ天賦タルコトスミス等ノ先言セラル所ノ如シト認メシト雖モ分配ノ理法ハ社會ノ進步發達ト共ニ其方法變動スヘクシテ人爲ノ法律及ヒ規約ニヨリテ左右スルコトヲ得ヘシト主張シ資本ト勞力ト其報酬ニ係ル分配ノ關係ハ特ニ然ラサルヲ得スト斷言シタルカ如シ今氏ノ勞銀基金說ナルモノヲ見ルニ其要點ハ左ノ件々ニ歸スヘシ

曰ク勞銀ハ人口ト資本トノ比例ニ因リテ定マル詳言スレハ勞銀ヲ取リテ備役セラル、勤勞者ノ數ト勞銀ニ充ツル富ノ總額ノ多少トニ從ツテ普通勞銀ノ額ヲ決定ス抑モ或時或國ニ於テハ勞銀ノ仕拂ニ充ツヘキ爲メニ貯蓄セラル、富

アリ此富ノ額ハ其國ニ於ケル總資本ノ一部ニ相當ス而シテ其資本總額ト其中
 日ヲ勞銀ノ仕拂ニ充テラルノ部分トノ割合ハ常ニ必スシモ同一ナラス產業ノ
 有様及ヒ人民ノ習慣ニ依リテ時々ニ變動スヘシ然レトモ或ル一定ノ時ニ於テ
 ハ其勞銀部分ノ額ハ資本ノ額ニ依リテ決定セラル、ト云フテ可ナリ之ヲ一定
 所一定時ニ於ケル勞銀基金トス此勞銀基金ハ異時ノ比較ヲ以テ之ヲ云ヘハ増
 減スルコトアルヘキハ勿論ナリ、雖モ一定ノ時ニ於テ之ヲ云ヘハ固定ノモノ
 ナリ此固定ノ額ハ經令法律ニ依ルモ民意ニ依ルモ將タ僱主ノ情愛ヲ以テスル
 モ若クハ勞力者ノ請求及ヒ奮力ヲ以テスルモ決シテ之ヲ變動セシムルコトヲ
 得ス斯ノ如ク勞銀基金トシテ固定セル額ハ自由競争ニ依リテ唯分配セラル、
 ノミ即チ一ノ勞力者ニシテ多額ヲ占ムルトキハ他ノ勞力者ハ少額ヲ得テ止マ
 サルヘカラス若シ然ラザラント欲セハ彼ハ全ク業ヲ絶タサ、ルヘカラサルナ
 リ何トナレハ勞銀基金ハ固定ニシテ各勞銀ハ其中ニ於テ競争分配ヲ爲スノ外
 ナケレハナリ此固定額ノ全部カ損耗ナク分配セラレテ而シテ其各勞力者ノ受
 取ルヘキ平均額ヨシ是レ眞ニ勞銀ナリ故ニ結局ハ勞銀基金ト勞力者ノ數トノ

間ニ存在スル割合ニ依リテ勞銀ハ決スルモノナリ果シテ然ラハ此勞銀基金ノ
 増加スルカ又ハ勤勞者ノ減少スルカニ非ヌハ勞銀ハ決シテ騰貴セス同理ニ
 ヲリ勞銀基金ノ減少スルトキ又ハ勤勞者ノ増加スルトキハ勞銀ハ必ス下落セ
 ラルヲ得サルヘシ

故ニ自下ノ貧民ヲ救済スルノ政策ハ如何ニシテ此勞銀基金ヲ増殖スヘキヤノ
 外更ラヒ人口ノ制限ヲ計ラサルヘカラサルナリ蓋シ勞銀基金ノ増加ニ付キテ
 救済稅ヲ起シテ貧民ニ職業及勞銀ヲ附與スルノ方法ナキニアラス勞銀補助法
 ヲ設ケテ勞銀ノ不足ヲ補助スルノ方法ナキニアラス又ハ土地配當法ニヨリテ
 勞力者ヒ自力ヲ以テ勞銀ノ不足ヲ補ハシムルノ途ナキニ非ヌ或ハ私人ノ慈善
 ヲ獎勵シテ勞銀基金ノ増加ヲ計ルモ可ナリ何トナレハ國家及ヒ社會ハ既ニ生
 存スル貧民ニ對シテ之ヲ救助スルノ義務アルコト何人モ疑ヲ容レサル所ナレ
 ハナリ然レトモ以上ノ諸方法ヲ以テ一般ニ貧民ヲ救助セントスルトキハ却テ
 人口ノ増加ヲ促カシテ益々勞銀ノ下落ヲ來スヘキニアラスヤ故ニ根本ノ救済
 政策ハ人口制限ノ一法アルノミ云々ト

要スルニミル氏ハマルサスノ人口論及ヒリカドノ地代論ニ一步ヲ進メテ勤勞報酬ノ増加並ニ人口制限ノ政策ヲ掲ケ來リ自由放任ノ正統學派ヲ脫離シテ以テ僅ニ近世ノ社會主義若クハ獨逸新學派ニ近ヅキ到ラントスルノ姿勢ヲ呈セリ氏カ晩年ニ於ケル自叙傳中吾人ハ富者ト勞働者トノ併立セサル社會ニ達センコトヲ期ス勞働セサル者ハ飲食セサルモノナリトノ規則ハ萬人公平ニ適用セラレンコトヲ望ム勞力ノ結果タル生産物ノ分配權ハ誕生ニヨリテ決セラレシテ正理ニヨリテ決セサルヘカラストアルモノ、如キ之カ一證タラスンハ非ス然レトモ氏ハ價值ノ觀念ニ就キテ個人ノ價值ハ必スシモ社會ノ價值ニアラストノ初一念ヲ感シタル迄ニシテ未タ夫ノ獨逸新學派ノ如ク國家干涉ノ必要ヲ主義トシテ充分ニ確證シタルモノニアラサルナリ故ニ稱スミル氏ハ一脚ヲ正統學派ニ留メテ他ノ一脚ヲ社會主義ニ投セリト面シテ此二主義ノ間ニ氏カ躊躇セルノ形蹟ハ之ヲ蔽フニ由テキヲ見ルナリ

第七節 社會主義及ヒ社會政策

個人ノ價值ハ必スシモ社會ノ價值ニアラスト國家ハ社會ノ價值ハ爲メニ個人ノ價值ニ干涉セサルヘカラスト云フ意味ヲ以テ國家干涉ヲ主張シタルモノハ之レ即チ社會主義ナリトス

社會主義ナル名稱ハ佛人ピエールルロイ氏カ千八百三十八年ニ當時佛國革命ノ餘勢トシテ隆盛ヲ極メタル自由主義及器械其他技術的發展ノ結果トシテ産業上優勢ヲ占ムルニ至レル資本主義ニ反對シテ唱ヘタル用語ニシテ爾來幾多ノ流派ヲ生スルニ從フテ廣狹諸種ノ意義ヲ有スルニ至レリト雖モ其相一致スル所ノ標榜的大目的ニヨリテ何レノ流派ニモ共通シ得ヘキ意義ヲ求ムレハ社會主義トハ社會ヲ本位トシ社會ノ幸福ノ爲メニハ國家カ經濟方法(生産分配及消費ノ方法)ヲ支配スルヲ是認シ之カ爲メ個人本位ノ經濟方法ヲ制限スルモノ可ナリト爲スモノノ如シ獨逸ノラゲネル氏ハ社會主義ハ社會全體ノ需要ニ依リ國家カ個人ノ社會的及經濟的生活ヲ支配スルヲ是認スル主義ナリト云ヘリ余カ氏ノ定義ヲ採ラサル所以ハ社會的ト經濟的トハ區別スルノ要ナキノミナラス此主義ハ國家カ租稅政策ニ於ケルカ如ク國家又ハ自治體ノ經濟的生活(余カ氏ノ經濟方法ニモ)ニモ支配ヲ及サンコトヲ主張スルモノナルヲ以テナリ其ハ兎ニ角ニ目的ハ此點ニ於テ殆ント一致セリ然トモ

此目的ヨリ案出シタル方法及其論據ニ至テハ各派自ラ相異ナレリ佛人サヴシモ
 ヲ氏(千八百七十五年)フリールリエ氏(千八百七十三年)及ヒ英人オーエヴ氏(千
 八百二十年)ノ如キハ尙宗教的若クハ道德的社會主義タルヲ免レサリシナリ何トナレ
 ハサヴシモヴ氏ハ自ラ「新きりすと主義」ト稱シ「きりすと」教ノ同胞主義ヲ産業ニ適
 用シテ國王ノ監護スル中集の産業國家ヲ組織セヨト主張シフリールリエ氏ハ新
 産業ト稱シテ労働ハ人ノ天性ニシテ愉快ヲ生スルモノナルカ故ニ共任的労働國
 家ヲ組織セハ産業發達スヘシト主張シオーエン氏ハ新道德世界ト稱シ競争ニ
 代アルニ共働ヲ主張シ教育ヲ獎勵シ道德ノ基礎ニ於テ労働ノ新國家ヲ組織シ勞
 働量ニ從フテ労働手形ヲ發行シ貨幣ニ代ハリテ交換ノ媒介タラシムヘシト論シ
 何レモ自由ノ經濟ヨリ起レル弊害ヲ緩和シ個人的世界産業戰爭ノ爲メニ亂レタ
 ル一致ヲ救復セシ爲メニ宗教上又ハ道德上ノ基礎ニヨリ一般の平和國家ヲ組織
 シテ國際共ニ之ヲ保護セヨトシタルモノナレハナリ次ヲ千八百四十八年佛國第
 三ノ革命ニ際シ佛人ルイブラッナル者アリ當時政治上ノ革命カ人ノ權利ヲ主張
 セル如ク氏ハ經濟上ノ革命トシテ労働ノ權利ヲ主張シ國家ハ労働團體ヲ組織ス

ルノ義務ヲ有スルカ故ニ國家ハ國民工場ヲ設ケテ共働組織ヲ大成シ國家自ラ最
 大資本家トナリテ充分ニ資本家ト競争スヘシ然スルトキハ資本ト労働トノ衝突
 ハ遂ニ其形影ヲ亡フニ至ルヘシト論シ政治上ノ共和主義ト合同シテ革命ノ氣運
 ニ加ハリ宗教又ハ道德上ノ基礎ヲ離レテ茲ニ謂ユル共和的社會主義(又ハ社會主義
 云)ヲ確立セリ爾後佛國ノ社會主義ハ政治上ノ革命ト共ニ佛國ヨリ他ノ歐洲諸國
 ニ傳播シ白耳義ニ現ハレ瑞西ニ移リ遂ニ獨逸ニ入りテ其眞窟ヲ定ハルニ至レリ
 社會主義ノ眞窟ヲ以テ稱セラレタル獨逸ニカールマックスナルモノ起レリ氏ハ
 千八百五十九年ニ於テ經濟學評論ヲ著ハシ千八百六十七年ニ至リ資本論ノ名ノ
 下ニ之ヲ大成シ政治上ノ黨派ニ屬シタル舊來ノ社會共和主義ヨリ一進シテ純然
 タル科學的ノ社會主義ヲ主張シ價格ハ社會必要ノ結晶的勞力ナリト云フ經濟學
 上ノ價格論ヲ根據トシテ立脚セリ此價格論ハスミス及リカイド等ノ労働主義ト
 一致スルモノナリ故ニ氏ハスミス及リカイドノ労働主義ヨリ立脚シテ遂ニ其結
 論ハ意外ニスミス及リカイドノ自由主義ニ正反セリト稱セラル斯クノ如クニシ
 テ千八百六十四年謂ユル國民労働團體ノ首領トシテ資本主義及契約労働ヲ攻撃

シ其主要原因タル私有財産制度中尤モ獨占ニ陥リ易キ資本及土地ニ關スルノ共
産主義ヲ唱導シタリ

今試ニマールクス氏ノ立論ヲ約抄スレハ凡ソ左ノ如シ

價格ナルモノハ單ニ社會ニ必要ナル勞力ノ分量ニ外ナラス勞力ノ分量トハ價
格ヲ決定スヘキ有用價值ヲ作成スルニ要スル勞働ノ時間ヲ謂フノミ故ニ凡ソ
貨物ニシテ之ヲ生産スルニ同一ノ勞働時間ニ要スルモノハ必スヤ同一ノ價格
ヲ有セサルヘカラサルナリ然ルニ今ヤ己ンセル哉價格ハ勞力ノ分量ニ依リテ
決定セラレスシテ市場ノ需要供給(變換的)ニ依リテ決定セラレ一種ノ標準(實)ニ
依リテ計算セラル、カ故ニ價格ノ全部ハ勞力者ノ手ニ歸スルコトナキニ至レ
リ試ニ見ヨ綿布數反ヲ市場ニ賣却スル者ハ勞力者ニ勞銀ヲ仕拂フノ餘ニ於テ
巨額ノ收入ヲ取得スルニアラスヤ今夫レ勞力者ハ自己並家族ノ生存發達ニ要
スヘキ生産物ヲ作成スルニ僅々一日ニ六時間ノ勞働ヲ以テシテ足レリ然ルニ
彼等カ現ニ其衣服ヲ買取ランカ爲メニ十時間ノ勞働ヲ爲サ、ルヘカラサルハ
事實ナリ果シテ然ラハ此四時間ノ剩價ハ(Mehr worth)何レノ所ニカ適歸スル間

フマテモナク彼等ノ使傭主又ハ此使傭主ニ資本ヲ貸付クル資本家又ハ使傭主
兼資本家タル者ノ手ニ適歸スルナリ此事實ヨリ推ストキハ勞力及資本ニ關ス
ル現行制度ハ佛人ブルードン氏(一千八百六十五年)ノ所謂掠奪ノ組織ナリ抑、勞
力者ハ日々勞働シ以テ社會ノ爲メニ新勞力者ヲ生育シ僅カニ勞力維持費ヲ償
フニスラ足ラザラントスル底ノ額ニ止マル如キ傾向アリトセハ社會ハ如何ニ
シテ將來ノ勞力者ヲ得ルノ望アルヤ資本家ナル者ハ實ニ掠奪者ナリ此掠奪者
ハ亦他ノ爲メニ掠奪セラレテ然ルヘキノミ嗚呼勞力者ト使傭主トノ自由契約
ヲ以テ勞銀ノ決定セラル、間ハ徒ラニ掠奪競争ヲ見ルノミニシテ正當制度ノ
存在到底得テ期スヘカラサルナリ換言スレハ物的生産要具(土地及)ニシテ私人
ノ手ニ占有セラル、間ハ萬事殆ト爲スヘキナキナリ爰ニ於テカ此現行産業制
度ノ弊害ヲ救正スヘキ唯一ノ方策ハ實ニ私有財産制度ノ破壞ニ限レリ私有財
産制度ヲ粉碎シテ物的生産要具ノ私有者ニ代ハリ國家又ハ國家監督ノ下ニ成
立スル團體之ヲ有シ社會ニ於ケル市民各種ノ階級ヲ解キテ勞力者唯一ノ階級
トナシ彼等ヲシテ直接間接ニ國家ノ爲メニ勞働シ國家ノ決定スル所ニ從テテ

勞銀ヲ受取ラシムルヲ要ス而シテ其勞銀ノ額ハ其勞働時間ニ應シテ之ヲ優給
シ依テ以テ將來ニ於ケル勞働永續ノ利益ヲ計リ又併セテ國家ノ爲メニ此制度
ノ維持費用ヲ見積ルヘキナリ云々

マックスノ指導ノ下ニ人ト爲リ獨逸ニ於ケル共和的社會主義ノ創設者トシテ千
八百六十三年勞働組合ヲ組織シタル者アリ之ヲフエルヂナンドラウツナル(一千八
百六十四年)ト云フ氏ハ氏ニヨリテ有名ナル勞働ノ鐵則ニ關シテ述ヘテ曰ク勞
働者ハ貨物ト同様ニ市場ノ相場ニ從ヒ實銀ヲ上下セラレ之ニヨリテ勞力者ノ數
ヲ増減セラレ結局勞銀ハ自然ト低落スト云ヘル猛烈ナル勞銀鐵則ノ行ハル、間
ハ幸福ヲ回復スヘキ望ヲケン此鐵則ヲ破ラント欲セハ茲ニ協同作業ヲ計畫シ大
規模ヲ以テ之ヲ組織シ資本家ト競争セタルヘカラス之ニ付キ政府ハ一億、ターレ
ルノ資本ヲ無利子ニテ勞働組合ニ貸付クルヲ要ス云々
獨逸ニ於ケル社會共和主義者ノ一人トシテ更ラニ有名ナルモノアリロイドベル
チユス氏(一千八百七十年)其人ナリ氏ハ私有財產制度ヲ漸次變更スルコト、爲シ
先ツ國家ハ勞働者保護ノ爲メニ勞働ノ標準時ヲ定メ勞働率ヲ規定シ以テ漸次ニ

社會ノ現状ヲ改革スヘシト主張セリ最近ノ獨逸國家社會主義又ハ購置社會主義
ナルモノハ或ル部分ニ於テ正ニ氏ノ餘流ヲ汲ミタルノ形蹟歷然タリト云フヘシ
惟フニ價格ハ勞働ナリトノ論據ハ若シ其勞働ナル意義カスミス氏等ノ說ノ如ク
廣義ニ於ケル一切ノ勤勞ヲ指稱スルモノナランニハ敢テ不當ナリト云フヘカラ
サルモマックス氏ノ如ク資本家及事業主ニ對スル勞働者ノ勞力ノミヲ指稱スル
ニ於テハ蓋シ大ニ誤レリト云ハサルヘカラス此論據ニシテ既ニ誤レリトスルト
キハマツクス氏ノ所謂利價ヲ取得スル資本家又ハ事業主ハ必スシモ偷盜ナリト
云フヘカラス從ツテ掠奪ニ對スル掠奪トシテ私有財產制度ノ撤廢ヲ主張セント
シタルマックス氏等ノ鐵案ハ頗ル薄弱ノモノトナラサルヲ得ス或ハ云ハン論據
ハ誤レリト雖モ私有財產制度ノ撤廢ハ現行經濟上及政治上ニ於ケル百弊ヲ除却
スル唯一ノ手段ナラスヤト余ハ之ニ關シテ多ク言ハス唯簡單ニ斷言スヘシ私有
財產制度ハ單純ナル人爲制度ニアラス人ハ鳥魚ノ如ク水日光空氣ノ自由物ノミ
ヲ以テ生存シ得サルコト並ニ其生存用品ハ人口増殖ニ比シテ増加ノ歩合遅々タ
ルコト此二ノ自然的事情ニ伴フ必然ノ結果ニシテ唯自然的制度ナリト此自然的

事情ニシテ消滅スルニアラサルヨリハ私有財産制ノ撤廢ハ到底行フヘカラサルナリ

第八節 國家社會主義

極端ナル改革ヲ避ケテ共和社會主義ヲ一方ニ排シ他方ニ自由競争ノ弊害ヲ唱ヘテ英國派ノ個人主義ヲ斥ケ歴史ヲ基礎トシテ經濟理法ノ相對的ナラサルヘカラサルヲ主張シタル歴史派ノ勢力ハ千八百七十年普佛戰爭ノ後獨逸帝國新立セラレ獨逸伊三國同盟ノ成立シタルニ伴ヒ政治上ニ於ケル統一主義ノ勃興ト一致シ獨逸ヲ中心トシテ獨逸ニ傳波シ社會主義ノ一部ヲ容レテ千八百七十二年ワグネルシエモラーノ徒アイゼンナツハノ會議ヲ開キ此會議ニ基キテ社會政策學會ヲ建設シ價值分配ノ不平均ナルハ自由競争ノ結果ナルカ故ニ之ヲ救済スルヘ個人ノ自由競争ニ委スヘカラス國家ノ助力ニヨリテ解決セサルヘカラストナシ遂ニ獨逸ニル國家社會主義ナルモノヲ唱導シタリ

國家社會主義ハ斯クノ如クニシテ歴史派ヨリ生マレ歴史ニ依リテ現存社會秩序ノ悉ク改廢スヘカラサルヲ認メ其健全ニシテ重要ナル私有財産制及家族制度ヲ

保存スヘキモノト爲シタルト同時ニ此上ニ行ハル、自由競争ハ價值分配ノ不均一ヲ結果スルモノトシテ之ヲ疾視シ之ニ對スル政策トシテハ最早ヤ英國派ノ自由競争ヲ採ルヘカラストシテ獨逸ノ社會主義ノ一部ヲ採リ歴史主義ト社會主義トヲ調和シテ社會格段ノ事項ニ關シテ所謂社會改良政策ヲ實行セントスルモノニシテ其共和社會主義ト異ナレル要點ハ私有財産制度及家族制度ノ如キ歴史的秩序ヲ改廢セスシテ之ヲ保存シ利用スルコト並ニ國民一切ノ擁護ヲ目的トスル新團體ヲ組織セスシテ國民ノ一部ヲ補助スルノ目的ヲ以テ格段ノ事項ニ改良ヲ加フルニ止マルコト是ナリ然レトモ其謂フ所ハ此國民ノ一部タル競争上ノ弱者ヲ補助シテ之ヲシテ機會ノ均霑ヲ恢復セシメ以テ社會全體ヲ健全ニシ其安全ヲ永遠ニ保障スルニ在リト云フニ存セリ

國家社會主義ノ謂ユル社會改良政策ナルモノハ各社會格段ノ事項ニ關スル相對的ノ改良方策ナルカ故ニ之ヲ概論スヘカラスト雖モ左ニ掲クル諸方策ノ如キハ其多數ノ標榜トスル所ナリ

- 一 國家ハ自由競争ヨリ結果スル身體及ヒ智識ノ不平均ヲ矯正スヘシ謂ユル

工場條例、婦女幼兒保護法、強制保險法、強制教育ノ制度ノ如キハ之ニ處スヘキ
適切ノ方法ナリ

二 國家ハ自由競争ヨリ結果スル財産不平均及之ニ伴フ細民ノ狀態ヲ矯正ス
ヘシ謂ユル租稅改良、貯金獎勵、產業組合、小作人保護、殖民救助、殖民獎勵、行商保
護ニ關スル制度ノ如キハ之ニ處スヘキ重要ノ方法ナリ

三 國家ハ自由競争ヨリ結果スル企業ノ獨占ヲ除却スルニカメサルヘカラス
蓋シ鐵道、汽船、瓦斯、水道其他大資本ヲ要スル公益事業ノ如キハ自由競争ノ結
果合同トナリ合同更ニ結晶シテ獨占トナリ公益ヲ省ミス物價ヲ昂進シ社會
ヲシテ殆ト其弊ニ堪ヘサラシムルニ至ラン故ニ國家ハ之ニ干渉シ監督スル
ニ止メスシテ或ハ自ラ取リテ官業トスルモ可ナリ將タ之ヲ國有トスルモ不
可ナシト

國家社會主義ノ代表者ハ理論ニ於ケルモノト實行ニ於ケルモノト別アリ其理
論ニ於テ代表スルモノハ開ユル講壇社會主義者(Katheder Sozialisten)ナルモノニシ
テ獨逸ノグスマツフ、シエモラー、アドルフ、ラグネル、ルロブレンタノ、ロエスレル等

之ニ屬ス講壇社會主義ナル名稱ハ千八百七十二年ニ於テオッペンハイムナル新聞
記者カ獨逸ノ青年博士タル經濟學者ノ一群ニ與ヘタル紳名ナリシラ此派ノグフ
ツフシエモラー、氏カ同年アイゼンナ、ハノ會議ニ於ケル公開演說中ニ採用シタル
ニヨリテ人口ニ暗炙セラル、ニ至レリト云フ彼等ハ革命的改廢ヲ希望セサルコ
ト竝ニマークス氏ノ利價論ラツナル氏ノ勞銀論則理論上ヨリ排斥スルコト
ニ於テハ互ニ相一致セリト雖モ論究ノ方法ニ關シテラグネル氏トシエモラー、氏
トハ全ク相一致セスラグネル氏ハ其著一般及理論的國民經濟學(七千八百)ヲ見ル
ニ一般抽象ノ原理原則ヲ建設セント力メ之ニ反シテシエモラー、ハ其著國家及社
會學論ヲ見ルニ極端ナル歴史派ニシテ現狀ノ保持ヲ力メントスルノ蹟多シ此思
想ハ獨リ獨逸ニ止マラスシテ埃國ノシエフレ、氏ノ如キ其著社會團ノ建設及生
活ニ於テ之ヲ代表シ英國ニ於テモ晩年ノ三氏及其門人クワツフ、リスレー、及イン
グラム氏ノ政府干渉ノ辯護ヲ爲シタル如キ亦是レ國家社會主義ノ理論ヲ代表ス
ルモノト云フヘシ

次ニ此主義ノ實行ヲ代表スル者ハ獨逸ニ於テピスマルタ公ノ有名ナル保護立法

竝ニ一層著名ナル國家強制保險法及老年恩給制度ヲ最トシ英國ニ於テモロイド、
シヤフト、パリー氏ノ工場法グラット、ストン氏ノ愛倫土地條例又ハ同國近時ノ立
法ニ屬スル職工疾病賠償法、瓦斯點燈及水道事業ノ公有ノ如キ亦此主義ノ實行ト
見做スヘキモノトス

惟フニ此等ノ學派ハ一方ニ於テヘーゲル及他ノ哲學者ヨリ地方ニ於テハ普魯士
王政ノ官局的歴史ヨリ國家ニ關スル絕對高尚ノ觀念ヲ注入セラレ之ヲ適用スル
ニ當リテロジエル氏一派ノ歴史相對說ヲ基礎トシテ出立シ新ナル社會事情ノ歴
力竝ニ社會共和運動ノ刺激ヲ受ケ獨逸帝國ノ新建設ノ爲メニ鼓舞セラレテ頗ル
堅牢ノ確信ヲ有スルニ至レル所謂武裝的歴史派ナリト云フヘキナリ
惟フニ新學派カ個人ノ價值ハ必スシモ社會ノ價值ニアラストノ觀念ヲ開キタル
ノ形蹟ヲ存スルノ一點並ニ之ヲ伸フテ格段ノ事項ニ關シ提案シタル救濟政策ノ
或ルモノハ是レ其舊學派ニ對シテ優位ヲトスル所ナリト雖モ性々其廣告ヲ誇大
ニスルコトアルニ至リテハ吾人殆ト商賈ノ開業ヲ觀ルノ感ナキ能ハス其店頭ヤ
球燈懸カリ人衆群ヲナスト雖モ陳列スル所ノ裝置ト商品トハ僅ニ其二三ヲ除ク

ノ外皆之ヲ舊來ノ老舖ニ仰キ自家ノ創意ニ成ルモノ甚タ乏シキカ如キナリシテ
ツタ氏曰ハク新學派ハ吾人ニ屢々珍味ヲ約スト雖モ吾人ハ未タ新學派ノ珍味ニ接
セスト吾人亦タ深ク此感ニ堪ヘサルナリ

第二卷 純正經濟學汎論

第一章 經濟學字義ノ沿革

抑モ經濟(Economy)ナル文字ハ希臘ニ於テ家計ノ管理殊ニ一家歳入ノ準備及ヒ管
理ノ意義ニ使用セラレタリシカ其家計上ノ歳入ヲ取得シ之ヲ使用スルニ當リカ
メテ勞力及ヒ產物ノ損消ヲ避クルヲ以テ必要ナリト認メラレ之カ爲メ此文字ハ
最少ノ出費ニ依リ所望ノ結果ヲ得ントスルノ主義及ヒ方法ヲ示メスコト、ナリ
生産分配及ヒ消費等ニ直接ノ關係ヲ有セサル意義ニモ使用セララル、ニ至レテ例
ヘハ吾人ノ今尙ホ往々耳ニスルカノ經濟若クハ時ノ經濟ト云ヘル如キハ即チ是
レナリ然レトモ此種ノ意義ハ單ニ俗用タルニ過キスシテ素ヨリ學術上ノ正用ニ
アラサルカ故ニ余輩今深ク追究スルノ要ナカルヘシ然ルニ又一家ノ歳計ト政府
ノ歳計ト相類似スルモノアルカ爲メ既ニ希臘ニ於テ政府ノ術又ハ金錢事務ヲ表

示スル語用トシテ「經濟」ニ對シ政治的經濟(英語ノ Political Economy)ナル文字ヲ新用シタルヲ見ル此新用ニ於テハ經濟學ヲ以テ國庫ノ補充ヲ目的トシ並ニ此ノ目的ヲ達スルノ手段トシテ一國ノ産業及ヒ貿易ニ周到ナル保護干涉ヲ加ヘ一國ヲ富裕ニスルノ政府術ナリト認メタルモノナリ茲ニ於テ經濟學ハ國家財政上ノ目的ト國民産業上ノ目的トノ二大目的ヲ有スル一ノ政府トナレリト云フヘシ然ルニ之レカ反動トシテ十八世紀ノ後半ニ至リ佛國經濟學者ケネー氏及ヒドラッピエール氏等ノ感化ニヨリ政治的經濟學ナル觀念ハ根本的ノ改革ヲ受テ政治的經濟學ハ如何ニシテ一國ヲ富裕ナラシムヘキヤノ問題ニ答フヘキ職分ノミヲ有スルモノトセラレ自然法派ハ之ニ答ヘテ凡ソ政治家タル真正ノ職務ハ富ヲ増進スルノ目的ヲ以テ産業及ヒ貿易ニ關スル法律ヲ作爲スルニ存セス唯タ簡單ニシテ而カモ不職ナル自然法ヲ保障シ其ノ法則ノ侵害ヲ防護スルヲ以テ足レリ何トナレハ富ノ生産ハ政府ニシテ若シ干涉スルコトナクシハ必ス自然ハ最良ノ發達ヲ爲スヘキモノナレハナリト云ヘリ此考案ハ甚ク空漠タルヲ免レサリシカ後アダムスミス氏ノ富國策ニ依リテ更ニ適切ナル敷衍ヲ得タリ氏ハ政治的經濟學ノ二大

目的ノ一タル富國ノ政府ニ關シテ政治家ニ對シ自然ニ放任スヘシト云フノ外何等ノ方策ヲモ顯示セス第二ノ目的タル國庫ニ歲入ヲ豊給スルノ方法即チ財政ノミヲ以テ政治家ノ必要欠クヘカラサル政府ナリトシテ之ヲ認メタリ氏ハ經濟ヲ以テ政府ニアラストシタルモ經濟學ヲ以テ原因結果ノ理法ヲ講究スルモノナリト斷言シタルモノニアラス然レトモ爾後經濟ハ政治家ノ術策ニ屬セスシテ單ニ自然ニ發起スル現象ナリトセラル、ニ至リシカハ經濟學ハ此現象ノ原因及ヒ結果ヲ研究スルノ傾向ヲ生スルコト、ナリシハ爭フヘカラサル事實ナリ人口論地代論ノ如キ之ヲ證シテ餘リアリト云フヘシ茲ニ於テカ政治的經濟學ノ一部ハ術タル歴史上ノ意味ヲ失フテ生産分配交換ニ關スル自然的行路ヲ研究スル學トナリ他ノ一部タル財政ハ別ニ諸般ノ經濟術ト共ニ應用經濟ナル題名ノ下ニ屬スルヲ致セリ斯ル變革ノ結果トシテ廣義ニ於ケル經濟學ハ學ト術トニ分レ狹義ニ於ル經濟學ハ術ニアラス學ニヨリテ研究セラル、事項及ヒ之ニ關スル理法ヲ指稱スルコト、ナレリ

學ト術トノ區別ハ直說式ト命令式トノ區別ニ外ナラサルコト一般ノ認ムル所ノ

如シ故ニ學ニ於テ法則ト稱スルモノハ命令的ノ規則ヲ意味スルニアラスシテ各現象間ニ於ケル事實及ヒ結果ノ一般關係ヲ意味スルハ勿論トス
 以上ノ所論ヲ要約スレハ經濟學ハ歷史上ニ於テ今日ハ術ニアラスシテ學トナレリト云フコトヲ得ヘシト云フニ歸ス然ルニ國民經濟學ナル名稱ノ下ニ一國一社會ヲ本位トシテ經濟現象ヲ觀察シ助長及ヒ救濟ノ方法ヲ訓示スルモノト個人經濟學ノ名稱ノ下ニ個人ノ利益ヲ本位トシテ經濟現象ヲ觀察シ個人自利心ノ行動ニ放任スヘキコトヲ訓示スルモノトアリテ名ヲ學ニ假リテ其ノ實ヲ術ニナサントスルノ傾向ヲ有セリ余輩ノ純正經濟學ハ單純ナル學ニ屬シ其範圍ハ說明ノ便宜上主トシテ一國內ノ現象ニ限ルト雖モ外國ニ於ケル現象及ヒ國內ニ於ケル現象カ社會ノ上ニ將タ個人ノ上ニ如何ナル結果ヲ及ホシ其影響並ニ一般的傾向ハ如何ナルヘキヤヲ解釋スルニ存シ助長及ヒ救濟ニ關シテモ單ニ之ヲ經濟上ノ現象トシテ其結果ノ社會及個人ノ上ニ如何ナル影響ヲ及ホスヘキヤヲ研究スルニ止マリ社會ヲ本位トナスヘキカ個人ヲ本位トスヘキカ對テ字内ヲ本位トスヘキカハ之ヲ觀察スル人ノ位地ニ依リテ異ナルヘキモノト爲スモノナリ

第二章 經濟學ノ主眼及ヒ定義

經濟學ノ定義ハ經濟學者ノ數ニ均シトハ當テ何人カ論評セル所ナリ以テ知ルヘシ古來經濟學者ノ現ハル、毎ニ個々各特ノ定義ヲ主張シ區々紛々未タ一定スルコトナキヲ宜ナリ初學ノ人ノ力適從ノ方向ニ苦ム者多キヤ然レトモ今強ヒテ此等ニ就キ小異ヲ捨テ、大同ヲ取り更テニ一般流行スル所ノモノヲ採擇スレハ殆ント相近似セル共通ノ定義ナルモノ無キニアラザルナリ
 英國學派ノ一般ニ採レル定義ニ依レハ經濟學トハ富ノ生産、交換、分配及ヒ消費ニ關スル學問ナリト云フ(「セイ」マカ「ロツク」セニナル「ミ」)而シテ獨逸學派ノ一般ニ採レル定義モ亦タ經濟學トハ貨物ノ生産、流通、分配及ヒ消費ニ關スル學問ナリト云ヘリ(「ロツク」セル「ミ」トホフ「シ」)其ノ富ト云ハ貨物ト云フ交換ト云ヒ流通ト云フ用語上稍々廣狹ノ差別アリト云フト雖モ其ノ根本ニ於テ獨乙學者カ英國學者ヲ凌駕スル能ハザルヲ知ルニ足ルト同時ニ歐米一般ニ流行セル所ノ定義先ツ此ノ如シト云フヲ得ル物件勞務及ヒ關係(關係トハ信用得)ナリト英國學者ノ所謂富トハ何ソ

ヤ曰ハク交換價格ヲ有スル物件ナリト故ヲ以テ獨乙學者ノ貨物ハ英國學者ノ富
 ヲリモ廣義ニシテ英國學者ハ所謂勞力及關係ヲ以テ富其者トナス彼等ハ之ヲ以
 テ富ヲナスノ原因ナリト信セルカ如シ然リト雖モ近代ノ英國學者中富ナル文字
 ヲ廣用シテ有形無形ノ物件ヲ包含スト主張スルモノ亦決シテ少ナキニアラスシ
 テ今ハ殆ト相同シカラントス其交換ト云フモ流通ト云フモ亦甚シキ相違アルモ
 ノニアラサルカ故ニ先ツ以テ二派ノ定義ハ相近似セルモノト云ハサルヘカラス
 余輩ハ獨乙學者ノ定義ニモ賛成スル能ハサルト同時ニ英國學者ノ多數ノ定義ニ
 モ同意スルコト能ハサルナリ何トナレハ其貨物ト云ヒ富ト云フ皆是レ事物其物
 ノ客觀的表示ニ過キサルノ感アルヲ以テナリ余輩謂フニ經濟學ハ彼ノ物理學若
 クハ化學等ノ如ク單純ニ物的現象ニ關スル學問ニ非サルナリロツシエル氏曰ク
 經濟學ノ起點ハ人ナリト然レトモ余輩ハ之カ爲メニ經濟學ヲ以テ彼ノ心理學及
 醫學ノ如ク單純ニ人ニ關スルノ學問ナリトナスモノニアラス要ハ心的現象ト物
 的現象トノ關係理法ニ關スル學問ナリト云ハントス而シテ此心的現象ト物的現
 象トノ關係ハ所謂富又ハ貨物ノ如ク事物其者ニアラス又單ニ人欲其者ニモアラ

ス人欲ト物能トノ關係ヲ抽象的ニ指示スルモノナリト云フノ外ナキナリ
 ロツシエル氏曰ハク貨物ト云フ觀念ハ主トシテ關係的ノ觀念ナリ何トナレハ人
 欲ニ變化アル毎ニ貨物ノ貨物タル範圍モ亦速カニ必ス相當ノ變化ヲ來タシ貨物
 ノ比較的重要ヲ變動セシムルモノナレハナリト英國學者中富ニ關シテ此ノ如キ
 説明ヲナスモノ亦頗ル多シ果シテ然ラハ貨物ト云ヒ富ト云フモ今ヤ實ニ事物其
 物ノ表示ニアラスシテ漸ク將サニ心ト物トノ相互關係ナリト云フコトニ歸セ
 トス何ソ斷然舊ヲ捨テ、專口至適ノ觀念ヲ表示スヘキ文字ヲ採用スルノ優レ
 ニ出テサルヤ茲ニ少數ノ經濟學者アリ貨物又ハ富ナル文字ヲ捨テ、別ニ價格即
 交換ノ學問ナリト主張スコンデヤーク、ホウエートリ、バスター、アー、マク、ラウド、ベル
 リー氏等普ナリ

就中マク、ラウド氏ハ明カニ經濟學ノ定義ヲ下シテ經濟學トハ交換能即チ *exchange-*
ability ヲ有スル物件ノ關係ヲ支配スル理法ヲ講スルノ學ナリ勢力カ重學上ノ眼
 目ナルカ如ク交換能ヲ以テ經濟上ノ眼目トス交換能ニ關係セサルコトハ經濟學
 ノ範圍ニ入ルヘカラス要スルニ經濟學ハ交換ノ學ナリ例ヘハ彼ノ生産ト云ヒ消

費ト云フモ其ノ如何ニシテ生産スルヤ若クハ如何ニシテ消費セラレ、ヤノ方法
 及條件ノ如キハ素ト是レ理化學社會學及道德學上ノ問題ニシテ經濟學ノ關ス
 ル所ニアラス唯夫レ分業法大農法生産方法ノ結果ニヨル產物カ市場ニ提出セラ
 レテ交換セラレ若クハ消費ノ結果市場提出ノ產物ニ關シ價格ノ變動ニ影響ヲ及
 ホスニ至リテ始メテ經濟學ノ範圍ニ屬スルモノナリト説明セリ是レ經濟學ノ範
 圍ヲ明書ニセントスルノ點ニ於テ及ヒ其他ニ於テ正ニ一大進歩ヲ促カサシメタ
 ル效績決シテ沒スヘカラスト雖モ經濟學ヲ以テ單ニ交換價格ノ變動ニノミ限ラ
 ヲトスルハ到底狹キニ失スルモノナルノミナラス抑モ交換ノ一面ハ生産ヨリ來
 ル供給ニシテ他ノ一面ハ消費ニ終ルヘキ需要ナルカ故ニ生産ト消費トヲ離レテ
 供給需要ナク供給需要ヲ離レテ交換ナルモノ存在スヘキナシ是レ余カ氏ノ爲メ
 ニ切ニ其狹見ヲ惜ム所ナリ好シ此點ニ於テ一步ヲ氏ニ讓ルトスルモ交換價格ノ
 學問ナリト云フハ經濟學ノ範圍ヲ定メタリト云フ迄ニシテ未タ以テ經濟學ノ職
 分ヲ示スニ足ラス從ツテ經濟學ニ關スル完全ノ定義ナリト稱スヘカラサレナリ
 余ハ經濟學ヲ以テ心的現象ト物的現象トノ相關現象ヲ論スルモノナリトナスカ

故ニ人欲ト物能トノ關係ヲ以テ其ノ眼目トナシ人欲ト物能トノ關係ヲ稱シテ價
 値ト云フ經濟學ノ範圍ヲ價值ノ學問ナリト云フニ定メ更ラニ進ンテ左ノ如キ定
 義ヲ下クサント欲ス

經濟學トハ價值ノ成立變動及消滅ニ關スル理法ヲ論スルノ學問ナリ
 余ノ謂ニル價值ハ後段詳論スル所ノ如クマクラウド氏ノ價格即チ交換價格ニ比
 シテ頗ル廣義ノモノニシテ普通ニ謂ユル富ナル文字ニ替ハラントスルモノナリ
 既ニ富ニ代ヘテ價值ヲ採リ又富ノ生産ニ代ヘテ價值ノ成立ト云フ所以ノモノハ
 別ニ他意アルニアラス唯富ヲ以テ價格アル物件(客觀的)ナリトナスカ故ニ富ノ生
 産増加スレハ價格亦從テ増進スヘキ等ナルニ反對ニ其價格下落又ハ減少スト説
 明スルノ不無理ナルカ如ク價值ノ生産増加スレハ價值亦増進スヘキニ却テ生産
 増加スルトキ物價下落ストノ理法ヲ論明スルニ苦シムヲ以テナリ況ンヤ余カ所
 謂價值トハ心的現象ト物的現象トノ關係ニシテ到底之ヲ生産スルコト能ハサル
 ニ於テオヤ故ニ余輩ハ富ノ生産ト云ヒ得サルカ如ク價值ノ生産トモ言フヲ欲セ
 ス價值成立ノ要素ニ物能ヲ置キ其物能其生産ヲ説キ以テ普通ニ謂ユル生産論ニ

該當セシメントスルナリ斯クテ成立シタル價值ノ比例カ増減高低ノ變動ヲナス
 ハ一般ニ交換論中價格ノ部ニ説明セラルト雖モ余輩ハ單ニ價值ノ變動トシテ其
 中ニ交換論價格論ヲ論述セントスルモノナリ次キニ富ノ分配ニ付キテハ從來經
 濟學者中ニモ異論アルトコロナリシダク氏曰ハク富ノ分配ト云フトキハ貨財ヲ
 一所ヨリ他所ニ轉置シ有ノ地ヨリ無ノ地ニ分配スルノ意義アリテ却テ生産論中
 運搬轉置ノ勤勞ニ屬スルノ觀アリト故ニ獨逸學者ロツシユル氏ノ如キハ財ノ分
 配ト云ハスレテ收入ノ分配ナリト云ヘリ然レトモ余輩ハ之ヲ以テ分配價格ナル
 一種ノ價格ナリトスルカ故ニ之ヲ價格論中ニ加ヘテ變動論ニ屬セシメ消費ハ消
 滅ト改メテ之ニ別篇ヲ割與セントス而シテ此等ニ關スル詳細ノ理由ハ後段相當
 ノ章ニ至リテ明白ナルヲ得ヘキナリ

第三章 經濟

經濟ナル文字ハ元來管理又ハ用意ナル意義ヲ有スルニ相違ナキモ學タル純正經
 濟學上ノ意義ニ於テハ人ノ行爲ニアラスシテ人ト物トノ關係的現象ナリ換言ス
 レハ價值ノ成立變動及ヒ消滅ニ關スル事實及ヒ組織ナリ更ラニ約言スレハ價值

ノ現象ニ外ナラサルナリ若シ一般ニ稱スル如ク人類ノ行爲ナリトスレハ經濟ニ
 對シテ別ニ經濟行爲ナルモノ、存立ヲ許スヘカラス法律ト法律行爲トカ相異ナ
 レルカ如ク經濟ト經濟行爲トハ相異ナレルモノトスフ、リフアヒチ氏ハ經濟トハ
 實物ニ對スル人ノ繼續的用意ニ關スル一切ノ現象及ヒ組織ナリト云ヘリ氏ハ元
 來ノ字義タル管理ナル觀念ヲ失ハシメサルコトノ爲メニ特ニ繼續的用意ナル文
 字ヲ使用シタリト雖モ人ト物トノ關係ニ於ケル一切ノ現象及ヒ組織ナリト云フ
 ニ異ナレル所ナキヲ知ルヘシ

第四章 經濟單位

經濟ハ一定ノ範圍ヲ畫シテ之ヲ觀察スルコトヲ得ヘシ而シテ其範圍カーノ人格
 ノ主管ニ屬シ其人格ノ意思ニ依リテ價值ノ成立^(生産)及ヒ解消^(分配)ヲ支配スルトキ
 ハ其一人格ニ屬スル一範圍毎ニ之ヲ經濟單位又ハ一經濟體ト稱ス約言スレハ一
 人格ノ支配ノ下ニ價值ノ供給及ヒ需要ヲ爲ス範圍ヲ經濟單位(Virtschafts Einheit)ト
 云フ而シテ其人格ハ法律上ノ人ト均シク個人ノ集合^(法人)トノ別アリ此人格ノ區別
 ニヨリ經濟單位ハ個人經濟ト共同經濟トノ二種ニ分カル

第一 個人經濟 (Eingel Wirtschaft)

個人經濟トハ單一人ヲ以テ支配ノ意思及施行者トスル經濟範圍ヲ云フ

第二 共同經濟 (Gemein Wirtschaft)

共同經濟トハ個人ノ一集合體ヲ以テ支配ノ意思及施行者トスル經濟範圍ニシテ會社國家地方體(財)ノ如キ是レナリ抑モ人類ハ其ノ物理的又ハ心理的ノ必要ニ依リ他人ト共同生活ヲ爲スノ傾向ヲ有スルカ故ニ其經濟上ノ目的ニ關シテモ亦他人ト共同スルヲ通例トス從テ個人ハ一家ノ家族ニアラサレハ公共團體國家社會又ハ寺院ノ一員ニアラサルハナシ茲ヲ以テ個人ハ一方ニ於テ個人トシテ一ノ經濟範圍ヲ支配スルト同時ニ他方ニ於テ血族關係或ハ目的關係ニ於テ此等團體ノ中其ノ何レニ屬スルヤノ位置ニ依リ共同體ノ經濟範圍ニ從屬セサルヘカラス

而シテ此共同ノ程度ハ其組織ニ依リテ異ナリ一ハ單ニ個人經濟單位カ經濟上ニ於ケル利益共同ノ爲メニ結合セルモノニシテ(會社及)其基礎ハ自由ナル結合ナルカ故ニ其經濟範圍廣大ナラス從テ其一般經濟上ニ及ホス勢力モ強制的共

同經濟單位ノ如ク大ナラス之ニ反シテ他ノ一ハ個人經濟單位カ自己經濟上獨立資格ヲ以テ主トセス經濟的關係ニ於テ唯ク共同經濟單位中ノ一部トシテ自ラ持スルノ外ナキ結合ニシテ(國家、府縣、市町村、寺區、學校、組合、道路、組合)其基礎ハ強制ニ存シ共同需要發達スルニ從ヒ急擴張セラル、傾向アルカ故ニ其一般經濟上ニ及ホス勢力ハ頗ル大ナルモノトス斯クノ如ク其共同ノ基礎相異ナレリト雖モ共同員相互間及共同員ト共同體トノ關係ニ付キ共同經濟的生產及消費ノ行ハル、コトハ二者共ニ同一ナリトス

第五章 經濟制度

經濟制度トハ各人カ經濟現象ニ對シテ有スル繼續的關係ニシテ一定ノ主義其中ニ貫通セルモノアルヲ云ヒ此關係ハ獨立セル經濟單位間ノ關係ト共同經濟ノ一員カ其共同體ニ對スル關係トニ分レ此關係ノ異同ニ從テ一ハ交換主義ヲ原則トシ他ノ一ハ非交換主義ヲ原則トスル制アリ

第一 交換的經濟制度

獨立セル經濟單位間ニ於テ(一)分業(二)私有財產制及(三)契約ノ自由存在スル

カ故ニ交換主義ヲ以テ永續的ノ制度トス之ヲ交換的經濟制度又ハ私經濟的制
 度ト稱ス蓋シ分業ハ勞力ノ分業ヨリ進ンテ生産ノ分業トナリ各經濟單位ハ其
 生産セル產物ニ對スル完全ノ處分權(私有財)ニ依リ經濟的利益ヲ獨占スルノ餘
 地ヲ得彼レカ獨占ノ範圍ニ屬スルモノハ契約自由ノ保障ノアルアリ他ノ經濟
 單位ハ其ノ產物ヲ提供シテ彼ノ合意ヲ經ルニ非サレハ之ヲ使用シ消費スルコ
 トヲ得サルヲ以テ各經濟單位ノ關係ハ交換制度ナラサルヲ得サルナリ而シテ
 此交換ニ依リ與フルトコロノ相互ノ合意ハ各國ノ利益ヲ表示スルカ故ニ之ヲ
 私經濟制度トモ稱スルナリ但シ各經濟單位間ノ關係ニシテ若シ錯誤強迫又ハ
 詐欺ニヨリテ完全ノ合意ヲ欠キ爲メニ經濟的原則ニ反スルノ交換起ルコトア
 リ是レ交換的經濟制度ノ範圍外ニ屬スヘキモノナリト雖モ素ヨリ偶然ノ現象
 ナルカ故ニ制度ト稱スルコトヲ得ス制度ハ一定ノ主義ノ貫通セル永續的關係
 ナラサルヘカラサルナリ
 然レトモ各經濟單位間ノ交換的經濟制度ハ無制限ノモノニアラス其範圍及其
 方法ニ於テハ制限アリ何トナレハ國家及公共團體ト云ヘル經濟單位ノ企業ノ

如キハ其範圍ニ於テ全ク交換的ノモノト云フヘカラス又他ノ經濟單位ノ企業
 ト雖モ高利法、勞働保護法、宗教道德及名譽ノ爲メ交換ノ方法ニ制限アルヲ以テ
 ナリ余輩ハ此種ノ經濟關係ヲ制限的交換經濟制度(Regulirter Verkehr)ト稱要ス
 ルニ交換的經濟制度ハ私經濟的原則ニヨリ各經濟單位間ニ行ハル、永續的關
 係ニシテ自由交換的の制度ト制限交換的の制度ニ分ルルモノト云フヘシ而シテ制
 限的交換制度モ交換制度ノ反對ニハアラスシテ其一種ニ外ナラサルナリ

第二 非交換的經濟制度

共同經濟ニ於テ共同體カ其一員ニ對スル永續的關係ハ私法人タルト公法人タ
 ルトヲ問ハス共ニ皆非交換的關係ニシテ之ヲ一貫スル原則ハ各員各個ノ利益
 ニアラスシテ共同體ノ利益ニ存スルカ故ニ非交換(共同)經濟制度ト稱シ其原則ヲ
 公經濟的原則ト云フ私法上ノ會社及組合ノ如キハ素ヨリ私益ヲ目的トシ他ノ
 共同經濟ノ如ク公益ヲ目的トシタルモノニアラサルカ故ニ其原則ヲ公經濟原
 則ト稱スルハ不可ナルカ如シト雖モ其ハ會社又ハ組合カ他ノ經濟單位ニ對ス
 ル時ノ目的ニシテ此關係ニ於テハ公法人ト雖モ自己ノ利益ニ於テ交換關係ニ

入ルモノニシテ是レ亦經濟的原則ニ支配セラルヘキモノニ屬スヘシ茲ニハ會社又ハ組合カ其社員又ハ組合員ニ對スル關係ヲ指稱スルモノニシテ恰モ公法人カ其公民ニ對スルト異ナルトコロナク全ク非交換的ニシテ其經濟單位内ニ相當スル公益主義ニヨリテ意思ノ支配ヲ受ケサルヘカラサルモノナリ是レ余輩カ私法人ト公法人トヲ問ハス皆之ヲ茲ニ併示シタル所以ナリト余輩ハ非交換的經濟制度及ヒ公經濟的原則ヲ法人ニ限レリト雖モ更ニ嚴精ニ論スレハ個人經濟單位ト雖モ自ラ生産シテ自ラ消費スル者ニ至リテハ非交換的經濟制度ニ屬スヘシ然レトモ此レニ在リテハ經濟ノ主管ハ一人ノ單意ヲ以テ確定シ彼ノ共同總員ノ意思ヲ以テ決定スルモノト異ナリ公經濟的原則ノ適用ナク常ニ經濟單位間ノ私經濟的原則ニ支配セララルカ故ニ之ヲ茲ニ除外セリ

第六章 經濟要件

經濟要件トハ經濟現象變動ノ要件ニシテ經濟力依テ以テ發達スル所以ノ動因ヲ言フナリ此要件ヲ大別スレハ一般的要件ト特別的要件トノ二種トナルヘキモ特別要件ハ生産分配消費ノ各項ニ關スル要件ナルカ故ニ余ハ之ヲ各論ニ於テ論ス

ルコト、シ此總論ニ於テハ經濟全體ニ共通スル一般的要件ヲ論セントス
經濟一般ニ關スル發達ノ要件ハ之ヲ分チテ自然的要件、人身的要件、及ヒ社會的
要件ノ三種トスルコトヲ得ヘシ

第一 自然的要件

自然的要件トハ人類ヲ圍繞セル外界ノ自然ト人類其者ニ於ケル自然的事情ト
ノ二種アリテ共ニ各社會ノ經濟ニ對シ根本的異同並ニ發達の變化ヲ現出スル
モノナリ其中ニ就キ外界自然的要件トハ土地ノ外表、地質、氣候、自然通路及ヒ土
地ノ廣狹並ニ地勢等ノ如ク外界自然ノ異同及ヒ變化ヲ謂ヒ人類自然的條件ト
ハ國性、長幼、男女別、人口數ノ如ク主トシテ自然ノ結果ノ屬スル人類上ノ異同及
變化ヲ謂フ乞フ左ニ之ヲ細論セン

- 一 地表ノ異同 例ヘハ平原ト高地トノ異同、又高地ニ於テモ不便ナル山嶺多
キト適度ノ波狀的丘陵多キトノ異同ノ如キハ謂ユル地表ノ異同ト稱スヘキ
モノニシテ其異同ハ交通ノ便否、生産ノ適否、企業規模ノ大小ニ著シキ關係ヲ
有スルコト勿論ナルノミナラス又以テ自然力ヲ特別ニ利用スル上ニ於テモ

著シキ關係アルモノトス平原ニ於テハ風力ヲ利用シ高地ニ於テハ水力ヲ利用スル如キ之ヲ證スルモノナリ

二 地質ノ異同 例ヘハ地殼ノ特性土地成育力、礦物含有質ノ如キ是レナリ此等ノ異同ハ農業、鑛業ノ發達ニ直接ノ關係ヲ有シ之ニ伴フテ工業ノ發達ニモ亦著シキ關係アリ例ヘハ鐵道企業及ヒ工業ニ於ケル蒸氣力ノ使用並ニ之ニ基テ各產業上ノ發達ハ燃料ノ關係ニ於テ地質ニ負テ所大ナルカ如キ之ヲ證スヘシ其燃料ニ關シテハ森林經營充分ナラサル場合ニ於テハ石炭ノ存否ニ重、大ノ關係ヲ有スヘキヤ論ヲ俟タス

三 氣候ノ異同 氣候ノ異同ハ一方ニ於テ土地ノ成育力耕作ノ方法、動物ノ牧養上著シキ關係ヲ有スルノミナラス他方ニ於テハ人民ノ生活及需要ノ上ニ至大ノ關係ヲ有ス例ヘハ溫帶地方ト寒帶地方ト將タ熱帶地方トノ別ニ依リ並ニ其寒溫ノ長短ニヨリ人民ノ勞逸及ヒ衣食住ノ需要ニ關シ大ナル異同アルカ如キ是レナリ

四 自然通路ノ多少 航行スヘキ河流及ヒ連續シタル海洋多キモノハ自ラ能

ク孤獨ノ狀態ヲ脱シ其經濟ヲシテ交易的ナラシムルコトヲ得ヘク之カ爲メ各國間ニ於ケル自然の生産ノ異同ハ短時ニ且ツ容易ニ相均關シ貧産ノ地ハ豊産ノ地ヨリ補充ヲ仰クコトヲ得ルカ故ニ經濟ノ發達ハ他ノ同地質同氣候ニシテ而カモ自然通路ノ少ナキモノニ比シテ必ス著シキヲ見ルヘシ

五 地積及地勢ノ異同 地積ノ大小ハ産業ノ種類ノ多少ニ關係ヲ有ス而シテ産業多種ナル國ハ少種ノ産業ヲ有スル國ヨリモ外國ニ對スル經濟上ノ獨立ヲ爲スニ適スヘシ又地位ノ便否ハ一國ヲシテ其交換ヲ内地ニ限ラシムルカ若シテハ國外ニマテ關係ヲ有セシムルカニ著シキ關係ヲ有シ國防及貿易上至大ノ異同ヲ惹起スルモノナリ

以上外界の自然條件ノ異同ハ發達ノ最始ト最終トノ間ニ於テハ或ル程度マテハ人爲ニ依リ却テ能ク自然ヲ支配シ各國間又ハ各地間ニ存スル外界の自然條件ノ異同ヲシテ更ラニ變化セシムルコトアルヘシ例ヘハ吾人ハ土地ノ高低ニ應シテ能ク原力使用ノ方法ヲ變化シ地質ノ不良ニ對シテハ澆水肥料ノ手段ニヨリテ之ヲ變更シ動植物不足ニ對シテハ秩序アル管理及飼養法ヲ以テ之ヲ

補ハ自然通路ノ乏シキニ對シテハ人爲ノ通路ヲ建設シ氣候ニ對シテモ森林培養等ニヨリ多少之ヲ變更スルノ途ナキニアラサルカ故ニ文化ノ進歩如何ニヨリ自然の狀況ハ多少變化ヲ來スヘキヲ知ルヘシ此變化ハ一國カ他國ニ對シテ比較的ニ現出シ又ハ各國一様ニ絶對的ニ現出スルコトアルヘシ然レトモ比較的變化ハ文化ノ進歩カ各國同程度ニ達スル時ニハ消滅シテ再ヒ自然の條件ノ異同ヲ現出セシムヘク而シテ絶對的變化ハ當初ノ自然の大異同ヲシテ多少緩和セシムルコトアルヘキモ全ク自然の異同ヲシテ消滅セシムル能ハサルカ故ニ各國ノ自然の條件ノ異同ハ結局留存セラルヘキコト疑ヲ容レサルトコロナリ

六 人民ノ特質 人民ト稱スルハ一定ノ範圍内ニ住居スル人類ノ集合ナリ余カ之ニ關シテ自然の條件ノ中ニ加ヘントスルところノ事項ハ主トシテ自然結果タルモノニ限レリ而シテ人民ノ特質ハ其氣質、品性、理解力及ヒ體力ノ特色ニシテ謂ユル國性(National character)ナルモノニ該當シ自然ノ結果ニ外ナラサルカ故ニ人類其者ニ關スル自然の要件ノ一タルヲ失ハス此國性ノ異同ハ

勞働ノ效力、需要ノ種類、生産ノ種類、經濟及政治思想ノ進歩並ニ經濟組織ノ發達ニ著シキ影響ヲ與フルモノトス

七 長幼男女別 各國ニ於ケル此異同ハ人類ノ出生、成熟、死亡並ニ移住等ノ如ク主トシテ自然の現象ノ結果ナルカ故ニ是レ亦人類其者ニ關スル自然の要件ノ一トス此要件ノ異同カ經濟上ニ於テ重要ヲ有スル所以ハ其消費ト生産トノ均衡ニ至大ノ關係アルカ爲メナリ抑モ各國ノ生産力ハ人民中壯成者ノ多キニ依ルモノナルニ消費ハ一切ノ人民之ニ關係ス老幼者ハ生産ニ關係スルコト稀ナルノミナラス其消費スルところハ其生産ニ從事セサル時間ノ多キ丈却テ壯成者ヨリモ多カラントスル傾キアリ壯成者ハ一方ニ此消費スヘキ多少ノ時間ヲ有スル老幼ヲ維持シ他方ニ又自己ノ維持發達ヲ計ラサルヘカラサルノ負擔ヲ有ス此負擔ハ人民中消費階級ノ多ケレハ多キニ從テ増加シ益々増加スルト同時ニ消費ト生産トノ均衡ハ逆況ヲ示サ、ルヘカラス又男女兩姓ノ別ニ長幼別ノ如ク生産力ニ影響ヲ及ホスコト大ナラスト雖モ婚期ニ於ケル男女ノ數ハ人口ノ増減ニ至大ノ影響ヲ與フルカ故ニ此別モ亦經

濟上ノ重要ヲ有スルモノト認メラルヲ得ス

八 人口數ノ異同 人口數ノ異同ハ左記二種ノ方面ニ於テ經濟一般ノ發達ニ其效果ヲ及ホスヘシ

甲 人口數ノ異同ハ其上ニ存立スル共同經濟體ノ組織ノ大小ヲ支配スヘシ
蓋シ人口多キトキハ其總體ニ於ケル負擔力大ナルカ故ニ費用多キ組織ヲ有スル國家ヲ形成スルニ適ス而シテ大ナル獨立ノ國家成立スルトキハ之ヲ包含スル一般經濟ハ小國家ヲ有スルモノニ比シテ企業ノ規模及貿易ノ擴張等大ニ異ナラサルヲ得ラルナリ

乙 人口數ノ異同ハ自然的條件ヲ利用スルノ程度ヲ異ニシ又經濟的及技術的方法ヲ利用スルノ程度ヲ異ニセシム

例ヘハ同一ノ土地ニ對シテ人口増加スルトキハ必ス銳意ニ其現在生産力ヲ盡用スルノ傾向アルヘク從ツテ又之ニ關スル生産的勞力ヲ需要ヲ増加スヘシ加フルニ人口ノ増加ハ分業ノ勢ヲ助長シ之ニ伴フテ技術上ノ利便ヲ完全ニ使用セシムヘシ何トナレハ人口増加スレハ販路増大販路増大

スレハ巨費ノ技術ヲ適用スルニ易キコト當然ナレハナリ

然ラハ人口ヲ多シト言ヒ少シト言フハ何ヲ標準トシテ言フヘキカ曰ク人口數ノ多少ヲ定ムヘキ標準ハ其人口ノ給足狀態ニアリ換言スレハ人口數ト其土地ヨリ生スル食物量トノ間ニ於ケル均衡狀態ニヨリテ其多少ヲ計算スルノ外ナレ若シ人口ノ數カ其土地ヨリ生スル食物ヲ充分ニ使用スルニ足ラサルトキハ不足人口(under volkerung)ト言ヒ若シ人口ノ數カ其土地ノ與フル食物量ヨリモ多キトキハ超過人口(über volkerung)ト言フ但シ此超過人口ニハ二種アリ一ハ關係的超過人口ニシテ人口數カ現在ノ食物量ニ超過スル場合ニ起リ他ノ一ハ絶對的超過人口ニシテ其ハ人口數カ土地ノ最好事情ニ於ケル將來ノ食物量ニ對スルモ尙ホ超過スル場合ニ起ルモノトス

而シテ人口ノ増加カ國民ノ生殖カ男女別、經濟的困難ニ基ク婚姻ノ抑制、或ニ婚姻及ヒ育兒ニ關スル慣習ノ異同ニヨリ多少ノ異同アリト雖モ概シテ其増殖速カナルノ傾向ヲ有ス之レニ反シテ食物ノ増加ハ土地ノ大小及ヒ生産カ

生産技術及ヒ經濟制度ノ發達如何ニヨリ素ヨリ相同シカラスト雖モ土地ノ既ニ限度ヲ有シ生産技術及ヒ經濟制度ノ如キ一朝一夕ヲ以テ能ク改進シ得ラルヘキモノニアラス而シテ外國產物ノ輸入ト雖モ甚タ多キヲ望ムヘカラス果シテ然ラハマルサス氏ノ謂ユル人口ハ常ニ食物量ヲ超エテ増加スルノ傾向ヲ有ストノ豫言ハ大體上之レヲ認メサルヲ得ス之ニ對シテケリー一派ノ樂天主義ノ如ク人口増加ト共ニ勢力増力シ產物増加スヘシト満足スルモノト又マールクス一派ノ社會主義者ノ如ク之ニ満足セサルモ自家ノ主張ニ從ヒ經濟及ヒ社會上ノ根本的改革ヲ斷行セハ總合生産ノ増加ヲ見ルヲ得ヘシト言フモノトアリト雖モ其何ニ依ルモ皆ナ一時ノ生産増加タルニ止マレテ次イテ現ハルヘキ人口ノ新増加ト忽チニ關係の超過人口ヲ現出セテ遂ニ益々絶對的の超過人口ニ進ミ此增多ノ人口ノ上ニ總生産物ハ分配セラレ一般ノ貧弱ヲ惹起スヘシ況ンヤ現在ニ於テハ私有財産制ノアルアリ之レカ爲メ其生産物ノ分配ハ均等ナラスシテ貧富ノ懸隔ヲ助長シ其結果非常ナル困窮者ヲ生シ不衛生ノ居住劣悪ノ食物疾病惡罪及ヒ死亡ハ直接ニ増加シ間接ニハ婚

姻ノ困難育兒ノ抑鬱増加スヘキナリ但シ之レカ爲メニ外國ノ移住殖民及ヒ外國貿易ハ増加ノ傾向ヲ存スルコトナキニアラス之ヲ以テ見ルトキハ人口増加ノ結果ハ經濟上幾多ノ困難ト幾多ハ進歩トヲ惹起シ天然ト人爲トノ抗爭トナリ一概ノ經濟ハ一方ニ淘汰ヲ見ツ、他方ニ助長セラレ、ノ有様ナキニアラスト言フヘシ然レトモ移住殖民及ヒ外國貿易ノ如キハ國民經濟的觀察ニ於ケル發達ノ餘地タルニ過キサルカ故ニ純正經濟學上必ス觀察セサルヘカラサル外國經濟ノ狀況ニシテ均シク遺教ノ域ニ遷スルモノトスルトキハ此餘地ハ相消失シ一般の絶對ノ超過人口ニ到達スヘキモノト斷定セサルヘカラサルナリ

第二 人身的條件

人身的條件トハ人ノ一身ノ固着スル心的現象及ヒ其結果ニシテ以テ經濟行爲ノ動機トナリ又ハ經濟思想及ヒ技術ノ發達ニ影響ヲ與フル所ノモノナリ今其重要ナルモノヲ舉ケレハ曰ハク經濟主義曰ハク學勢曰ハク技術ノ三種是レナリ以下之ヲ分説セシ

一 經濟主義 經濟主義トハ經濟ニ關係スル人ノ行爲ヲ常ニ左右スルところノ方針ノ謂ニシテ此方針ノ動機トナルヘキモノハ自利心名譽心公共心他愛心德義心輕舉英積懶怠愛憎心好意心驕奢心自負心等種々アリト雖モ主義ト爲ルニ足ルヘキ永續ノ性質ヲ有シ且ツ活動ノ範圍大ナルモノハ自利心及ヒ公共心ノ二者ニシテ德義心ハ之ニ次クモノト言フヘキモ他ハ舉ケテ微々タルモノニ過キス

甲 自利心 自利心ノ最モ狹義ナルモノヲ言ヘハ單ニ自己ノ利益ヲ實在セシメントカムルノ機心ニシテ他ノ利益ニ對スル自己ノ利益ヲ保持セントスルモノナルカ故ニ此意義ニ於テハ自利心ハ共同經濟ノ基礎ニアラスレテ單ニ個人經濟ノ基礎タルモノト言フコトヲ得ヘシ此機心ハ時トシテ輕舉英積愛憎好意情忌心等ノ小動機ニヨリテ妨ケラル、カ故ニ個人ノ經濟行爲ヘ必スシモ常ニ最大ノ利益ヲ得シト勉力スルノ方向ニ存セスト雖モ此等ノ小動機ハ永續ノモノニアラサルノミナラス其活動ノ範圍モ狹少ナルカ故ニ大體ニ於テハ自利心ヲ以テ經濟主義ノ重要動機ナリト云ハサル

ヘカラス

乙 公共心 自利心ト對立シテ經濟主義ノ重要動機ヲ成レ自利心ト共ニ吾人經濟生活ノ二大柱ヲ成スモノハ公共必ナリトス世人往々之ヲ他愛心ト混同スルモノアルモ其性質ハ全ク異ナレリ何トナレハ他愛心ハ教習ニ依レル感情的傾向ニ過キスレテ一切ノ個人ニ行ハル、モノニアラサルノミナラス其方向ハ全ク個人ノ利益ヲ廢スルニ存スルモ公共心ハ之ニ反シ其基礎ハ人類ノ共同利益ニ存シ其共同利益ハ教習ヲ待タスレテ人皆自然ニ之ヲ自覺スルモノニシテ其自覺ハ人類發達ノ各階段ヲ通シテ常ニ存在スルノミナラス又之カ爲メ全ク個人ノ利益ヲ廢スト言フコトハアラサルヲ以テナリ是レ余カ公共心ト他愛心ト其性質相異ナリ而カモ同時ニ他愛心ノ如キハ經濟主義ノ重要動機トスルニ足ラスト爲サントスル所以ナリ然レトモ余ハ公共心ヲ以テ自利心ノ變體ナリト言フノ至當ナルヲ信セヨトス自利心ハ個人ノ自存ヲ計ルニ於テ現ハレ公共心ハ共同體ノ自存ヲ計ルニ於テ現ハル、ノ差アルノミニシテ共ニ均シク一ノ經濟單位カ他ノ經

濟單位ニ對シ廣義ニ於ケル自利心ノ活動ニ基クモノニ外ナラサルヲ以テ
ナリ

丙 德義心 德義トハ誠意、謹慎、忠義、謙遜、廉直、實素等ノ如ク自ラ持スルノ心
爲ニシテ教習ニ基ケル點多シト雖モ彼ノ他愛心ノ如ク不永續且ツ狹範圍
ノモノトハ異ナレリ殊ニ商信用使備者又ハ勞働者ニ關シテハ其效用ノ著
シキヲ現ハシ而モ又稍々永ク且ツ廣キ範圍ニ行ハル、モノアルカ故ニ之
ヲ以テ經濟主義ノ一動機トスルハ不可ナキモ單獨ニ永ク活動スルコト能
ハサルノミナラス其活動ノ真ノ機心ハ果シテ此單獨ナル德義心ニ出ツル
カ將タ複雜ナル自利心ニ出ツルモノナルヤ殆ント判明スヘカラサルモノ
アリ故ニ德義心ハ自利心及公共心ノ勢力ニ比スレハ甚タ顯著ナラスト言
ハサルヘカラス

二 學藝 人智ノ發達カ經濟一般ニ重要ノ關係ヲ有スルヤ言フ俟タス此人智
ハ始メ外界事物ノ智識ヨリ起リ其經驗ヲ重スルニ從テテ事物ノ性質及連續
關係ヲ知得シ茲ニ始メテ單純ナル智識ハ發達シテ謂ユル學藝ナルモノトナ

ル學藝中尤モ經濟ニ必要ナルハ專門的學藝ニシテ彼ノ原料及原力ノ使用ニ
關スルモノ是レナリ例ハ農學、林學、鑛山、冶金學、化學、工學及ヒ技術學ノ如キ
更ラニ進ンテハ博物學ノ如キ是レナリ又各國ノ生活狀況ヲ知リ之ニ依リテ
商業殊ニ外國貿易ヲ計ラント欲セハ吾人ハ地理學及人類學ノ力ニ依ラサル
ヘカラス更ラニ社會共同生活ヲ維持スル爲メニハ法律學、國家學、社會學ヲ要
スヘシ殊ニ經濟學ハ最始ヨリ最終ニ通シテ尤モ重要ノ學藝ナリトス

三 技術 技術トハ所期ノ成功ニ達セシトスル行爲ニ關スル吾人ノ智識及行
爲ニ於ケル吾人ノ智識ノ應用ヲ言フ故ニ各人カ自ラ認メテ自己ノ目的ニ從
屬スル行爲トナスモノハ皆技術ナリトス然レトモ經濟上ニ於テ技術ト稱ス
ルモノハ有形的ノ生産ニ關シ良好ノ成功ヲ得ル爲メノ手段行路ナリトス今
此技術ヲ分チテ生産(作)技術、交易技術及ヒ企業技術ノ三種トスルコトヲ得ヘ
シ

甲 生産技術 トハ原料生産ノ目的ヲ達スルニ要スル技術ニシテ土地耕作
原料ノ形成及加工ノ如キ之ニ屬ス此技術ノ經濟上ニ於ケル效果ハ以テ産

物ノ數量及種類ノ異同ヲ定ムルニアリ此技術ハ又企業技術ノ補助ニヨリ
大ニ其效果ヲ異ニス

乙 交易技術 トハ一ハ物、人、及通信ノ移轉ニ關スル技術、他ノ一ハ交換並ニ
交換ノ制度及ヒ用具ニ關スル組織ヲ包含スル名稱ニシテ前者ハ有形物ノ
生産ノ爲メニ生産技術ト企業技術トヲ連續スルノ技術即チ道路、鐵道、郵便
電信、電話等ニ於ケル運輸及通信事務ノ管理ノ如キヲ云ヒ後者ハ交換ヲシ
テ敏滑ニ行ハシムルニ必要ナル技術即チ商業及量衡、取引所、通貨、銀行及信
用證券ニ關スル制度ノ如キヲ指ス而シテ其經濟上ニ於ケル效果ハ物ノ移
轉ノ遲速、人欲適應ノ遲速、延イテ生産ノ増減ヲ致サシムルニ在リ

丙 企業技術 トハ共同生産ノ目的ヲ達スル爲メニ個々經濟單位ニ於ケル
生産要素(土地、勞力)ヲ結合スルノ技術ヲ言フモノニシテ勞力ノ分業、大企業
ノ遂行、共同經濟的企業ノ施行ノ如キ之ニ屬ス其經濟上ニ於ケル效果ハ生
産ノ増減及巧拙ヲ惹起セシムルニアリ

第三、社會的條件

社會的條件トハ人類カ社會ヲ成セルニ基キテ發生シ之ニ依テ以テ經濟カ發達
スル所以ノ動因タルモノニシテ其重要ナルモノヲ舉ケレハ社會的組織、法律制
度、自由競争、慣習ノ四者トス

一 社會的組織 抑モ社會ハ要素ノ同一ナル人類ト不同一ナル人類トノ集合
セルヨリ成レルカ故ニ其中亦自ラ數種ノ組織ヲ包含ス之ヲ社會的組織ト云
フ今此社會的各組織ヲ大別スレハ合同組織、分業組織及ヒ支配組織ノ三種ト
ナルヘシ

甲 合同組織 トハ要素ノ同一ニヨリ自然的又ハ任意的ニ結合セル組織ニ
シテ其自然的の必要ノ組織ニハ親族、系統、人種等ノ如ク自然的要素ノ同一ナ
ルニ依レルモノ之ニ屬シ其任意的組織ニハ政治上ニ於テハ政黨ノ如キ精
神上ニ於テハ宗派、學事組合ノ如キ經濟上ニ於テハ財產共有、產業合同又ハ
交易ニ關スル各種共同組織ノ如キ目的ノ同一ナルニ依レルモノ之ニ屬ス
ルナリ

此合同組織ノ發達スルト否トハ經濟上ニ於テ企業規模ノ大小ニ重大ノ關

係ヲ有ス企業規模ノ大小ハ生産費ノ異同ヲ生シ産物供給ノ多少ヲ惹起スヘシ

乙 分業組織 トハ要素ノ不同ニ基キテ組織セラル、モノニシテ社會上

ノ分業組織ト經濟技術上ノ分業組織トノ二種ニ分ル社會上ノ分業組織トハ産業ノ不同ナルニ基キテ分業シタル組織ニシテ之ヲ職業上ノ分業トモ稱ス例ヘハ商業工業農業ト言ヘル如ク互ニ相分業シテ而シテ共同生存ノ目的ヲ達スルノ連絡ヲ有スルモノ是レナリ之ニ反シテ經濟技術上ノ分業組織トハ一種ノ生産ヲ爲スニ必要ナル技術ノ不同ナルニ基キテ各技術ヲ數多ノ人ニ分業シ結局一ノ生産ヲ遂行スルノ經濟目的ヲ達スヘキ連絡ヲ有スル組織ニシテ労働ノ分業トモ稱セラル、モノナリ例ヘハ羅紗ノ製造ニ於テ羊毛選擇洗滌乾燥梳刷織製ノ各技術ヲ分業スル如キ是レナリ分業組織ニ至リテハ職業上ノ分業ニ於テモ其發達ノ異同ニヨリ各業間ニ從屬關係ヲ有スルコトアリ即チ農業最モ發達セルトキハ農業國ト稱セラレ商工業ハ寧ロ之ニ從屬シ商工業發達シ商工業國ト稱セラル、ニ至ルト

キハ農業ハ之ニ從屬スヘシ殊ニ技術的分業ニ於テハ才能智識及ヒ經濟力ノ發達ノ異同ニ依リ著シキ從屬關係ヲ有ス例ヘハ資本家ト労働者主人ト奴婢ノ關係ノ如キ是レナリ然レトモ合同組織ニ在リテハ要素ノ同一ナル點ニ向ツテ人類カ合同スルモノニシテ各組織間ハ直接ノ連絡ヲ有セサルカ故ニ從屬關係ヲ生スルコトナシ

此分業組織ノ發達スルト否トハ經濟上ニ於テ各人各地至適ノ産業熟練改良ノ機會及産物ノ品質數量ニ關係ヲ有スルコト大ナリ

丙 支配組織 トハ法律上ノ位置即チ權力ノ異同ニ基キテ成レルモノニシ

テ國家府縣郡市町村其他ノ公共團體ノ如キ是レナリ利害ノ觀察ヲ異ニセル一切ノ個人及合同組織ヲ支配スル爲メニ國家組織アリ利害ノ觀察ヲ異ニセル一地方ノ個人及ヒ合同組織ヲ支配スル爲メニ府縣以下ノ公共組織ヲ要ス彼ノ單純ノ合同組織ハ利害ノ觀察ヲ同ウセルモノ、合同ナルカ故ニ權力從屬ノ關係ヲ要セサルモ此公共團體ニ在リテハ利害ノ觀察ヲ異ニセルモノ、合同ナルカ故ニ法制ニ依リテ權力的從屬ヲ定メテレハ之カ共

同ノ目的ヲ實行スルコトヲ得ス又彼ノ分業組織ニ在リテハ從屬關係ヲ生
 スルコトアルモ其ハ主トシテ經濟力發達ノ異同ニ基キ自然ニ生スルモノ
 ニシテ關係的從屬ニ過キサルニ支配組織ノ從屬關係ハ法律上權力ノ異同
 ヲ人爲的ニ制定シタルニ基クモノニシテ絕對從屬ノ關係ヲ有スルモノナ
 リ

國家ハ社會全體ヲ支配シ立法司法及行政ノ三權ヲ行ヒ之ヲ行フ爲メニ自
 ラ獨立ノ經濟生活(財政)ヲ營ム府縣以下ノ公共團體ハ一定ノ區域内ニ於テ國
 家ノ定ムル法制ニ從ヒ立法及ヒ行政(司法)ヲ行ヒ又自ラ獨立ノ經濟
 生活(財政)ヲ營ムモノトス

支配組織ノ發達ハ經濟ヲシテ秩序アル活動ヲ爲スコトヲ得セシムルト否
 トニ關係ス但シ其具體的ノ異同ハ各國法律制度ノ如何ニ由ルハ勿論ナ
 リ

二 法律制度 法律制度トハ國家又ハ國家ノ委任セル公共團體ノ立法司法及
 行政ノ謂ニシテ之ヲ事項ニヨリテ分類スレハ私有財産制度自由交易制度刑

罰制度保安制度助長制度並ニ財政制度ノ六種トナルヘシ

甲 私有財産制度 財産トハ所屬アル價值ノ謂ニシテ私有財産トハ個人經
 濟單位所屬ノ價值ナリ價值カ人ニ所屬スル有様ヲ獨占ト云ヒ價值獨占ノ
 範圍ヲ權利ト云フ而シテ價值ノ獨占ニハ完全ノモノト不完全ノモノトア
 リ完全ナル價值ノ獨占ヲ所有權ト云ヒ不完全ナル價值ノ獨占ヲ廣義ニ於
 テ使用權ト云フ私有財産制トハ此所有權及ヒ使用權ノ種類及ヒ之ヲ取得
 シ保存シ使用シ處分スルニ關スル立法並ニ之ニ關スル司法及行政ノ制度
 ヲ云フナリ民法民事訴訟法及ヒ登記法並ニ之ニ關スル司法及ヒ行政ノ如
 キ即チ是ナリ其經濟上ニ於ケル效果ハ貯蓄及生産ノ増減分配ノ異同ニ於
 テ顯ハルヘキナリ

乙 自由交易制度 自由交易制度トハ私有財産及勞務ノ給付ヲ自由ナル合
 意ヲ以テ行フコトトシ各經濟單位ヲシテ恣ニ他人ノ獨占及ヒ自由ヲ犯サ
 シメサルノ制度ニシテ民法債權及ヒ商法全部ニ關スル立法司法及ヒ行政
 ヲ包含ス賣買貸借雇傭ノ契約組合及ヒ會社ノ設立及ヒ解散手形及ヒ商業

證券、銀行、交通機關等ニ關スル制度ノ如キ之ニ屬ス

此法制ノ經濟上ニ於ケル效果ハ交換及分配ノ便否遲速ニ異同ヲ來スニア

丙 刑罰制度 刑罰制度トハ國家及社會ノ安寧並ニ個人經濟ノ自由及財產

ニ對スル危害ヲ防壓スルノ制度ニシテ刑法、刑事訴訟法、監獄則ニ關スル立

法、司法及ヒ行政ノ如キ之ニ屬ス此制度ノ經濟上ニ於ケル效果ハ詐欺、強迫

危害ヲ防壓シ自由法則ノ活動ヲ補助シ社會的ノ產業ヲ發達セシムルニア

リ

丁 保安制度 保安制度トハ國防、公共衛生、公共教育、公共救貧、並ニ產業及勞

働ノ取締ニ關スル豫防法制ノ謂ユシテ其範圍ハ干涉ノ程度如何ニヨリテ

大ニ異同アリ、徵兵令其他軍事法規、教育法規、各警察法規、各產業條例、地方制

度、行政裁判法等ニ關スル立法、司法及ヒ行政ノ制度ヲ包含ス此制度ノ經濟

上ニ於ケル效果ハ詐欺、強迫、危害ヲ豫防シ產業ノ安全、分配ノ平均ヲ計ルニ

アリ

戊 助長制度 助長制度トハ產業及貿易ノ保護、助長ニ關スル立法、司法及ヒ

行政制度ニシテ、鐵道、船舶、銀行、產業ニ關スル獎勵、補助並ニ關稅政策ノ如キ

之ニ屬ス此制度ノ經濟上ニ於ケル效果ハ幼稚ナル產業及經濟ニ於テ其著

シキヲ見ル

己 財政制度 財政トハ國家及ヒ地方團體カ以上ノ立法、司法、行政ヲ行フ爲

メニ要スル經濟設備ヲ爲シ及之ヲ維持シ活用スルニ足ルヘキ經濟手段ヲ

供給スル從タル政務ニシテ、財政制度トハ公共豫算、租稅其他ノ公課、公債及

會計手續、會計監督ニ關スル立法、司法及ヒ行政ヲ言フ此制度ノ經濟上ニ於

ケル效果ハ經濟上ノ土地勞力及資本ヲ共同作用ニヨリ一般ニ必要ニシテ

一般ニ有利ナル事業ニ利用セシメ總經濟上ノ生産費ヲ節スルニアリ

第七章 經濟理法

法ナル文字ハ往々人ヲシテ疑義ヲ抱カシム其命令式ニ於テハ法ハ學ニ屬セスレ

テ立法ノ術ニ關スル用語ナルカ如シ然レトモ其直說式ニ於テハ法ハ原因結果ノ

配述ニシテ純正ニ學的ナリ若シ經濟學ヲ以テ實學ナリトスルトキハ此法理ハ止

ニ後種ノ意義ナラサルヘカラス(ハルバハル氏)然レトモ又俗用ニ於テハ經濟理法ハ命令的ノ如クニ解セラレ少クトモ一定ノ行爲ヲ目シテ善ナリ又ハ智ナリト評スヘキモノトセラルスノ如クニ様ノ疑義アルカ故ニ學者モ往々之ニ迷ヒ時トシテ某事ハ經濟理法ヲ破ルモノナリト論セラル、コトアリ然レトモ元來學ノ理法ハ之ヲ破ラントスルモ破ラレ、コトナキモノナリ何トナレハ理法ハ單ニ一般的ニ事實ヲ記述スルニ過キサレハナリ若シ強ヒテ類似ノ意味ヲ求ムレハ其行ハツトスル所ノモノカ其所期スルトコロニ反スルノ結果ヲ得ヘシ其ハ經濟理法カ之ヲ證明スルモノナリトノ義ニ外ナラサルナリ例ヘハ職業組合又ハ差別輸入税ノ施行ニヨリテ經濟理法ヲ破ルト言ヘル時ノ如キ皆此意義ニ外ナラサルナリ唯夫レ學ノ理法ハ理法自身ノ活動ヲ明示スルノ效用アルノミ吾人カ此理法ヨリ演繹シテ前途ヲ知ルノ指導トスルニ必要ナルノミ之ニ對シテ何等ノ評論ヲ有セス又何等ノ救済ヲモ與ヘサルナリ故ニ斯ル理法ハ全ク無意味ニシテ且ツ無益ナリトノ非難ナキヲ得ス然レトモ是レ總テノ理法ニ共通スルコトニシテ獨リ經濟理法ニノミ限ラサルナリ然レトモ之ヲ他ノ理法ニ比スレハ余輩ハ又此種ノ非難

ノ不當ナラサルヲ見ルナリ蓋シ凡ソ理學の理法ナルモノハ先ツ不變ノ情況ヲ假定シ此情況ニ變化アルトキハ原因結果ノ關係ヲ變動スヘキ新理法ヲ生スルモノナリ而シテ吾人ハ有形理學ニ於テハ經濟學ニ於テルヨリモ遙ニ大ナル程度ニ迄事情ノ一機ナルヲ認ム是レ此等ノ學ヲ以テ正學(exact Science)ト稱スル所以ナリ例ヘハ數學ノ如キハ事情決シテ變化セサルモノニシテ一切ノ學問中最モ正確ナルモノト稱セラル然ルニ經濟ニ於テハ其事情ノ靜的勢力ニ伴フモノニアラスシテ却テ人間ノ感覺(feeling)情欲(passion)情緒(sentiment)及ヒ嗜好(taste)ノ變化ニ伴フモノナルカ故ニ決シテ完全ナル綜合的理法ノ存在スヘキモノニアラス完全ナル統一ノ存在セザルトキハ之カ適用ノ範圍狹少ニシテ多クノ效益ヲ收ムヘカラサルノ缺點アリ英國舊學者モ之ヲ覺知シタルカ故ニ此困難ヲ避ケシ爲メニ人間ヲ支配スヘキ事情ヲ假定シテ一個ノ欲念即チ富ニ對スル人欲ノミヲ採擇シ彼等ノ周圍ニ存スル制限ヲ顧ミス經濟理法ハ彼ノ引力以外ノ力ヲ度外セル力學理法ノ如キノミト爲セリ然レトモ此經濟理法ノ度外セル各種ノ事情ハ力學理法ニ於ケルヨリモ其例外トスルモノ餘リニ多種ナリ余輩ヲ以テ之ヲ見ルニ各經濟問題ノ周

圖ニ存スル事情ノ大複雜及大變化ハ到底大規模ニ於テ一般法ヲ抽出スルニ適セ
サルナリ若シ強ヒテ一般法ヲ作成セントスレハ殆ト其用ヲ爲ス能ハサルニ至ル
ヘシ故ニ經濟理法ハ眞ノ定理ニアラスシテ唯原因結果ニ關スル一般の傾向ノ表
示ナリト言フヲ以テ満足セサルヘカラス余輩ノ謂ユル理法ナルモノ亦此概念ニ
外ナラサルナリ

以上ヲ以テ理法ノ概念ヲ説明セリ以下乞フ理法ノ種類ニ關シテ少シク論スル所
アラントス

吾人自然的現象ヲ觀察スルトキハ事實ノ二種カ兩ナカラ共ニ相伴フテ現ハル、
場合又ハ其一カ他ノ一ニ次イテ現ハレ其間不變ノ關係ヲ有スルコト屢々アリ若
シ二種ノ現象カ斯ノ如キ一致ヲ以テ現ハル、トキハ吾人ハ左ノ如キ記述ヲナス
コトヲ得、シ即チ甲及乙ナル事件ハ常ニ共ニ起ルヘシト而シテ經驗ノ結果此ノ
如ク記述セラル、トキハ吾人ハ一般ニ法則(1)又ハ規則(2)ナル名稱ヲ附シテ
可ナルヲ見ルヘキナリ此場合ニ於テ若シ更ラニ廣ク且ツ深ク實驗ヲ累スレハ此
推定的一致ハ單ニ偶然ノ一致若シタハ一致ノ連續ニ過キスレテ別ニ其現象ト現

象トノ間ニ不變的ノ連結アラサルコトヲ示スコトモアルヘク又之ニ反シテ其一
致ニ關スル綜合觀察ハ全ク堅固ナル基礎ノ上ニ立テラレ若シ之ヲシモ規則ノ存
セサルモノトスルトキハ人間ノ實驗上規則ノ存スルモノハ他ニ場合ナキ程ニ正
確ナルモノニアルヘシ

又時トシテ更ラニ左ノ如ク記述シテ可ナルモノアリ甲ナル事件ハ常ニ其結果ト
シテ乙ナル事件ヲ生スト言フコト之ナリ吾人經濟ノ結果此ノ如ク記述シテ可ナ
ルモノナルトキハ是レ單ニ現象ト現象トカ定マレル前後ヲ爲セルモノト言フヘ
キニ止マラスシテ實ニ其間ニ亦原因結果ノ關係ヲモ含ムモノト言フテ可ナルモ
ノナリ而シテ更ラニ實驗ノ試驗ヲ累スレハ其規則ノ眞理ナルコト益々確實トナ
ルヘキヤ疑フ容レス或ル學問ニ於テハ記述上ノ事實ヲ研究シ比較シテ感知セラ
レタル假定的法則(Hypothetical Law)ヲ試驗スル方法トシテ實驗ノ手段ニ依ルモノ
少ナカラス此場合ニ於テ世人ハ其實驗ニ關スル一切ノ材料ハ其實驗者ノ責任ニ
屬スルモノトシテ満足ス而シテ此實驗ニヨル試驗カ單ニ過去ノ記述的試驗ト一
致スルノミナラス更ニ實驗中ニ得ラレタル實例ニ對シ一般の一致ヲ見ルトキ

ハ之ヲ理法(Law)ト稱スヘキヤ論ヲ俟タス何トナレハ有形理學ニ於ケル理法ナルモノモ此意味ニ外ナラスシテケブラー氏ノ行星動ニ關スル法則ノ如キ皆然ラサルハナクテハナリ惟フニ經濟理法ト雖モ既知一切ノ事實ニ一致シタル過去ノ實驗ヨリ抽出綜合セラレ其正確ヲ決スル爲メ幾度カ試驗セラレ而シテ能ク現在ニ至ル迄其一切ノ試驗ヲ満足セシメタルモノナキニアラス然レトモ經濟理法中此ノ如ク正確ナルモノ、稀ナルハ既ニ論シタルトコロノ如シ唯各理學ニ於テ支分法則(Derivative Law)ト稱セラル、モノニ至リテハ經濟理法中決シテ少ナカラスト言フコトヲ得ヘシ此法則ハ直接的觀察ニ依リテ定メタル規則ノ集合ニ外ナラサルカ故ニ經濟學上一般ニ所謂原則(Principles)ト稱スルモノ正ニ之ニ該當スヘシ何トナレハ經濟學ハ此原則ヲ是認セテレハ結果ヲ推定スル能ハスシテ結局經濟現象ハ因果的現象ナラスト言ハサルヘカラサレハナリ唯此原則ハ多數原因ノ結果ヲ合同シ複雑ナル原因ノ複雑ナル結果ニヨリテ成立スルモノニシテ極メテ複雑ナル性質ノモノ多キカ故ニ其中ノ何レノ原因カ其結果中ノ何レノ結果ニ適當スルヤヲ分明ナラシムル能ハス而カモ斯ノ如キハ寧ロ經濟理法中ノ大部分ヲ占ム

ルモノナルモ吾人ハ此原則ニ依リテ以テ經濟現象ニ於ケル一定ノ傾向ヲトスルニ足ルカ故ニ理法ト稱スルソ差支ナキヲ信ス余輩ハ經濟理法ヲ以テ決シテ絶對ノモノト主張セス然レトモ廣汎ナル範圍ナカラモ其中ニ過去及ヒ現在ノ實驗ヨリ抽象綜合シタル法則アリテ此法則ハ將來ニ於ケル假定的事情ノ結果ヲ豫言スルニハ有力ナル助力ヲ爲シ得ルヤ疑ナキナリ博士マリーシャル氏カ經濟學上ノ理法ハ直説體ニ表示セル傾向ノ記述ニシテ命令體ニ於ケル道德的訓示ニアラスト言フモノ全ク之カ爲メナリ今其經濟理法ノ重要ナルモノヲ舉クレハ凡ソ左ノ如シ

第一 欲念順位法(Law of Subordination of wants)

此法則ハベンフィールド氏ニヨリテ説述セラレタルモノニ係リテ能ク實際ノ經驗ニ合スルモノナリ氏ノ言ニ曰ハク下位ノ欲念ノ満足ハ更ラニ高位ノ欲望ヲ生ストゼボンス氏ハ此場合ニ於テ其下位ノ欲念ハ決シテ絶對ニ満足セズ其満足ハ一定點ニ進ムヤ否ヤ更ラニ此下位ノ欲念ニ對スル満足ヲ増サント望ムヨリモ別ニ高位ノ欲念ヲ満足セシメントスル欲望一層ノ切ナルヲ感スルノミナ

ルカ故ニ此法則ノ意義ハ之ヲ訂正シテ下位ノ欲念カ満足スルトキハ更ラニ高位ノ欲念ヲシテ現出セシムト爲スヘシト論セリ蓋シ吾人ノ欲望ハ其或ル點ニ於テハ分量ニ對シテ望ムヨリモ變化ニ對シテ多クヲ望ムコト疑ナキノ事實ナルヲ以テ分量ニ對スル欲望ノ未タ全ク滿タサレサルニ他ノ欲念ノ満足ヲ求ムルコト決シテ少カラス故ニ欲念順位法ト言フヨリモ欲念變化法(Law of variety)ト言フノ優レルニ若カサルヘキカ抑モ又二者ヲ並ヒ存ストスルニ敢テ支障ナキナリ

第二 飽念法 (Law of Satiable wants)

此法則ハ博士マーシャル氏カ以テ彼ノ效用漸減法ノ名稱ニ代ハリテ擇フヘキモノナリト主張セルトコロノモノナリ何トナレハ效用漸減法ハゼボンス氏カリチャードゼンクス氏ヨリ襲用シタルモノナルカ此飽念法ハ之ヨリモ先キニ立ツヘキモノナレハナリ凡ソ吾人ノ感覺ハ一切ノ場合ニ於テ物量ノ消費セラルハニ伴フテ満足ノ程度ヲ正比例ニ進ムルモノニアラス吾人ノ満足ハ吾人ノ感覺ニ向ツテ提供セラレタル物量ノ各増加ト共ニ同様ノ進歩ヲ爲シテ然ル後

チ儼然トシテ其欲念停止スルモノニアラス必スヤ漸ク以テ減退シ遂ニ結局ハ其欲念消失シ而シテ最早其以上ノ增量ハ一ノ満足ヲモ生スルコトヲ得サルモノナリ之ヲ是レ飽念法ト云フ

第三 效用漸減法 (Law diminishing utility)

需要法則ノ基礎タル人性ニ關スル事實ハ此效用漸減法ニヨリテ明示セラル博士マーシャル氏ハ之ニ關シテ左ノ如ク言ヘリ

貨物ノ全部效用 (total utility) 即チ全興樂力 (total pleasure of ording power) ハ之ニ關スル其人ノ保有高ノ新加スル毎ニ増加スヘシ然レトモ其保有高ノ増加スルト共ニ忽チ増加スルモノニアラス唯若シ之ニ關スル其人ノ保有カ一様ノ割合ヲ以テ増加スルトキハ之ヨリ生スヘキ愉快ハ漸減ノ歩合ニ於テ増加スヘシ要スルニ或人ニ對スル貨物ノ限界的效用 (marginal utility) ハ彼カ既ニ有スル額量ノ増加スル毎ニ漸減スヘシト言フニ在リ之ヲ是レ效用漸減法ト言フ

第四 報酬漸減法 (Law of Diminishing returns)

凡ソ産業ニ關シテ共同ヲ要スル生産要素中一ハ不變ニシテ他ノ一又ハ二カ増

加スルトキハ其産業ノ産物ハ概シテ増加セサルヘカラサルナリ然レトモ其産物ノ増加ハ一定ノ限度ニ達スルトキハ其生産要素ヲ増加シタル割合ヨリモ少
度ノ割合ニ於テ現ハル、ヲ實驗スヘシ吾人ハ此場合ニ於テ其産物ハ報酬漸減
ノ法ニ從フモノト云フナリ

通例ノ説ニ於テハ法則ノ論ト其適用ノ論トヲ混用シテ同一ノ土地ニ増加ノ資
本及勞力ヲ投資セル場合ノミヲ論スルモ此法則ハ法トシテハ尙ホ廣キ適用ヲ
得ヘキモノニシテ獨リ土地ノ格段ナル場合ノミニ限ルノ要ナシ但シ實際ノ適
用ハ自然ノ場合ノミナラン

第五 報酬漸増法 (Law of Increasing Returns)

曩ニ漸減法ノ項下ニ假定シタル事情ノ下ニ於テ若シ産物ノ増加カ關係生産要
素ノ増加セル場合ヨリモ多大ナル割合ヲ以テ現ハル、トキハ報酬漸増法ノ行
ハル、モノト云フヘシ其適用ハ製造産業ノ如ク組織ノ改良ニヨリテ生産ノ規
模ヲ増大ナラシムルコトヲ得ルモノニ存ス又人口ノ増加スルモ其平均的個人
ノ勢力カ衰頽スヘキ事情ノ伴ハサルトキハ彼等ノ集合的生產力ハ其人口ヨリ

モ多大ナル割合ニ於テ益々増加スヘキカ故ニ漸増法ハ大ナル國民産業ニモ適
用セラルヘキナリ

第六 不變報酬法 (Law of Constant Returns)

凡ソ産業ノ規模ヲ増進スルトキハ概シテ其産物ノ生産費モ比例的ニ變化スル
モノナリ然レトモ若シ原始産業ノ益々困難ナル(此場合ニハ報酬)コトカ製造産
業ニ於ケル組織ノ改良ニヨリ益々好況(此場合ニハ報酬)ナルコト相殺スルトキ
ハ吾人一般ノ經濟ハ確實ナル均衡ヲ見ルコトヲ得ヘク即チ産物ハ勞力及出費
ノ増進ニ比例シテ増進スルヲ見ルヘキナリ斯ル場合ニ於テ此不變報酬法ハ現
ハル、ナリ

第七 需用供給ノ法則 (Law of demand and supply)

凡ソ如何ナル産物ト雖モ需要多クハ價格高ク、需要少ケレハ價格少ナク、供給
多クハ價格少ナク、供給少ケレハ價格高ク換言スレハ物價ハ需要供給ニヨリ
テ決定ス之ヲ需要供給ノ法則ト言フ

第八 生産費ノ法力 (Law of Cost)

供給自在ナル産物ハ其生産費ノ多少ニヨリテ供給ヲ支配セラレ結局其價格ヲシテ生産費ト同額ナラシムルノ傾向ヲ有ス之ヲ生産費ノ法則ト言フ

第九 不偏法 (Law of indifference)

凡ソ同一ノ公開市場ニ於テハ同一時ニ於テ一種類ノ物品ニ關シテ二個ノ價格存在スルコトナレトノ法則ナリ之ヲ下配ニ謂ユル代位法 (Law of Substitution) ノ別例ニ關スル法則ト云フモ可ナリ何トナレハ此法則ハ其代位スル貨物ハ常ニ其代ハラル、貨物ト同種ナル假定ニ基クモノナレハナリ但シ此法則ハ又其當事者ヲ以テ充分ノ知識ヲ有シ充分自己ノ利益ヲ求ムルニ敏ニシテ能ク同時同處ニ於テ同種ノ品ヲ需要スル他人ヨリモ多クヲ何人ニモ支拂ハサルコトヲ得ルメ能力アルモノナリトノ推定ヲ條件トスルモノナレハ時々實際ノ場合ニハ其適用ヲ見ル能ハサルコトヲ然レトモ吾人ハ結局斯ノ如キ傾向アルヘキヤ疑フ容レズ

第十 代位法 (Law of Substitution)

凡ソ一定ノ結果ヲ生スヘキ二種以上ノ方法アラハ吾人ハ其實效アル最少費ノ

方法ヲ選擇スヘシ若シ此場合ニ於テ一切ノ事情ヲ參酌スルモ二者ノ費用同一ナルトキハ其何レノ方法ヲ採ルヘキヤ定マルコトナキモ其間苟モ少許ノ差異アラシニハ必ス一ハ他ヲ驅逐スヘキナリ之ヲ代位法ト云フ

但シ此法ノ實行ハ其代位ノ實行ヲ得ルヤ否ヤニ關係スルコト勿論ナルノミナラス又當事者カ此代位ヲ行ヒ得ヘキ知識並ニ之ニ依レハ生産費ヲ減スヘシトノ觀念ヲ有スルノ程度ニ關係ヲ有スルカ故ニ若シ必要ナラシニハ定義中ニ之ヲ明示スルヲ可トス

以上ノ外人口ノ法則「ダレシヤム」ノ法則、交互相償法、勞銀ノ法則、地代ノ法則等ノ如キ甚ク顯著ノモノナリトス(詳論)

第一卷 價值成立論

價值トハ俗ニ稱スル「ホウチ」ニシテ獨逸語ニ於ケル (Worth) ニ相當スルモノナリ英語ニ (Value) ナル語アリアダムスミス氏ハ此 (Value) ヲ分チテ (Value in use) ト (Value in exchange) トノ二義トセリ果シテ然ラハ氏ノ用語ニ於テ廣義ナル「バリエー」ハ全ク廣義ナル此價值ニ相當スト云フコトヲ得ヘシ而シテ「バリエー」ニ付キ英國學者中

シヤドウエル及ヒパライスノ如キハ之ヲ人ノ認識ナリトシケヤネス及ヒオルカ
 トノ如キハ物ニ存スル購買力ナリトシマクラウド及ヒゼボンス氏ノ如キハ關係
 ト云ヒ事情ナリトセリ「ウエル」ニ付キテ獨逸學者中ロツシエルノイマル氏ノ如
 キハ人ノ思想ノ結果ナリトシスミツト氏ノ如キハ有用ノ程度ナリト云ヘリ要ス
 ルニ一般ノ學說ハ價值ヲ以テ專ラ人ノ認識ニヨルモノト主張スル者及ヒ物ニ存
 スル性質又ハ能力ナリト主張スル者ノ二ツニ分カタル、カ如シ然レトモ物ニ價
 値ノ發スルハ獨リ人欲ニノミ歸スヘカラサルト同時ニ又單ニ物ノ性質トノミ爲
 スベカラス人欲ニ充ツルニアラスシテ價值アルヘキノ理ナキト同時ニ物ニ人欲
 ニ應シ得ル所以ノ性狀ナクシテ價值アルヘキノ理ナキカ故ニ結局ノトコロ價值
 ハ物ノ性狀カ人ノ欲念ニ應シ得ル所以ノ關係ニシテ價值ナルモノハ欲念其者ニ
 モアラス又物ノ性狀其者ニモアラス要ハ心ト物トノ間ニ生スル一ノ關係ニシテ
 之ヲ主觀スレハ満足ノ程度(主觀的)ノ如ク之ヲ客觀スレハ物ノ對物力(客觀的)ノ如
 ク看做サル、抽象的名稱ト云フノ外ナシ更ラニ換言スレハ價值ハ經濟學ノ主眼
 ニシテ物的現象ト心的現象トノ關係ナリト言フヲ得ヘシ是ヲ以テ余輩ハ先ツ本

編第一章トシテ左ニ人ノ欲念ノ理法ヲ論シ次ニ第二章トシテ物ノ效能ノ理法ヲ
 論述シ人欲ト物欲心的現象ト物的現象ト二者相待ツテ初メテ價值ノ成立スル所
 以テ證明セリト欲スルナリ

第一章 人欲 (Want, Bedürfnis)

人欲即チ人ノ欲念ハ人類ノ有スルアンゲノム 覺感ベウゲツ 情欲セウキョク嗜好ノ發動ニシテ其缺如タ
 ル有様ニ於テ苦痛ヲ感シ其満足スル有様ニ於テ愉快ヲ覺ユルノ心的現象ナリ
 此缺如ト満足トノ關係苦痛ト愉快トノ關係ハ俱ニ以テ心的現象ノ兩極ヲ成スト
 コロノ比較的ノ感覺ニシテ一ノ實在ハ他ノ空亡ヲ意味シ他ノ增長ハ一ノ減消ヲ
 意味ス換言スレハ非愉快カ其儘ニ苦痛ニシテ非苦痛カ取モ直サス愉快ナリ故ニ
 缺如タルヲ補足シ苦痛ヲ去ル所以ハ即チ満足ヲ求メ愉快ニ就ク所以ナリ而シテ
 愉快ニ就カントスレハ苦痛ヲ去ラサルヘカラス満足ヲ求メトスレハ缺如ヲ補
 フノ外アルコトナシ是ニ於テカ人欲即チ心的現象ノ好傾向ハ其缺如タル有様ヲ
 救助スルノ一方ニヨリテ之ヲ得ヘキナリ
 心ノ缺如タル有様ニ三ノ階級アリ一ハ即チ生存ノ欲念ニ對スル缺如ニシテ二ハ

即チ發達ノ欲念ニ對スル缺如三ハ即チ驕奢ノ欲念ニ對スル缺如ナリ此心ノ缺如タル三者ノ階段ハ各一人ノ心狀タルト同時ニ亦是レ社會萬衆ノ心狀ナリ故ニ社會ノ萬衆ハ亦之ヲ分チテ凡ソ三段ノ欲層トナスコトヲ得ヘシ一ニ曰ハク生活ノ欲層二ニ曰ハク便宜ノ欲層三ニ曰ハク奢侈ノ欲層即チ是レナリ而シテ生活必要ノ欲念先ツ滿チテ然ル後ニ便宜ノ欲念ニ及ヒ便宜ノ欲念滿チテ然ル後ニ奢侈ノ欲念ヲ充タサントスルコト謂ユル欲念順位法ノ認ムル所ナルカ故ニ社會ノ三欲層中生活ノ欲層ハ最急ニシテ最厚便宜ノ欲層ハ中位ニシテ稍厚奢侈ノ欲層ハ最緩ニシテ最薄ナルコト通常ノ事態ナリトス此各人及ヒ各層ニ於ケル心狀ノ缺乏ハ欲念ノ發動ヲシテ自ラ緩急ノ別アラシム從ツテ此觀念ノ緩急ニ應ジテ價值ノ成立ニ大小ノ別アルヲ致スヘキナリ故ニ若シ單ニ欲念順位ノ靜態ヲ觀察スレハ生活ノ欲念ヲ充タスモノハ大ナル價值ヲ成立セシメ奢侈ノ欲念ヲ充タスモノハ小ナル價值ヲ成立セシムヘキノ理トス

然レトモ人欲ハ常ニ能ク變動ス檢樂モ暫クニシテ飽倦ヲ生シ苦痛モ漸クニシテ忍耐セラル而シテ其他キ其忍フノ間人ノ欲念ハ満足ノ形ヲ存ス此満足モ永久ノ

モノニアラスシテ忽チニ明滅スヘキモノナルモ其更ラニ新變化ヲ起スニ至ルヲテハ欲念緩和スルカ故ニ此欲念ヲ充タスモノニ小ナル價值ヲ成立セシム之ヲ人欲飽忍ノ法則ト稱シテ動態ヨリ觀察セル心性ノ第一トス

動態ニ於ケル人欲ノ第二ハ人欲變化法ノ證スル所ナリ此法ニ從ヘハ人ノ欲念ハ人欲以外ノモノニヨリテ變動セラル、ノ外欲念自體ニ於テ能ク自ラ變化スルモノトス而シテ其變化ハ一定ノ欲念既ニ一タセ充タサル、モ忽チニ飽念セスシテ更ラニ益々増進スルモノト又ハ全ク他ノ方面ニ新ナル擴張ヲ開クモノトアヲ前ノ場合ヲ人欲増進(intuition)ト稱ス斯クノ如クニシテ欲念増進スレハ之ヲ充タスモノヲシテ益々大ナル價值ヲ成立セシメ欲念擴張ノ場合ニ於テハ新擴張ノ方面ヲ充タスモノニ大ナル價值ヲ成立セシムヘキノモ此擴張ノ爲メニ減欲又ハ廢念セラレタル方面ヲ充タスモノハ小ナル價值ヲ成立セシムルカ又ハ全ク無價值ニ歸スルノ外ナキナリ

以上各人各層ニ於ケル順位ノ欲念飽忍ノ欲念増進及ヒ擴張ノ欲念ニ應シ之ヲ充タスモノハ人欲以外ニ存スル物及ヒ其物能ナルカ故ニ前記大小各種ノ價值ハ單

經濟學原論 價值成立論 人欲

本

ニ人欲ノ靜動ノミヲ以テ成立スルモノニアラス必スヤ物及ヒ物能ノ存セサルヘ
カラサルヲ知ルニ足ルヘシ

第二章 物能 (Utility Güterqualität)

物能即チ物ノ效能トハ物カ人ノ欲念ニ應シ得ル所以ノ性狀ニシテ物其モノニ固
着シテ一體ヲ成シ體ニ於テハ物ト稱セラレ用ニ於テハ能ト稱セラレ其内包ヲ細
別スレハ一ニ曰ハク性質 (quality) 二ニ曰ハク形狀 (form) 三ニ曰ハク位置 (position) ト
云フ物的現象ニ外ナラサルナリ物ニ於ケル此等ノ性狀ハ硬軟黑白千差萬別ヲ極
メ之ニ對スル社會萬衆ノ人欲モ亦千差萬別ニシテ硬ヲ欲シ軟ヲ厭ヒ黒ニ就キ白
ヲ去ラントス面シテ硬ヲ欲スル人欲ニ對シ硬性ノ物アツテ大ナル價值ヲ生シ黒
ヲ好ムノ人欲ニ對シ黑色ノ物アツテ大ナル價值ヲ生スルカ如ク千差ノ人欲ニ應
シ萬別ノ物能ニ從ヒテ無限無差別ノ價值ヲ成立セシムルノ理ナリト雖トモ萬別
ノ中必ス平等アリ人欲モ物能モ各種ノ無限ノ差別ヲ有スルト同時ニ又其中自ラ
相同似スルモノアルカ故ニ異ヲ合シ同ヲ集ムレハ萬衆ノ人欲必ラス相類スル所
多ク萬物ノ性狀亦相近キモノアラントス斯クノ如クニシテ萬衆ノ人欲ヲ彙類シ

之ニ應シテ萬物ノ性狀ヲ類別スルトキハ其性狀ハ先ツ第一ニ生活用便益用及ヒ
奢侈用ノ三類トナリ第二ニ此各類ヲ細別シテ多クノ人欲ニ適應スル性狀及ヒ少
ナキ人欲ニ適應スル性狀ノ二種トナシ更ラニ此各種ニ付キテ又多ク適スルモノ
及ヒ少ナク適スルモノトナシ世人ハ其多ク適スルモノヲ良品ト稱シ少ナク適ス
ルモノヲ劣品ト稱スルヲ見ル吾人ハ之ニ依リテ以テ大體ノ上ヨリ各物ニ付キ大
小異別ナル價值ヲ推定スルコトヲ得ヘシ例ヘハ生計品ニ於テ米ハ麥ヨリモ便益
品ニ於テ横倚子ハ立倚子ヨリモ奢侈品ニ於テ錦繡ハ絹布ヨリモ大ナル價值ヲ成
立セシムルト云フ如キ是レナリ
異種ノ品種ニ關シテ吾人ハ其物能ノ適否ニ依リ價值ノ大小ヲ推定スルコトヲ得
ルト同時ニ又同種ノ物品ニ關シテハ其物量 (數) ノ多少ニ依リ價值ノ多少ヲ推定ス
ルコトヲ得ヘシ今夫レ米五石ト米一石トヲ觀察スル場合ニ於テ此兩者ヲ同種ノ
品質 (純物) ナリトシ而シテ米一石ノ全部カ人欲ニ適應スル價值ト米五石ノ全部カ人
欲ニ適應スル價值トヲ問フトキハ米五石ハ米一石ヨリモ價值ノ多キコトハ論ヲ
俟タス (全部價值) セボソス氏ノ謂ユル全部效用ノ理法トス

同種ノ物能アリトスルモノニ關スル全部價值ハ其兩者ノ數量ノ多少ニ依リ價值ノ多少ヲ生スルコト以上ノ如シト雖モ若シ前例ノ場合ニ於テ米五石ノ總量中各一部分タル一石ノ價值ヲ問フトキハ其各部タル一石ハ總量タル五石ノ五分ノニ相當スル價值ヲ存スルモノニアラス何トナレハ此場合ニ於テ各部一石ノ物能ハ決シテ異同アルコトナキモ各一部ノ物能ニ對スル人欲ノ向背ハ同様ナラサルヲ以テナリ試ミユ吾人カ一日ニ平均消費スルトコロノ飯米ノ全量ヲ五合トシ之ヲ均等ニ五分シ其最後ノ一合ヲ食料ヨリ減セラレト假定セヨ吾人ハ尙ホ甚クシキ苦痛ヲ感セサルヘキモ最後ヨリ數ヘテ第二ノ部分ニ當ルヘキ一合ヲ減セラレシカ少シク缺乏ヲ感スヘク若シ更ラニ其第三部分タル一合ヲ欠クニ至ラシカ吾人ハ明カニ有害ヲ感シ更ラニ愈之ヲ減スレハ減スルニ從フテ吾人ノ病苦ハ層一層ニ嚴急ヲ加ヘ來リ終ニ飢餓ノ悲境ニ沈淪スルニ至ラトス故ニ吾人ノ此飯米ニ對スル欲念ハ第一部分タル一合ヨリ第二部分タル一合第三部分タル一合ト云フ如ク各部ノ進ムニ從フテ後分ハ前分ヨリモ價值ヲ減スルコト益少ナキヲ覺ルヘキナリ斯クノ得クニシテ部分價值ハ數量ノ多少ニ反比シテ多少ヲ生ス之ヲ

セボンス氏ノ謂ユル最終效用ノ理法トス

要スルニ人欲ト物能トカ價值成立ノ要素ニシテ人欲ノ向背ト物能ノ適否及ヒ物量ノ多少トカ價值ノ大小及ヒ多少ヲ現出スル所以ノ理法以上論述シタル所ノ如クナルヲ以テ物ハ始メヨリ價值アル物(富)ト價值ナキ物(貧)トニ區別セラルヘキモノニアラス物ニ價值アル場合價值ナキ場合價值ノ大ナル場合小ナル場合又ハ價值多キ場合ノ差別アリト云フニ止マルナリ

第三章 物能ノ種類

物能ハ物カ人欲ニ應セントスルニ當リ其自然ノ性狀ヲ以テ直ニ人欲ニ適應スルヲ得ルト生産ノ手續ヲ經由シテ始メテ之ヲ適應スルヲ得ルトニヨリテ之ヲ自然物能及ヒ生産物能ノ二種ニ區別スルコトヲ得ヘシ

第一 自然物能

自然物能トハ生産ニ由ラスシテ自然ニ存スル物能ニシテ其自然ノ性質、形狀及ヒ位置ニ於テ直ニ人欲ニ應スルコトヲ得ルモノナリ例ヘハ日光、空氣、水ノ常狀ノ如キ是レナリミルノ謂ユル自然貨物ト稱スルモノ、性狀即チ是レナリ但シ

此等ノ自然貨物ト雖モ生産ノ手續ヲ經由セザレハ人欲ニ應スルコトヲ得サル
コトアリ此場合ニ於テハ生産物能ヲ有スルコト、ナルヘキハ論ヲ俟タス

第二 生産物能

生産物能トハ生産ノ手續ヲ經テ始メテ人欲ニ適應スルコトヲ得ヘキ物能ノ謂
ニシテ一般學者ノ謂ユル經費貨物ナルモノ、性狀即チ是レナリ蓋シ自然物能
ハ其人欲應給ノ效用ニ於テハ極メテ必要ニシテ欠クヘカラサルモノナリト雖
モノハ鳥魚ト異ナリ獨リ之ノミテ以テ生存スルコトヲ得ス自然物能以外ニ於
テ又大ナル應給ヲ得サルヘカラス而シテ此應給ハ生産ノ手續ヲ經由スルニア
ラサレハ直ニ現出スルモノニアラサルカ故ニ此物産ヲ發起シ作成スル爲メニ
生産作用ノ必要ヲ見ル是ニ於テ經濟上ニ於テハ生産物能ニ關スル問題ヲ以テ
最モ重要ノ問題トナサ、ルヲ得ス

此生産物能ハ之ヲ分チテ終極物能及ヒ手段物能ノ二種ト爲スコトヲ得ヘシ終
極物能トハ一般ニ謂ユル生活又ハ娛樂的人欲ニ對シ直接應給ヲ爲スノ性狀ニ
シテ例ヘハ食糧ノ效用ノ如シ手段物能トハ終極物能ヲ生産スルニ必要ナル牛

産手續タルヘキ物能ニシテ例ヘハ綿ノ製造ニ必要ナル材料器具即チ小麦鹽水
煎爐及薪炭ノ效用ノ如キ是レナリ但シ吾人ハ此區別ノ絶對的ニアラスシテ關
係的ナルコトヲ忘ルヘカラス何トナレハ鹽及薪ノ效能ノ如キハ常ニ必スシモ
手段的效能ニアラスシテ以テ直ニ人ノ食ニ供シ又ハ暖ヲ採ルノ用ニ充テラル
ヘク然ルトキハ終極的物能ヲ有スルニ相違ナケレハナリ

第四章 生産ノ物能

生産(Production)トハ抑モ何ソヤ之カ解答ニ付キスミス氏ハ生産トハ物體ニ固着セ
ル價值(固着セル價值ト云ヘル意義)ヲ生スル勤勞ナリト云ヒセイ氏ハ功用ヲ造ル
ノ義ナリト云ヒミル氏ハ有形ノ富ヲ造クルノ義ナリト云ヒマクラウト氏ハ(Prod
uction)トハ前ニ引出スノ行爲ナリ故ニ市場ニ提出スルノ義ナリト云ヒロツシエ
ル氏ハ貨財ノ價值ヲ創作シ増進スルノ義ナリト云ヒロソフホヒチ氏ハ人類ノ
行爲ニ依リテ物ノ用能ヲ抽出スルノ義ナリト説ク余輩ハ生産ヲ以テ富ノ生産
ニアラスシテ物能ノ生産ナリトスルモノナルカ故ニ大體ニ於テスミス及セイノ
定義ニ同意スルモノナリト雖モ其範圍ヲ定ムルノ點ニ於テハマクラウト氏ノ市

場提出ナル文字ヲ借用セシム欲スルナリ是ニ於テカ我輩ノ所謂生産トハ獨リ原料ノ產出ハミニアラスシテ其形狀ヲ變更シ保存シ更テニ之ヲ有用ノ位置ニ移スニ至ルマテハ順序的作用ヲ總稱スルナリ語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ人ノ欲念ニ適應スル所以ノ物能(性質形狀)ヲ作成スルノ作用ニ外ナラサルナリ

吾人ハ以上ノ定義ニ依リテ生産ハ勤勞ニアラスシテ作用ナルコトヲ斷言ス是レ蓋シ生産ナルモノハ獨リ人ノ勞力ノミニヨラスシテ獸畜器械ノ動力原料及ヒ自然ノ作用ノ結合ニ外ナラサルヲ以テナリ英獨一般ノ學者ハ殆ント皆生産ヲ以テ人ノ行爲又ハ勤勞ナリトスルニ拘ハラス其生産ノ要素ナルモノヲ説明スルニ當リ自然ト勞力トヲ列記スルハ吾人ノ最モ怪シム所ナリ若シ生産ニシテ人ノ勤勞又ハ行爲ナリトスレハ生産其者既ニ勤勞ナルヘキヲ以テ勤勞モ自然モ生産ノ要素ト稱スヘカラサルカ如シ是レ吾人カ生産ヲ以テ勤勞ナリトセサル所以ナリ然レトモ生産者ト云フトキハ素ヨリ人格ヲ指稱スルモノナルカ故ニ自然勞力又ハ資本ヲ給付スル個々ノ人格ヲ云ヒ(地主勞力者及資本家等)又生産業者又ハ企業者ト云フトキハ此等ノ給付ヲ受ケ又ハ自ラ之ヲ統合シテ生産ヲ主管スル獨立ノ經濟人格(農上業者)者(農上業)如キヤ云フトアリトス

第五章 生産ノ種類

生産ハ物能ノ生産ニシテ物能ハ物ノ性質形狀及ヒ位置ナルカ故ニ生産ハ其物能ニ關スル作用ノ順序目的及ヒ效果ニ依リテ其種類ヲ區分スルコトヲ得ヘシ

第一、原産變更及ヒ轉所

物能ニ階段アルカ故ニ之ヲ生産スル作用亦自ラ順序アリ此順序ニヨリテ生産ヲ區別スレハ生産ハ原始的生産變更的生產及ヒ轉所的生產ノ三種トナル

一 原始的生產 トハ耕作採鑛牧畜養蠶漁獵及ヒ植林ノ如ク凡ソ原物ノ採取培養ニ關スル原産作用ノ謂ニシテ物能ニ對シテ之ヲ見レハ性質ノ採出ニ關スル生産ト云フトヲ得ヘキナリ農業鑛業牧畜業漁業林業等ニ關スル土地資本勞力及ヒ其管理一切ノ作用ハ之ニ屬ス

二 變更的生產 トハ原料作用ニヨリテ得ラレタル原物ニ加工シテ其形狀ヲ變更スルノ生産ニシテ例ヘハ棉花ヲ以テ綿糸ヲ紡績シ鋼鐵ヲ以テ器械ヲ製造シ木片ヲ以テ紙ヲ製造スル如キヲ云ヒ物能ニ對シテ之ヲ見レハ其形狀ニ

關スル生産ト稱スルコトヲ得ヘシ世ノ謂ユル製造業、工業ニ關スル土地資本
勢力及ヒ其管理一切ノ作用之ニ屬ス

此生産ハ更ラニ小分シテ半成生産及ヒ完成生産ノ二種ト爲スコトヲ得ヘシ
甲 半成生産 トハ原物ヲ原料トシテ之ニ加工シ之ヲシテ完成品ノ材料ニ
適スヘキ物能ヲ有セシムルノ作用ニシテ製糸、紡績、煉鐵、冶金ニ關スル生産
ノ如キ之ニ屬ス

乙 完成生産 トハ原物又ハ半成品ヲ原料トシテ精製ヲ加ヘ之ヲシテ直チ
ニ終極ノ人欲又ハ完全ノ使用ヲ充タスニ適スヘキ物能ヲ有セシムル作用
ニシテ織物、器械、精糖ノ製造ノ如キ之ニ屬ス

然レトモ半成ト云ハル、モノニシテ直チニ人欲ニ應給セラレ、モノアリ
完成ト云ハル、モノニシテ尙ホ更ラニ加工ヲ要シ若クハ單ニ手段的物能
ヲ完成シタルニ過キサルモノアリ故ニ半成、完成ノ區別ハ關係的ニシテ絶
對的ニアラス吾人ハ先ツ一定ノ目的ヲ定メテ之ニ對シ關係的ニ完成、半成、
粗成ヲ認定スルノ外ナシ

三 轉所的生产 トハ原始生産ニヨリテ得ラレタル採取ノ原物又ハ變更生産
ニヨリテ得ラレタル加工物ヲ變形生産ノ地ニ又ハ終極使用ノ地ニ移轉スル
ニ必要ナル保存、運搬及ヒ交易ノ作用ニシテ運輸業、倉庫業、取引所販賣業等ニ
關スル土地、資本、勢力及ヒ其管理一切ノ作用之ニ屬ス

第二 自用生産及ヒ他用生産

自用生産トハ生産ノ主格(各經濟單位ノ主格者)カ單ニ自家ノ用ニ應給セシカ爲
メニスル生産ニシテ謂ユル 獨(Autarky)自(Autarky)經濟ニ於ケル生産ナルモノ是レナリ之ニ
反シテ他用生産トハ交易ノ目的ヲ以テ用ニ應セシカ爲メニスル生産ニシテ謂
ユル 社會(Social)經濟ニ於ケル生産ナルモノ即チ是レナリ文化未タ開ケス各人ノ生
活孤立ナル時代ニ在リテハ自用生産ノミヲ以テ生産ト爲シ之ヲ以テ一般ノ人
欲ハ個々獨立ニ應給セラレタリト雖モ文化稍進歩シ人ノ欲念發達スルニ從ヒ
交通頻繁ト爲リテ社交關係愈密接スルトキハ各人ノ技能自然ノ狀況及ヒ生産
ノ技術上分業ヲ以テスルニアラサレハ一般ノ人欲ニ應給スルコトヲ得サラン
トス茲ニ於テカ自用生産ハ擴張セラレテ他用生産ヲ兼行スルニ至リ更ラニ益

分業發達シテ現社會ノ如クナルニ至レハ自用生産ヲ行ハスレテ皆概シテ他用生産ヲ行フノ有様トナル換言スレハ現今ハ各人皆自家直接ノ用ノ爲メニ生産セス却テ他人ノ爲メニ生産シ各人ノ產物ヲ交易シテ茲ニ始メテ相互ノ欲念ニ應給スヘキ間接生産ヲ行フニ至ルモノト云フヘシ但シ現今ト雖モ邊陲ノ農家ニ在リテハ分業十分ニ行ハレタルカ爲メ自用生産ヲ以テ主要ノ生産ト爲スモノ少ナカラスト

此自用他用ノ區別モ亦絕對ノモノニアラスシテ相對ナリ何トナレハ是レ唯觀察スル範圍ノ異同ニ依リテ相異ナルノミナレハナリ即一社會内ニ於テハ差別的觀察ヲ以テ各經濟人ノ生産ヲ見レハ自用又ハ他用ノ別アリト雖モ若シ經濟單位ヲ擴張シテ一社會其者ヲ一ノ經濟體トシテ平等的觀察ヲ爲ストキハ各人ノ生産ハ皆社會ノ自用生産ナリト云フコトヲ得ヘシ然レトモ更ラニ進ンテ此經濟ノ單位ヲ字内トシテ見ルトキハ各國ノ生産ハ相互ニ他用生産ヲ爲シツ、アルノ狀況ナリト云フヘシ

自用生産ト他用生産トハ更ラニ其目的成果トスルトコロ亦相異ナレリ即チ自

用生産ノ目的ハ生産技術上ノ結果ニシテ產額ノ多少ニ存スルモ他用生産ノ目的ハ生産技術上ノ結果ニアラス事口其交易ニ依リテ取得セラルヘキ經濟的功即チ利益ニ存セリ故ニ自用生産ハ單ニ之ヲ生産ト稱シ他用生産ハ之ヲ益業ト稱ス斯クノ如ク其目的トスル成果ノ實質ハ相異ナルモ最少ノ出費ヲ以テ最多ノ成果ヲ得ントスルノ主義ハ全ク同一ナリトス

第六章 生産ノ要素

生産ハ原産變形及ヒ轉所ノ作用ニシテ採取培養製造保存運輸移轉ノ各業務ニ共通スル名稱ナルコト前章説ケル所ノ如シ故ニ其何レノ場合タルヲ問ハス各作用ハ直接又ハ間接ニ天然ノ補助ヲ受ケテ人間カ外界ノ物件ニ加フル力ニ因リテ遂行セラル、コト論ヲ俟タス而シテ此等ノ作用ノ爲メニ外部ニ發表スル人間ノ行為ヲ名クテ勞働又ハ努力ト稱シ人類ヲ圍繞スル外界ノ天恵ヲ指シテ自然又ハ天然ト稱ス換言スレハ天然ハ人間ニ供スルニ各種ノ天恵ヲ以テシ人間ハ努力ヲ以テ天然ヲ支配シ天恵ヲ利用シテ其物能ヲ生産スルナリ然レトモ天然ノ外向ホ人間ノ勞働之ヲ維持スルノ資本ナルモノアルコトヲ推定セサレハ生産ハ完全ノ作

用ヲ爲スコトヲ得ス故ニ天然勞力及資本ノ三者ヲ稱シテ生産ノ三要素ト云フ

第一節 天然又ハ土地

生産要素ノ一タル天然ハ土地ニ因リテ代表セラル土地トハ一定ノ面積原力若クハ原物ヲ固有シ以テ生産ノ場所トナリ又ハ生産ノ原力若クハ原物ヲ吾人ニ與フルモノヲ謂フ

第一 地積

地積トハ空間一定ノ位置ヲ填充スル土地自然ノ實積ヲ謂ヒ生産ノ場所ヲ吾人ニ與フルニ於テ生産上ノ天惠タルモノナリ

第二 原物

原物トハ地積内又ハ地積上吾人ト共ニ自然ニ現存スル動植礦三界ノ天惠物ヲ謂ヒ主トシテ生産ノ原子トナル

第三 原力

原力トハ地積内又ハ地積上ニ在リテ外界ニ活動スル諸種ノ天惠力ヲ謂ヒ吾人ハ之ニ依リテ生産ノ動力ヲ享有ス其中ニ就テ植物發生力及動物繁殖力ノ如キ

ヲ有機的の原力又ハ養分ト稱シ重力、弾力、膨脹力、風力、水力、光熱ノ如キヲ無機的原力ト稱シ電氣力、磁石力ノ如キヲ物理的の原力ト稱ス

經濟學上ニ於ケル土地ノ定義ハ以上ノ如クナルカ故ニ吾人ハ之ヲ地理學上ニ於ケル土地ト區別スルコトヲ要ス地理學上ニ於ケル土地ハ漸次經濟學上ノ土地ト爲リ得ヘシト雖モ其能ク生産ノ場所トナリ又ハ生産ノ原力原物ヲ吾人ニ與フルニ至ルマテハ之ヲ經濟學上ノ土地ト稱スルコトヲ得ス故ニ經濟學上ノ土地ヨリモ狹義ニシテ田野、山林、宅地、鐵區、通路、河川、沿海等ニ於ケル固有ノ自然ヲ總稱スルモノトス

土地カ生産ニ及ホスヘキ效用之ヲ土地ノ生産力ト稱ス土地ハ前記各種ノ種類ニ分ルト雖モ其生産力ハ大體上左ノ四要件ニ依リテ各々差異アリト云フコトヲ得ヘシ

第一 氣候ノ寒暖

土地ハ其地積カ存スル位置ニ於ケル氣候ノ寒暖ニ依リテ生産ニ及ホスヘキ效用ヲ異ニス

例へハ熱帯地方ニ於テハ一切ノ植物皆能ク繁殖セサルコトナシト云フノ有様ナルニ寒帯地方ニ在リテハ殆ト農耕ヲ行フニ適セスト云フノ有様ナルカ如キ是レ氣候ニ依ル生産力ノ異同ト云ハサルヘカラス本邦中北國ニ於テハトビ松白松ノ類多ク北緯三十度ノ以北ニ於テハ楠ノ類多ク以南ニ於テハ黒松ノ類多ク琉球臺灣ニ於テハ棕櫚、芭蕉、榕樹ノ類多キカ如キモ亦是レ同一ノ事情ニ基ケルモノナリ

第二 地表ノ形状

土地ハ其ノ地積ノ有スル外表ノ形状ニ依リテ生産ニ及ホスヘキ效用ヲ異ニス山地ハ概シテ平地ヨリモ耕作ニ適セス平地ト雖モ水利ノ通スルナク若クハ岩石多ク存スル所ニ在リテハ耕作ヲ行フニ適セス又植物ノ種類ニ依リテハ高燥ノ地ノミニ適スルアリ低濕ノ地ノミニ適スルアリ

第三 地質ノ良否

土地ハ其包有スル原力及ヒ原物ノ異同ニ依リテ生産ニ及ホスヘキ效用ヲ異ニス

抑モ植物ハ地下岩石ノ分化セル砂土中ヨリ加里及ヒ磷酸ヲ採リ又地外ヨリ、アソモニア及硝酸ヲ土壤中ニ化成スヘキ含窒質ヲ採リテ以テ生育發達スルモノナリ換言スレハ植物ハ礦物ノ原素ト動物ノ原素トヲ土壤中ニ分解シテ其養分ヲ吸收スルモノトス普通ニ謂ユル地味ノ良否又ハ土地ノ肥料トハ此養分ノ多少ヲ稱スルニ外ナラス

地質内ニ包有スル礦物ノ多少ハ亦是レ地質ノ良否ヲ定ムルモノナリ蓋シ礦物ノ種類及ヒ多少ハ前論ノ如ク養分ノ多少ヲ支配スルノミナラス之ニ依リテ工業上ノ原料ヲ與ヘ一般ノ生産ニ其效用ヲ及ホスヘキヲ以テナリ

以上土壤ノ養分及ヒ包有礦物ノ多少ニ基ク地質ノ異同及ヒ良否ハ各國ノ生産ヲシテ自然的ニ異同アラシム例ヘハ英米白ノ鐵、石炭ヲ以テ著名ナル、佛國ノ絹布、葡萄ヲ以テ本邦及ヒ伊國ノ養蠶ヲ以テ、獨逸及ヒ埃匈國ノ森林及穀物ヲ以テ露國ノ金礦及ヒ良馬ヲ以テ、瑞典、那威ノ堅材、瑞西ノ水力工業、土耳其ノ山羊ヲ以テ著名ナル、印度ノ棉花、藍、緬甸ノ米、呂宋ノ烟草、朝鮮ノ人參、遼洲ノ羊毛、加奈多ノ水産、米國ノ穀物、玳瑁ノ砂糖、臺灣ノ樟腦、馬來ノ香料、波斯ノ阿片、如キ皆是レ地

質ニ基ク特種ノ生産ナラサル無キナリ

第四 地位ノ便否

土地ハ其地積ノ存スル位置ノ便否ニ因リテ其生産ノ場所タル所以ノ效用ヲ異ニス

謂ユル地位ノ便否ヲ定ムルノ標準ハ生産ニ必要ナル諸條件及ヒ消費事情ニ近適スルヤ否ヤニ存ス蓋シ位置カ産出及ヒ製造ニ要スル諸條件又ハ消費市有リ遠隔スルトキハ産地ニ生産條件ヲ運致シ又ハ産地ヨリ産物ヲ消費地ニ運致セサルヘカラス此運致ノ難易ハ獨リ運輸方法ノ開否ノミニ關セス産地ニ於ケル生産條件ノ多少消費地ニ於ケル消費量ノ多少等ニモ關係ヲ有スト雖モ兎ニ角生産條件具備ノ難易及ヒ消費事情近適ノ難易ニ依リテ生産ニ及ホス效用ハ異同アルヲ免レス

農産物ノ生産ニ關シテハ自ラ地位ノ分配ノ定マレル傾向アリト云フヲ得ヘシ彼ノ獨逸ノチューネー氏ハ孤立國(Isolation state)ニ關シテ之ヲ研究シ得タリ氏ノ研究ニ依レハ都市ハ消費ノ中心點トナリ之ヲ回ハラテ各農耕地ハ同様ノ生

産條件ノ下ニ階級的ノ擴張ヲ爲スノ傾向アリ其階級ハ五個ノ遠心輪ヲ爲セリ即第一ハ菓園ニシテ第二ハ牛乳業第三ハ密耕及粗耕ノ穀田第四ハ森林第五ハ牧畜是ナリ然レトモ是レ農耕ニ關シテ然ルノミ彼饒業ノ如キハ既ニ其産物ノ種類カ任意ノ變更ヲ許サス又工業ノ如キハ同業ノ生産條件ナルコト甚タ稀ナルカ故ニ何レモ農業ノ如ク正規的ノ位置分配ヲ認ムルコトヲ得ス吾人ハ之ヲ各國各地ノ狀況ニ適用シテ大ナル誤リナリシト信ス

第二節 勞力

然レトモ天然ノ物質ハ空氣日光及ヒ水ヲ除クノ外直ニ以テ何レノ所何レノ時何レノ人欲ニモ應シ得ヘキモノニアラス而シテ此天然ノ物質ヲシテ或所或時或人欲ニ應シ得ヘカラシムルノ性質形狀及ヒ位置ヲ得セシメシカ爲メニハ人ノ勤勞ヲ要セサルヲ得ス即チ天然ノ物質ハ土地ノ供給スル所ニシテ物能ノ發達ハ人ノ勞力ノ結果ナリト概論スルコトヲ得ヘシ勞力トハ其體ヲ以テ云ヘハ人ナラシ然レトモ人ハ生産ノ主格ニシテ手段ニアラス故ニ人格ヲ別個トシテ觀察シ勞力ハ外部ノ結果ヲ生スルコトヲ目的トスル人ノ心的及ヒ體的動力ニシテ原物ノ産出

轉形轉解ニ關スル直接間接ノ作用ナリト云フヲ可トス換言スレハ勞力ノ目的自
 體ニアラス目的ニ對スル手段行爲ニシテ其行爲ノ目的カ其行爲以外ニ結果ヲ生
 スルニ在ルヲ特徵トス彼ノ歌舞遊戯ノ如ク直ニ行爲自體ヲ以テ目的ト爲スニ止
 マルモノハ素ヨリ茲ニ謂ユル勞力ニアラサルナリサレハトテ有形ノ物體ニ於テ
 現ハル、行爲ニアラサレハ勞力ナラスト云フニアラス縱令其發動ノ後チ忽チ五
 感ヨリ消失スルモ一旦其發動カ五感ノ上ニ明カニ表示セラレタルモノナラソニ
 ハ例ヘハ講演、說話ノ如キモ之ヲ勞力ト稱スルコトヲ得ヘシ要ハ唯其行動カ獨リ
 自ラ目的自體タルニ非スシテ其行動ノ結果カ明カニ行爲以外ニ顯發スト云フニ
 存ス

勞力ノ重要ハ文化ノ進歩ニ從ヒテ變遷ス其初ニ於ケル單純ノモノハ單ニ天然產
 物ノ占取ニ過キスシテ殆ト全ク加工ヲ要セサリシナリ例ヘハ採集ノ菓實、打捕ノ
 野獸之ヲ食物トシ其獸皮之ヲ衣服トシ木幹、石塊又ハ骨角ノ類殆ト其儘ニ之ヲ武
 器トシ器具トシテ使用セタルニ過キサリシナリ爾後漸ク巧妙ヲ加ヘ各種ノ器具
 ニ依リテ勞力ヲ補助スルニ至リシモ尙生產上ノ要位ハ人類ノ手ニヨル勞力ニ存

レタリ然ルニ文化ノ進歩シ人類廣ク天然力ノ利用ヲ覺知スルニ及ヒ器具益々精
 巧複雑トナリ機械ヲ以テ殆ト產物全部ヲ製作シ勞力ハ單ニ機械ノ運用及監守ニ
 與カルニ過キサルモノトナルニ至レリ故ニ稱ス生產上ノ要位ハ初メニ於テ自然
 中コロニ於テ勞力終リニ於テ器械即チ生產物之ヲ占ムト然リト雖モ今日ノ狀況
 ニ於テハ是レ尙ホ生產ノ或種類ニ於テ著シク現ハル、現象タリト云フニ過キス
 シテ一切ノ生產カ皆然リト云フニアラサルノミナラス如何ナル生產ト雖モ幾分
 ノ勞力ヲ要セサルモノナキカ故ニ勞力カ生產ノ要素タルヤ疑ヲ容レサルナリ
 勞力ノ種類ハ勞力ノ占ムル生產上ノ地位ニヨリテ之ヲ區別スレハ(一)ニ曰ハク生
 產計畫ニ關スル勞力(二)ニ曰ハク技術上ノ監督勞力(三)ニ曰ハク執行勞力即チ是ナリ
 (二)及(三)ノ勞力ハ專ラ心智上ノ勞力ニシテ其中(一)ノ生產計畫ヲ定ムルニハ生產ノ
 條件、方向、範圍及ヒ種類ヲ調査セサルヘカラサルカ故ニ人ニ關スル學術商業其他
 經濟上ノ智識ノ利用ヲ待タスンハアラサルコト勿論ナリ例ヘハ建築ノ場所及ヒ
 材料ヲ選定シ工事設計ノ圖案ヲ定ムル技師ノ勞力ノ如キ是ナリ其(二)ノ監督勞力
 ハ生產計畫並ニ之ニ基ク一般方針ノ範圍内ニ於テ執行上必要ナル基準ヲ示命シ

監視シ勞力各部門ノ連絡ヲ計リ商賣ノ指揮ヲ爲スニ存ス例ヘハ工事監督者ノ如キ是ナリ此勞力モ軍ニ圖案及ヒ書類調製ノ多少即其行爲ノ有形的物量ニヨリテ決定セラレシテ其重要ハ自己ノ指揮ニ屬スル執行機關ノ有形的勞働ニ關シテ投スル監督行爲ノ成功如何ニヨリテ決定スルカ故ニ是レ亦心智的勞力ニ重キヲ置クモノト云ハサルヘカラス之ニ反シテ執行勞力ハ殆ト全ク心智上ノ決定ヲ容ル、ニ餘地ナキ一定ノ指揮ニ從テ行動スルモノニシテ例ヘハ石工、左官ノ勞力ノ如キ是ナリ此勞力ノ給付ハ性質上ノ異同範圍甚タ狭少ナルカ故ニ異同ノ結果トシテ生産ノ總成果ノ上ニ及ホスヘキ關係モ前二項ノ勞力ニ比シテ微々タルヲ免レヌ其成功如何ヲ計ルヘキ標準ハ主トシテ能ク勞力者ニ知ラレタル年均勞働ノ分量ニヨリテ容易ニ判定セララル、モノトス

勞力ノ適用セララル、方向ニ從ツテ勞力ノ種類ヲ區別スレハ(一)ニ曰ハク直接生産勞力(二)ニ曰ハク間接生産勞力ナリトス直接生産勞力トハ直接ニ物能ヲ生産スルノ方面ニ適用セララル、勞力ニシテ採取、培養、製造、加工、運輸、移轉ノ勤勞ヲ云ヒ其特色ハ其ノ結果ヲ得ルノ迅速ニシテ其分量ノ知リ易キニ在リ之ニ反シテ間接生産

勞力トハ物能ノ生産ヲ補助スルノ方向ニ適用セララル、勞力ニシテ例ヘハ發見發明、教育、感化、政治、醫療、代官ノ如キ勤勞ヲ云ヒ其特色ハ結果ニ達スル長遠ニシテ而モ範圍ノ廣大ナルニ在リ只夫レ此勞力ハ結果ヲ得ル、甚遲緩ニシテ其分量ノ知測シ易カラサルカ故ニミル氏ニヨリテ尙ホ不生産的勞力ナル異名ヲ襲用セラレタリト雖モ決シテ賤視スヘキニアラサルハ論ヲ待タサル所ナリ

眞ノ不生産的勞力ハ徒勞ナリ徒勞トハ生産ノ方向以外ニ適用セララル、ノ勞力ニシテ直接ノ生産ヲナサス間接ノ生産ヲモナサス遊民痴手ノ投スル勤勞ヲ云フ經濟學ノ範圍ニ於テスル勞力ハ物能生産ニ關スル勞力ナルヘキヲ以テ直接ニモ間接ニモ物能ヲ生産セサル勞力ハ是レ即非經濟的人力ニシシ吾人ノ論スヘキモノニアラサルカ如シト雖モ一方ニ於テ非經濟的人力ノ多キ所以ハ他方ニ於テ經濟的勞力ノ少キヲ致ス所以ナルノミナラス此經濟的勞力ヲ維持スヘキ資本ノ分量モ徒勞者ノ爲メニ浪費セララルヘキニヨリ吾人ハ經濟現象ノ研究トシテ一言茲ニ論及シタルモノナリ此徒勞ニ一步ヲ進メタルモノハ戰爭ナリ戰爭ハ生産的勞力ニ富メル壯丁ヲ驅リテ生産外ニ勞働セシメ其勞働ニヨリテ以テ他ノ生産ヲ妨害

シ既ニ生産セラレタル物能ヲ減却スルモノナリ此點ハ徒勞ニ比シテ一層ノ害惡ヲ有スト雖トモ徒勞ニハ經濟的目的ノ存スルコトナキニ戰爭ニハ時ニ或ハ經濟的目的ノ存スルコトアリ特ニ近世ニ於ケル戰爭ノ如キハ之ヲ開始スルニアラサルハ國民經濟上更ラニ甚シキ價值ノ減却ヲ來サントスル場合ニ開始セラレ、コト多キヲ見ルナリ

勞力カ生産ニ及ホス效用ノ程度之ヲ勞力ノ生産力ト稱ス而シテ其生産力ハ大體上凡ソ左ノ要件ニ依リテ差異アリ

第一 氣候ノ寒暖

勞力ハ氣候寒暖ノ程度ニ依リテ其生産ニ及ホス效用ヲ異ニス氣候ノ極寒極熱ハ共ニ勞働力ヲ減殺ス印度人ノ怠惰ナルエスキモ一人ノ遲鈍ナル如キ以テ之ヲ證スヘシ溫帶地方ニ於テモ南部ト北部トハ勞働ニ堪フル程度ニ多少ノ差異アルコト否テ一國內ニ於テモ各地ノ氣候ニ依リ將タ各季ノ寒暖晴雨ニ依リ新ル差異ノ存スルコト人ノ普ク知ル所ナリ

第二 性能ノ差異

勞力ハ各人固有ノ性能ニ依リテ生産ニ及ホスヘキ效用ヲ異ニス

之ヲ各國民ニ就キテ觀察スルニ英人ハ剛毅ノ性ニ富ミ獨逸人ハ智力ニ富ミ佛人ハ意匠ニ富ミ米人ハ起業心ニ富ミ伊太利人ノ伶俐希臘人ノ商智共ニ其特質トス和蘭人ハ金剛石ヲ磨クノ術ニ長シ日本人ハ手工ヲ巧ミニシ支那人ハ過酷ノ勞働ニ耐フト云フ如キ其他土耳其人、朝鮮人、墨西哥人ノ怠惰ナリト稱セラレル如キ人種的性能ノ差異アルコトヲ認メスハアラス此差異ノ認メラレテ然ル後ニ一國生産發達ノ異同ハ之ヲ説明スルヲ得ヘシ

更ラニ一國內ヲ以テ之ヲ觀察スルモ吾人ハ各人ノ間ニ性能ノ先天的差異アルコトヲ認メスハアラス而シテ各人性能ノ差異ハ理解、判斷、注意、誠實、巧拙ニ於テ現ハレ生産ノ時間、原料及器具ノ使用、心身營養ノ上ニ大ナル關係ヲ有シ各個生産ノ效果ヲ支配スルモノナリ

第三 男女長幼ノ別

勞力ハ其性格年齢ノ差異ニ依リテ生産ニ及ホスヘキ效用ヲ異ニス
男女ノ兩性ハ先天的ニ其勞働力ヲ異ニシ年齢ノ長スルニ從ヒ益々其懸隔ヲ増

加スルノ傾向アリ或學者ノ計算ニ依レハ壯年男女ノ勞働力ハ殆ト一ト二トノ比例ヲ成シ手力ハ三十歳ノ時ニ於テ九ト五トノ比例ヲ成スト云フ男女ヲ間ハス年齡ノ長幼カ人ノ勞働力ニ關係ヲ有スルコトハ説明ヲ要セサル所ナリ唯其年齡ノ取捨ニ付キ何レノ年齡ヲ以テ長幼ノ別ヲ定ムヘキヤハ問題ナルモ勞働力ノ最モ盛ンナル年齡ハ二十五歳ヨリ四十五歳ノ間ニ在リト云フ是レ最盛年齡ヲ云フモノナルヲ以テ吾人ハ廣ク更ラニ多少ノ餘地ヲ加ヘテ下ハ二十歳以上上ハ六十歳以下トシ其ノ間ニ於テ勞働力ノ分配ヲ見ルノ至當ナルヲ信ス

第三節 資本

資本ハ土地ノ如ク天然物ニモアラス勞力ノ如ク人類固有ノモノニモアラス勞力ヲ天然物ニ加ヘテ得タル結果ノ一部ニ過キサレカ故ニ土地ト勞力トハ之ヲ生産ノ原主要素(primary requisites)トシ資本ハ之ヲ次位ノ要素(secondary requisites)ナリト稱スルコトヲ得ヘシ然レトモ此ノ如キハ歴史の起因ニ於テ少ル區別ニ過キスシテ今日ノ經濟界ニ於テハ土地及ヒ勞力ト共ニ資本ハ至大ノ生産要素タル地位ヲ有スルモノナリ而シテ其生産界ニ至大ノ重要ヲ有スル所以ハ余輩之ヨリ資本ノ定義

ト共ニ論究セント欲ス

第一款 資本ノ定義

資本ノ定義如何ハ經濟學上未定問題ノ一ニシテ學者各其見解ヲ異ニシ資本ノ内容及範圍ヲ一定シ得サルハシエンベルヒノ經濟書中クラインツエフテル氏ノ明言スル所ノ如シ抑モ資本ナル語ハ希臘及ヒ羅馬時代ニ於テハ利息ニ對スル貸付元金(Caput)ノ謂ニシテ貸付貨幣ノ義ニ外ナラサリシナリ中世時代利息禁制ノ後一時其ノ意義ヲ擴張シテ貨幣以外ノ貨物ヲモ包含シタリシカ中世末貴金主義ノ發達スルニ及ビテ復再ヒ貸付貨幣ノ義ニ限ラル、ニ至レリ然ルニ重農學派ノ起ルニ及ビテ此ノ用語ニ反對シ同派ノ一人チュールゴー氏ノ如キハ凡ソ何人タルヲ問ハス其毎歲得ル所ノ價值ニシテ其費ス所ヲ償フテ餘リアラハ其餘マレル價值ヲ貯蓄スヘシ而シテ其貯蓄セル價值ハ貨幣ナルト他ノ物件ナルトニ論ヲ措是レ資本ナリ何トナレハ貨幣ハ他ノ物件ヲ代表シ他ノ物件ハ貨幣ヲ代表スルモノナレハナリト説明セリ其貯蓄セル價值ト云フモノ能ク資本ノ本體ヲ看破シタリト雖モ其作用ニ關シ何等ノ言明ヲ爲サ、ルカ故ニ資本ノ定義トシテ未タ完全

ナルモノニアラス作用ヲ加ヘテ資本ノ定義ヲ下ダサント試ミタルモノハアダム
 スミス氏ヲ以テ始トス氏ハ曰ヘリ何人ニテモ一月若シクハ一年間生活ノ費トナ
 スニ足ルヘキ充分ノ資産ヲ有スルトキハ彼レ必ス其大部分ヲ擧ケテ復タ歳入ヲ
 得ル爲メニ使用スヘク此歳入ヲ得ルニ付キ必要上使用スヘキ額ヲ除クノ外ハ彼
 カ直接ノ生計ニ充ツルモノトス是ニ於テカ人ノ資産ハ二ツニ分カル一ハ即歳入
 ヲ得ントスル部分ニシテ他ノ一ハ即直接ノ消費ニ充ツル部分はナリ而シテ其歳
 入ヲ得ントスル部分ハ之ヲ資本ト稱スヘシト此論法ニヨレハ資本ノ資本タルハ
 其所有者ノ意思如何ニヨリテ決定スト云ハサル可ラス次イテ資本ノ研究ニ力ヲ
 盡セリト稱セラル、所ノミル氏ハ「天然ト努力トノ外ニ尙ホ第三ノ生産要素ナカ
 ル可ラス此要素ハ過去勤勞ノ産物中ヨリ節省セラレタル総合的貯蓄物ニシテ是
 レ即資本ナリ」ト定義セリ然レトモ此ハ單ニ資本ノ起因ニ過キサルカ故ニ氏ハ更
 ニ其作用ニ着眼シ資本カ生産ニ對シテ爲ストコロノモノハ勤勞ノ爲メニ必要ナ
 ル家屋器具材料ヲ調達シ及ヒ其企業中勤勞者ヲ扶持スルニ在リ故ニ苟クモ此ノ
 如キ使用ニ向テテ決定メラレ從フテ此等ノ必要物ニシテ生産的勞力ニ供給スヘク

定メラレタルモノハ皆是レ資本ナラサルヘカラスト附言セリ之ニヨレハ氏ハ一
 且作用ニヨリテ資本ノ性質ヲ決定セリトシタルカ如シト雖モ其忽チニ但シ資本
 ノ資本タル決定ハ商品ノ種類如何ニヨルニアラスシテ唯其所有主ノ意思如何ニ
 是レ因ル彼カ生産上ニ使用スルノ決心ヲ有スルトキハ資本ニシテ娛樂ノタメニ
 使用スルノ決心ヲ有スルトキハ資本タラスト云フニ至リテハ氏モ亦人ノ意思如
 何ニヨリテ資本ノ性質ヲ決定セントシタルモノナリト云ハサルヘカラスト然ルニ
 マトラウド氏ハミル氏ノ定義ヲ以テ狹隘ニ失スト爲シ更ラニ立言シテ曰ハク資
 本ノ大部分カ過去勤勞ノ結果ナルコト疑ナシト雖モ果實穀物畜類魚類等ノ如ク
 人類勤勞ノ結果ト稱スヘカラサル資本甚多シ殊ニ彼ノ信用ノ如キ土地ノ如キ職
 業上ノ秘訣發明商人ノ花客ノ如キ皆是レ莫大ノ收益ヲ其所有者ニ與フルモノノ
 リ而カモ尙ホ是ヲ資本ト稱シ得サル乎凡ソ經濟上ノ物件ハ所有者ノ娛樂ノ爲メ
 ニスルト殖利ノ爲メニスルトノ二様ノ用法アリ而シテ之ヲ生産的ニ用キルトキ
 即殖利ノ爲メニ用キルトキハ以テ資本ト稱スヘク資本ノ資本タルヘキ決定ハ用
 法如何ニ在リテ存スルモノナリト氏カミル氏ノ論法ヲ攻撃シテ人ノ意思ヨリ一

歩ヲ進メ意思ノ實行タル用法如何ニヨリテ資本ノ定義ヲ決定シタルハ論理頗ル精銳ナリト雖モ氏ハ個人觀察ニ重キヲ置テ物ノ性質ヲ看過シタルノ缺點アルノミナラス遂ニフライイス氏ヲシテ此論理ニ數歩ヲ進メ資本所有者ノ意思ノ決定ハ資本使用者ノ意思ノ決定ヨリモ不確實ナリ意思ノ決定ハ何レニシテモ決定ノ實行ヨリモ不確實ナリ決定ノ實行ハ又實行ノ結果ヨリモ不確實ナリ生産用ニ使用セラレタル富カ新ラシキ他ノ富トナリテ再現スルコト是レ實ニ資本ノ資本タルニ必要ニシテ且完全ナル決定ナリト云ハシムルニ至レリ然レトモ此ノ如キハ是レ資本使用ノ效果ナリ若シ資本使用ノ效果マテヲモ定義中ニ包含セサルヘカラストセハ其再現ノ新富財ニハ餘潤ノ存スルコトヲモ必要トセサルヘカラスト至ラソ果シテ然ラハ資本ト稱スヘキノ時期ハ之ヲ認ムルニ由ナク結局資本ノ名稱ヲ經濟學中ヨリ抹殺セスヲハ止マサルヘキナリ

是ニ於テカシゲツク氏ハ資本ニ二義アリト論スルト同時ニ縱令個人經濟ノ觀察ニヨルモ資本ノ作用ト效果トハ區別セサルヘカラスト詳述セリ氏ノ言ニ曰ク商人ノ間ニ行ハル、普通ノ意義ニ從ヘハ資本ハ所有者ニ餘潤ヲ與フ可ク使用

セラレタル富ナリト云フモ此資本ニ自ラ二義アリ何トナレハ富ハ其社會觀トシテ社會ニ何等ノ報果ヲ留メサルモ之カ所有者タル個人ニハ餘潤ヲ與フルコトアリ例ヘハ資金ヲ浪費者ニ貸付タル場合ノ如シ凡ソ資本ノ報果ハ分配上需要供給ニヨリテ決定セラル、モノナルカ故ニ斯ル資本ハ分配論上社會各人ノ集合資本ノ一部トシテ論スヘキヲ至當トス只夫レ斯ル資金ハ以テ勞力ノ歲入ヲ増加スル富ノ一部ニアラサルコトハ勿論ノコトナルカ故ニ生産論上適當ナル意義ノ資本ニアラサルナリ惟フニ生産論上ノ觀察ニ於テハ資本ハ獨リ其所有者タル個人ニ對スルノミナラスシテ必スヤ其一般産業社會ニ對シテ餘潤ヲ與フヘク使用セラレタル富ナラサルヘカラストナルナリ吾人之ヲ社會的資本ト稱ス社會的資本ニ反對シテ他ニ個人的資本ノ稱アリ是レ單ニ分配論上ヨリ個人的ニ觀察シタルニ基ケル資本ノ意義ナリ

單ニ個人觀ニ從ツテ利潤ヲ得ヘク使用セラレタル富ト云フトキハ如何ナル意味トナルヘキカ此場合ニ於テハ資本ハ必スシモ新ニ富ヲ作成スヘキ器具又材料タル富ナルコトヲ要セス又其器具ヲ使用スル勞力者ニ充ツヘキ衣食タル

富ナルコトヲ要セス苟クモ彼レニ利潤ヲ得ルアラハ其富ノ生産的ニ使用セラ
 ル、ト不生産的ニ使用セラ、トハ彼レ個人ノ關スルトコロニアラサルナリ
 即個人ハ自身ニ於テ若クハ之ヲ他人ニ貸付シテ絶エス自家ニ原物ニ對價並ニ
 新加ノ増富ヲ回收セン爲メニ富ヲ使用スルモノナリ此原物ヲ回收スル外ニ尙
 *彼レカ所得スヘキ新加ノ富ハ實ニ是レ餘潤ニシテ即狹義ニ於ケル利潤ナリ
 此利潤ヲ所得セントノ欲念ハ是レ實ニ彼等カ自己ノ富ヲ投スルノ動機ナリ
 シテ吾人モ彼等カ此欲念ニヨリテ適用シタル實際ノ結果何等ノ利潤ヲ與フル
 ニ至ラサルコトアルモ之カ爲メニ資本タル重要ノ特色ヲ減スルモノトハ斷論
 スヘカラスト信ス蓋シ價值ノ大部分ハ(一)物能生産ニ消費セラレタル材料(二)使
 用セラレタル器具ノ損耗(三)使用セル勞力者ノ賃料(四)生産ノ公課的費用ノ回收
 ニ充テラレ此外ニ新加スルモノ是レ所謂(五)餘潤ナリ而シテ其ノ産業ニシテ繁
 榮ナル以上ハ此假定的利潤ハ實却ニヨリテ若々實在セラルヘキナリ故ニ何人
 *始メヨリ之ヲ確定シ得ルモノニアラス要スルニ個人觀ニ於テハ資本ノ起因
 カ過去勞力ノ節省產物ナルヤ否ヤヲ問ハサルト同時ニ又資本ノ使用カ果シテ

餘潤ヲ社會ニ留ムルヤ否ヤヲ問フモノニアラス云々

氏カ明ニ所有者ニ餘潤ヲ與フヘク使用セラレタル富ナリトセル用語中果シテ社
 會觀察ニ於ケル資本ノ意義ヲ包含スルノ餘地アルヘキヤ甚タ疑ハシト雖モ其起
 因若クハ效果ニヨリテ資本ノ定義ヲ決セス物ノ作用ニ着眼シテ資本ニハ個人觀
 察ニヨレルモノ、外社會觀察ニヨレルモノアリト云フニ至リテハ經濟ノ實際ニ
 適シタルノ立論ト云フヘシ

ラシネル氏曰ハク資本トハ新シキ經濟貨物ヲ生産スル爲ニ技術上ノ方便トシテ
 蓄積セラレタル經濟貨物ニシテ個人經濟上ノ觀察ニ於テハ收益手段ヲ謂ヒ國民
 經濟上ノ觀察ニ於テハ生産手段ヲ謂フト(Kapital von Private wirtschaftlichen Gesichts-
 punkte betrachtet, ist, Erweiss-mittel, "und Kapital von Volkswirtschaftlichen Gesichtspunkte
 betrachtet, ist, Probnktions-mittel")

余輩惟フニ生産ニハ企業期(年)ナルモノアルヲ以テ之レニ使用スル資本ノ定義ト
 シテミル氏カ之ヲ過去ノ產物ト稱シラグネル氏カ貯蓄セラレタル貨物ナリト稱
 スルハ持越シタル年度ノ關係ヲ明カニセントシタルニ出テタルモノニシテ敢テ

不可アルヲ見スト雖モ到底資本ノ定義ハ之ヲ以テ完結スルヲ得ス別ニ其作用ヲ明示セサルヘカラストセハ資本ノ定義ハ其本體ト作用トヲ以テ組織セサルヘカヲサルカ故ニ先ツ其本體ヲ定ムルニ關シテハ單ニ產物ト稱スルヲ以テ足レリ蓋シ產物ト稱スルトキハ既ニ生産セラレテ持越シ貯存セラル、モノタルヤ論ヲ待タサルヘシ

資本ノ定義トシテ先ツ第一ニ產物ナルコトヲ表示スルノ必要以上所論ノ如シ唯單ニ產物ト稱シテ其作用ヲ明示セサルハコーン氏及フイリブホロチ氏等ノ贊同スルトコロナルヘキモ之ヲ他ノ產物ト區別シテ資本ノ特色ヲ表スル所以ニアラサルカ故ニ從來多數ノ學者ハ其作用トシテ或ハ歲入ヲ得ル爲メニ使用セラレ或ハ生産ノ用ニ供セラレ又ハ新貨物ヲ收得スル技術上ノ方便トスル等其生産手段タルコトヲ明示セシコトニ力メタリ斯ノ如クニシテ生産手段ト云フコトハ資本ノ定義トシテ欠クヘカラサル要素ナルコト明カナリトス唯從來學者ノ論争スルトコロハ其生産手段タルコトハ何レノ時點ヲ以テ之ヲ定ムヘキヤニ存セルカ如シ英國系統ノ多數ハ個人觀察ニ重キヲ置キタルト同時ニ之ヲ個人ノ意思ニヨリ

ヲ決定セシトシ獨逸系統ノ多數ハ社會觀察ニ重キヲ置キタルト同時ニ之ヲ產物ノ社會的效用(質性)ニ依リテ決定セントス然レモ人ノ意思ノミニ依リ決定セントスレハ資本ハ一般ニ之カ定義ヲ明定スルコトヲ得サリトテ產物ノ性質ニ依リテ決定セシトスレハ生産手段トシテ生産セラレタル產物トモ稱スヘキモノハ器械及ヒ原料ノ類ニ限ラル、カ故ニ資本ノ定義ハ完全ナルヲ得ス要スルニ頗ル至難ノ問題ナリトス凡ソ生産セラレタル產物ハ結局人欲ヲ充タシテ消費セラル、モノニシテ其直接ニ人生ノ消費ニ供セラル、カ又ハ更ニ生産手段トシテ間接ニ消費セラル、カニ途ノ中其一ヲ出テサルコトハ明白ナルモ其果シテ孰レノ途ニ振向ケラル、カニ關シテハ其產物ノ性質上之ヲ前定スルコトヲ得ルモノト否ラサルモノトノ二種アリテ存ス例ヘハ器械原料及耕畜ノ類ハ元來生産手段トスル爲メニ生産セラレタル產物ナルカ故ニ之ヲ其成立ニ繼シ性質上ノ生産手段ナリト稱スルコトヲ得ヘキモ之ニ反シテ彼ノ衣食及燃料ノ類ニ至リテハ必ス後期ノ生産手段トシテ生産セラレタルモノト稱スルコトヲ得ス其生産セラレタル後人ノ意思如何ニ依リ或ハ直ニ消費セラレ或ハ後ノ生産手段ニ振向ケラル、ニ過キテ

ルカ故ニ用法上ニ於テ始メテ生産手段タルコトヲ得ルモノト云ハサルヘカラス
 次ニ手段ト云フコトハ目的ニ對スル關係的用語ナルカ故ニ或ル事物カ手段タル
 ヤ目的タルヤハ觀察ノ範圍異ナルニ從テ異同アルヘキコトハ論ヲ待タス今夫レ
 費消物ノ如キハ之ヲ消費スル社會經濟ヨリ觀察スレハ目的ナリト稱スヘキモ
 ヲ以テ他物ト交換セシメニ店頭ニ陳列スル個人經濟ヨリ觀察スレハ手段ナリ
 ト云ハサルヘカラサルカ如シ故ニ言ヲ約シテ說示スレハ生産手段ト云フコトハ
 産物ノ性質上及用法上ニヨリテ決定シ社會經濟上及個人經濟上ノ觀察ニ依リテ
 區別セサルヘカラサルナリ

以上論スル所ニ從ヘハ吾人ハ先ツ

資本トハ生産手段タルヘキ産物ナリ

ト定義シ更ニ資本ハ生産手段トシテ生産セラレタル産物(性質上)及生産手段トシ
 テ使用セラル、産物(用法上)ニシテ社會的資本ト個人的資本トノ別アリト説明ス
 ルヲ以テ満足スルノ外ナシト信ス面シテ純正經濟學上廣ク資本ト稱スルトキハ
 社會的及個人的兩資本ヲ包含スルコト勿論ナルモ其觀察スヘキ位地ヲ異ニシテ

論述シ又ハ計算スルノ要アルトキハ各其ノ範圍ニ依リテ之レヲ區別スヘキモノ
 トス

第一款 資本ノ種類

資本ハ生産手段タルヘキ産物ナルコト前款論述セル所ノ如クニシテ其種類ハ觀
 察ノ廣狹、供用ノ長短及變種ノ難易如何ニ從ヒ之ヲ社會資本ト個人資本、流動資本
 ト固定資本及ヒ特別資本ト代表資本ノ三種ニ區分スルコトヲ得ヘシ

第一 社會資本及個人資本

此ノ區別ハ觀察スヘキ經濟單位ノ廣狹ニヨリテ爲サル、モノニシテ「*Volks kapital, privat kapital*」ノ用語
 ルツ氏先ツ之ヲ唱ヘツグネル氏ノ修述ヲ經テ「*Volks kapital, privat kapital*」ノ用語
 ヲ成スニ至レリ氏ノ意趣ニ從ヘハ前生産ニ依リテ生産セラレタル貨物ニシテ
 新貨物ヲ生産スル技術的手段タリ得ヘク又然ラサルヘカラサルモノ之ヲ社會
 的若クハ國民的資本ト稱シ之ニ反シテ個人ノ財産ニシテ彼カ之ヨリ地代、利息
 等ノ收入 (*Einkommen*)ヲ得ル爲メニ收益手段トシテ使用シ得ヘキモノハ之ヲ個
 人的資本ト稱スルカ如シ然レトモ吾人ハ既ニ論シタル如ク生産手段ト收益手

段トノ區別ヲ以テ社會資本ト個人資本トノ區別ヲ定メトスル此等ノ説ニ同意スルヲ得ス吾人ハ手段ト云フコトノ觀察ノ異同ニ依リテ社會資本及個人資本ヲ區別スルノ標準トスルヲ至當ナリトス此標準ニ依ルトキハ社會資本トハ社會經濟ヨリ觀察シテ手段タルヘキ產物ヲ云ヒ個人資本トハ個人經濟ヨリ觀察シテ手段タルヘキ產物中社會經濟上ニ於テハ手段タラサルモノヲ云フコトトナルヘシ

社會資本ニ屬スルモノハ一ニ曰ク材料品、二ニ曰ク用具、三ニ曰ク生計品ニシテ其ノ内詳ハ凡ソ左ノ如シ

- 一 材料品 勞力ノ目的物タルモノ……………粗生品、助成原料、半製品
- 二 用具 勞力ヲ補助スルモノ
 - 甲 器械……………器具、耕畜機械等
 - 乙 建物……………工場、店舖、耕舍、倉庫、市場ノ類
 - 丙 設備……………土地改良、排水、灌溉、開墾
 - 丁 機關……………交易及交通ノ用具並ニ機關
- 三 生計品 勞力ヲ維持スルモノ……………衣食住

個人資本ニ屬スヘキモノハ

- 一 享樂的販賣品……………各販賣商ノ陳列スル雜貨、飲料等
- 二 娛樂的質貨品……………遊船、遊車馬及貸本ノ類
- 三 貸貸資金……………銀行其他金貸業者ノ資金

故ニ消費者ノ手ニ存スル娛樂品及ヒ各產業者並ニ消費者ノ有スル貨幣類ハ何レノ資本ニモ屬セサルモノト云フヘシ是レ何人モ異論ナキトコロナリ然レトモ土地ヲ以テ全然資本ナラストシ生計品ヲ以テ個人資本ニアラストナシタルニ關シテハ獨逸學者多數ノ反對スルトコロナルヘシ然リト雖モ既ニ經濟學ノ立場ニ於テ土地ヲ生産ノ要具トナシ他ノ資本ト稱セラル、モノト異レル幾多ノ性質アリト云フヲ以テ資本ノ外ニ置キタル以上ハ主義上之ヲ資本ナリトスヘカラス生計品ハ娛樂品ノ一種ナルカ故ニ獨逸學者ノ多クハ資本ニスラストシ之ヲ總括シテ單ニ收益資本又ハ個人資本ニ編入セルニ拘ハラス余カ英國學派ノ探レルトコロニ依リ先ツ之ヲ資本トシ更ニ社會資本ニ編入シタル所以ハ實ニ勞力ノ維持ニ供セラル、生産上ノ手段タルヲ以テナリ

社會資本ト個人資本トノ區別ハ一ハ主トシテ社會經濟上ヨリ生産ノ手段トシテ觀察シ他ハ主トシテ經濟上ノ特別關係即チ私有財產制及交易制度ノ下ニ於ケル個人經濟上ヨリ單ニ其個人ノミノ生産手段トシテ觀察シタリト云フノ點ニ存ス從ツテ兩者ノ經濟上ニ於ケル性質及效能ハ亦自ラ相異ナルモノアリ

- 一 社會ノ生産ヲシテ容易ナラシム
- 二 社會ニ生産ノ結果ヲ増進シ又ハ改良ス
- 三 社會ヲシテ永時間生産ノ結果ヲ保持セシム

社會資本ハ既ニ生産ニ必要ナル材料品用具類並ニ生計品ヲ包含スルノミナラス既存ノ資本ヲシテ相當ノ方向ニ適用セシメ又ハ土地ノ原料及原力ト共働シテ更ニ又次ノ生産ニ必要ナル材料品及用具類ヲ生産スルコトヲ得ヘカラシム故ニ曰ハク社會資本ハ社會經濟上ニ於テ生産ヲ容易ナラシムルノ效能ヲ有スト斯ノ如クニシテ獨リ生産其事ヲ容易ナラシムルノミナラス例ヘハ農業ニ於ケル肥料助成材料ノ如ク若クハ工業ニ於ケル機械ノ如キ資本ハ各々適當ナル

制度及機關ノ作用ト相待ツテ產物ノ數量ヲ増加シ品質ヲ改良スルノ效能ヲ有ス是レ社會資本ハ社會ヲシテ生産ノ結果ヲ増進改良セシムルノ效能アリト云フ所以ナリ否ナ唯ニ生産ノ増進改良ニ關スル效能アルノミナラス其増加改良セラレタル生産物ヲシテ能ク永時間其ノ價值ヲ保持セシムルノ效能ヲ有ス例ヘハ店舗倉庫其他保存設備ニ關スル資本ノ能ク產物ヲ保存シ之ヲシテ永時間其物質ノ内外ニ起ルヘキ毀損消滅ノ危險ヲ避ケシムルカ如キ即チ是レナリ故ニ曰ク社會資本ハ能ク久シク社會ヲシテ生産ノ結果ヲ保持セシムルノ效能アリト

個人資本ノ經濟上ニ於ケル效能ハ凡ソ左ノ二點ニ歸ス

- 一 享樂品ノ如キ個人資本ハ交換ノ手段トナリテ個人經濟ニ職業及收入ヲ與ヘ其結果ハ多少社會資本ニ變轉スルモノナキニアラスト雖モ概ネ再ヒ同種ノ個人資本トナリテ同種ノ享樂品産業ニ供セラレ社會ヲシテ前資本ノ效果ヲ享サルコト能ハサラシム從ツテ社會資本ハ減少ヲ來スヘシ

二 享樂品ノ如キ個人資本ハ結局社會經濟ニ入ラテ消費セラレ其結果ハ時ニ

往々社會ノ共産力ヲ傳授ヨリ救済スルコトアリト雖モ概シテ生産力ヲ廣敷セシム

第二 流動資本及固定資本

此種別ハ企業期間ニ對スル供用ノ長短ニ基クモノニシテ之ニ關スル學說亦甚々區々アリアダムスミス氏ハ一社會ノ貯蓄總額ヲ三部ニ大別シ第一部ハ所有者ノ自ラ消費スヘキ衣服、食物、住家、家具ノ類ニシテ收入即チ利潤ヲ生セサルモノ(ニフレ資本)第二部ハ固定資本ト稱シ所有主ヲ變スルコトナクシテ利潤ヲ生スルモノ第三部ハ流動資本ト稱シ所有主ヲ變シテ始メテ利潤ヲ生スルモノナリトセリ

ミル氏ハ流動資本ヲ解釋シテ曰ク一回ノ使用ニヨリ最早資本トシテ存セス若クハ同一ノ生産ニ同一ノ用ヲ爲ス能ハサル貨物ニシテ例ヘハ材料及勞銀トシテ使用スル資本ノ如シト云ヒ固定資本ヲ解釋シテ長時存積スヘキ性質ヲ有スル器具ヨリ成リ移轉スルコトナク所有セラレテ其職分ヲ行ヒ一回ノ使用ヲ以テ盡キサルモノナリト云ヒ建築物、機械、器具、土地ニ加ヘラレタル改良、運河、道路

船渠等ヲ之ニ屬セシメタリマクドウ氏ハ單純ナル個人的觀察ニ依リテ此區別ヲ採リ論シテ曰ハク資本ハ之ヲ利殖ノ爲メニ使用スルニ當リテ二法アリ一ハ其所有者ニ於テ之ヲ保存スルモノニハ所有者之ヲ手離シ更ニ利潤ト共ニ同收スルモノ是レナリ通俗ノ用語ニ從ヘハ前者ヲ固定資本ト云ヒ後者ヲ流動資本ト云フ餘レトモ此區別ハ物品ノ性質ヨリ出ツルモノニアラスシテ人意ノ決定ニ依レル用法如何ニ由ルモノトス故ニ同一ノ物品ニシテ或ハ流動資本トナリ或ハ固定資本トナル即チ人若シ賣却ノ目的ヲ以テ一物ヲ生産スルトキハ流動資本ナリト雖モ若シ之ヲ自己ノ所有ニ保存シテ收入ヲ得ルトキハ固定資本タラサルヲ得ス換言スレハ一物ヲ賣リテ一回ニ其全代價ヲ同收スルトキハ流動資本ト稱セラレ之ニ反シテ其物品ヲ保存シ利息又ハ借料ノミヲ取得スルトキハ固定資本ナリトセボンスミス氏ハ流動及固定ノ區別ヨリモ事々自由(Free)及投下(Investing)ノ區別ヲ採ルヘシトナシ論シテ曰ハク資本ノ主要ハ衣食即チ實物勞銀ニシテ材料品ハ附從ノ資本ナリ今夫レ普通ノ用語ニヨルモ鐵道若クハ船舶ヲ以テ資本トスルモノアラズ鐵道及船舶ハ唯其之ヲ作成スルニ投下シタル資

本ノ分量ヲ代表スルノミ後者ヲ投資ト云ヒ前者ヲ資本ト呼フヲ至當トス若シ後者ヲ投下資本ト稱スレハ前者ハ自由資本ト稱スヘシ謂ユル投下トハ企業ヲ完成セシ爲メニ貨幣若クハ貨幣ヲ以テ購買セル自由資本ヲ消費スルノ義ナリ斯クテ自由資本ヲ投下シ直ニ企業ヲ完成シ當初ノ消費額竝ニ利子ト同額ナル報益ヲ回收スルアリ又長期ヲ經テ之ヲ回收スルアリ此長期ニ回收スルモノハ一般ニ固定資本ト稱シ一回ニ回收セラル、モノヲ流動資本ト云フカ如シ然レトモ余ハ鐵道ノ如キヲ以テ固定資本ト稱セス鐵道ハ決シテ資本ニアラス唯資本カ鐵道ニ固定セラレタルノミ何トナレハ資本ハ鐵道ニアラスシテ鐵道ヲ建設スル爲メニ要シタル衣食即チ勞銀ニ外アラサレハナリト衣食住ノ主要資本タルヤゼゼンズ氏ノ論スル所ノ如シ氏ハ之ヲ以テ自由資本ト稱シ自由資本ノ投下セラレタル場合ヲ投下資本ト稱シナカラ其投下ノ一回ヲ以テ回收セラルルモノヲ流動資本トシ長期ニ回收セラル、モノヲ固定資本ト稱シ得スト云フハ個人的觀察ノミニ陷レルノ弊アルヲ免レス抑モ個人的觀察ノミヲ以テスレハ資本ノ區別ハ全ク用法ノ區別トナルコトマククラウド氏ノ説ノ如シト雖モ之

ヲ社會的觀察ヨリスルトキハ材料器械及ヒ衣食住ノ間ニ於テ亦自ラ性質上ノ區別ナキニアラスモボンス氏ノ謂ユル自由資本ヲ投下シテ作成シタル物ニシテ消費ニ適スルモノハ其消費モ短期ニシテ回收モ亦自ラ速カナリ材料品ノ如キ是レナリ之ヲ流動資本ト云フヘカラサルコトナシ之ニ反シテ自由資本ヲ投下シテ作成シタル物ニシテ長期ノ存積ニ適スルモノハ其消費モ長期ヲ要シ回收亦自ラ遅キタルヘシ器械ノ如キ是レナリ果シテ然ラハ之ヲ固定資本ト稱スヘカラサルノ理ナキナリコリン氏曰ハク資本ノ種類ハ性質上ヨリ之ヲ三種ニ區別スルコトヲ得一ニ曰ハク絶対永存ノ資本ニ曰ハク比較的永存ノ資本三ニ曰ハク不定存積ノ資本是レナリ絶対永存ノ資本トハ性地又ハ通路ノ類ニシテ無限存積ノ性質ヲ有スルモノヲ云ヒ比較的永存ノ資本トハ家屋工場衣服家具器具器械ノ類ニシテ比較的ニ長期若クハ短期間存積スルノ性質ヲ有スルモノヲ云ヒ不定存積ノ資本トハ一回ノ使用行爲ヲ以テ全ク消費スルモノナリト雖モ個人若クハ社會ノ意向ニヨリ之ヲ保存セリト欲セハ多少貯蓄ヲ作成シ得ルモノヲ云フ例ヘハ材料生計品燃料ノ類之ニ屬ス此ノ區別ヲ從ツテ資本ヲ三

種ヲ明確ニスレハ第一種ハ性質上利用ニノミ役立テ決シテ消費セラレサルモノ、第二種ハ消費ヲ抑制スルニ因リテ利用ニ役立ツコト、ナルモノ、第三種ハ消費ト同時ニ利用ニ役立ツモノト云フニ歸スヘキナリト資本ノ性質實ニ斯ノ如キモノアリ故ニ個人的觀察ニ於テ家屋及器械ノ如キ之ヲ賣却セシメニ製造シタル者ニ對シテハ用法上流動資本タルコトアリ衣服材料ノ如キ其損料業者ニ對シテハ固定資本タルコトアリト云フト雖モ社會的觀察ニ於テハ到底其最終ノ取得ニ於テ一ハ消費ニ長期ヲ要シ一ハ一回ヲ以テ消費シ了ルモノナラサルヘカラス果シテ然ルトキハ一ツ固定資本ト稱シコリン氏ノ謂ユル第一種第二種ヲ之ニ屬セシメ他ヲ流動資本ト稱シコリン氏ノ謂ユル第三種ヲ之ニ屬セシムルモ亦致テ非理ニアラスシテ學理亦然カスルノ外ナカルヘキナリ只特ニ個人經濟ニ關シテ立言スルノ要アルトキハ個人經濟上ノ觀察ニ於テル資本及資本ノ區別ヲ爲ササルヘカラス而シテ個人的觀察ヨリスル區別ハ各人各時ノ用法ニヨリテ決定セララルカ故ニ茲ニ抽象的ニ區別スルコトヲ得ス其各業體ニ從ヒテ大體上ノ區別ヲ爲シ得ルニ過キスヘルマツ氏及コシエル氏ノ説ニ依

レハ固定資本ハ其所有者ニ於テ數度生産ニ使用シ得ルモノニシテ流動資本ハ僅ニ一回ノ使用ヲ以テ終ルモノナリ而シテ流動資本ノ價ハ新産物ノ價中ニ全部包含セラレ固定資本ノ價ハ僅ニ其使用ノ價ノミ新産物ノ價中ニ包含セラルト云フオーカー氏ノ定義ニヨレハ生産業ノ一部ヨリ他部ニ移轉サレ易キ資本ヲ流動資本ト云ヒ之ニ反シテ只當初指定セラレタル目的ニ向ツテノミ利用セラレ得ル資本ヲ固定資本ト云フカ如シ

以上ノ理由ニ因リ余ハ大體ニ於テ流動及固定ノ種別ヲ探ルコトニ決セリ而シテ其之ニ關スル定義及ヒ細目ハ凡ソ左ノ如クナラサルヘカラスト價ス

一 流動資本 (circulating Capital)

流動資本トハ生産上一回ノ使用ニ依リテ全部消費セララルヘキ産物ヲ謂フ從テ其全部ハ新産物ニ變形シ社會ハ此新産物トシテ個人ハ新産物ノ價格ニ依リテ直ニ其資本ヲ回收シ更ニ繰返ヘシテ將來數期ノ生産ニ運轉スルコトヲ得ヘシ故ニ又運轉資本ノ名アリ要スルニ一期ニ回收セラレテ數期ニ運轉セラルルモノナリ而シテ其之ニ屬スヘキ種目ハ凡ソ左ノ如シ

甲 原料品 原料品トハ粗生原料及半製品ノ謂ニシテ例ヘハ生繭棉花羊毛
鐵石炭生糸綿糸ノ如キ之ニ屬ス

乙 助成材料品 助成材料品トハ或ル生産ニ要スル補助原料ニシテ例ヘハ
紺屋ノ染草獵夫ノ彈藥農夫ノ肥料ノ如キ是ナリ

丙 生産者ノ飲食物 飲食物ハ生産ニ要スル勢力ヲ維持シ之ヲシテ勞力ヲ
原料ニ加ヘ固定資本ヲ使用セシムルモノナリ

彼ノ販賣商賣商ノ商品中地所建築物器械衣服機關ノ如キハ其個人經濟上
ニ於テノミ流動資本タリ

II 固定資本 (Fixed Capital)

固定資本トハ流動資本ヲ固定シテ作成セラレ長期永續シテ生産ノ手段タル
ヘキ產物ヲ謂フ從テ此資本ハ一生産期ニ於テ一部ヲ新產物ニ變形シ他ハ同
一ノ資本トシテ尙ホ存續シ社會モ個人モ其新產物若クハ價格ニ於テ一期ニ
一部ヲ回收スルニ過キヌ要スルニ短期ニ投下セラレテ長期ニ回收セラル
モノナリ而シテ之ニ屬スル種目ヲ舉ケレハ凡ソ左ノ如シ

甲 土地改良 土地改良トハ開拓灌漑排水風除墾圃堤防ノ如ク土地自然ノ
狀態ヲシテ生産ノ用ニ適セシムルノ設備ニシテ殆ト土地其モノト一體ヲ
成シ外形上之ヲ區別スヘカラサルモノヲ云フ耕地宅地道路ノ現狀ノ如キ
皆之ニ屬ス

乙 建築物 建築物トハ生産ニ要スル家屋倉庫工場店舗耕舍市場ノ類之ニ
屬シ以テ勞力者ヲ收容シ產物ヲ保存スルノ效アリ

丙 用器及馴畜 用器トハ生産ニ要スル器具機械ノ謂ニシテ鐵錘刀鋸水車
臼釜紡錘流鏝度量衡器ノ類之ニ屬シ馴畜トハ野獸ニ人ノ馴飼ヲ加ヘテ生
産シタル耕馬馴鹿及力牛ノ類ヲ謂フ以テ勞力ヲ省略シ其效用ニ代補スル
モノナリ

丁 交通機關 交通機關トハ產物ノ位置ヲ移轉スルニ依リテ物能ノ生産ニ
效アルモノニシテ其作用ハ人ト產物トヲ接近セシムルニ存シ鐵道舟車郵
便電信ノ類之ニ屬ス

彼ノ劇場遊船貸本ノ如キハ個人經濟上ニ於テ手段トナリ其個人經濟ノ固定

ロツシエル氏ハ更ニ無形資本ナルモノヲ案出シ修養シ智能竝ニ花客及國家ノ如キ是レナリト云ヘリ若シ果シテ之ヲ資本トセハ固定資本中ニ入ル、ノ外ナキナリ然レトモ凡ソ人智ニシテ天然ノ生來ニ出ヅルモノト人爲ノ修養ニ結果スルモノトヲ區別スルコト甚タ難シ好シ如何ニシテカ此先天的智能ト後天的智能トヲ區別シ得タリトスルモ更ニ此修養智能ト勞力トヲ區別スルコト最モ難カラサルヲ得ス何トナレハ生産上ニ對スル智能ノ效用ハ勞力ニヨルニアラサレハ發表スルニ由ナケレハナリ次ニ花客ハ一種ノ信用ニ外ナラサルカ故ニ花客ヲ以テ資本ナリトスルトキハ信用ヲモ資本ナリトセサルヘカラス然ルニロツシエル氏ハ信用ノ定義ヲ下シテ對價ヲ提供スルノ條件ニヨリ任意上他人ノ貸財ニ於ケル處分能力ナリト云ヘリ果シテ然ラハ信用ハ價值ニアラス單ニ異時交換ニ於ケル反對價值ヲ代表スルノ條件又ハ能力タルニ外ナラサルヲ知ルヘシ余輩ハ智能ヲ以テ勞力ニ外ナラストシ之ヲ資本トセス信用ヲ以テ代表條件ナリトシ價值其モノ又ハ資本其モノニモアラストスルナリ

國家ハ果シテ資本ナルヤ否ヤデイトナエル氏ノ如キモ無形資本ナリト云ヘリ然レトモ余ハラダグネル氏ノ如ク之ヲ一ノ經濟人ナリトナスノ優レルニ如カスト借ス國家ハ法人ニシテ經濟界ニ向ツテ資本土地及勞力ヲ供給シ需要シ生産ニ與カリ分配ヲ受ケ又之ヲ消費スル人格ニ外ナラサレハナリ

流動資本ト固定資本トノ關係ハ相互ニ原因結果ヲ成セリ先ツ固定資本ハ流動資本ヲ以テ作成セラレ次ニ固定資本ノ使用ニ依リテ流動資本ヲ作成ス然レトモ此兩者ニハ差異アリ其差異ノ第一ハ回收ノ遲速ニ存ス流動資本ノ投下ハ各經濟單位ニ於ケル經常費ノ支出ニ該當シ各生産期毎ニ資本ノ全部ヲ消費シ全部ヲ新産物又ハ其價格ヨリ回收セラレ又回收セラル、ノ外ナシ之ニ反シテ固定資本ノ投下ハ各經濟單位ニ於ケル臨時費ノ支出ニ該當シ短期ニ投下シテ長期ニ回收セラレ又回收セサルヘカラス從ツテ流動資本ニ依ル生産ハ他ニ轉換スルコト容易ナルモ固定資本ニ依ル生産ハ轉換ニ便ナラス然レトモ第二ノ差異トシテ固定資本ニ依ル生産ハ勞力及原料品(資本)ノ使用ヲ節省シ個人トシテハ生産費ニ比シテ産額ヲ多カラシメ社會トシテモ其節省セル勞力及原料品ヲ

他ノ生産ニ利用セシムルコトヲ得テ社會ノ生産ヲ増加スヘシ之ニ反シテ流動資本ニ依ル生産ハ勞力ヲ要スルコト比較的ニ多ク從テ生産費ニ比シテ産額ハ少ナク社會ノ生産亦固定資本ノ場合ヨリモ多カラサルノ理ナリ
流動及固定兩資本ノ關係及差異以上ノ如クナルカ故ニ吾人ハ大體上左ノ如キ相異ナレル效果ヲ見ルナリ

- 一 固定資本ノ創設ハ流動資本ヲ減シ一時各生産共通ノ運轉資本ヲシテ必
迫セシムルカ故ニ他ノ産業ヲ抑制ス
- 二 固定資産ハ獨リ其創設ノ當時ノミナラス作業ヲ開始スルニ至ルモ其一
生産ニ固定スルカ故ニ流動資本ノ如ク轉換自在ナラサルモノアリテ一旦
其生産力要ヲ失ヒ又ハ他ニ更ニ有益ナル生産ノ起ラントスルモ之ニ轉賣
スルニ便ナラス故ニ生産ノ新擴張ヲ妨クルノ傾向アリ
- 三 然レトモ固定資本ハ結局其生産ヲシテ作業上勞力及原料品流動資本ヲ
節省セシメ産額ヲ増加シ更ニ流動資本ノ供給ヲ豊カナラシム
- 四 之ニ反シテ流動資本ハ其作業ヲシテ固定資本ニヨルヨリモ勞力ノ使用

ヲ多カラシメ生産費ニ比シテ産額ヲ少カラシメ勞銀高ク産物高價ナルヲ
見ルヘシ

第三 特別資本代表資本

作用ノ特別ナルト一般ナルトニ依リテ資本ハ特別資本及代表資本ノ二種ニ區
區スルコトヲ得ヘシ

特別資本トハ其性質上各々一定ノ作用ヲ有シ其向フヘキ方向ノ範圍ハ一定ノ
限界アリテ他ニ變換スルノ容易ナラサルモノヲ云フ前二項ニ論述シタル資本
ハ總テ之ニ該當ス之ニ反シテ代表資本トハ特別ノ資本即チ眞實ノ生産手段ニ
アラシテ一般的ニ他ヲ代表シ其變換ノ極メテ容易ナルモノヲ云フ貨幣及ヒ
有價證券ノ類之ニ屬ス故ニ獨乙學者ハ之ヲ資本ノ一ノ種類ヨリ他ノ種類ニ變
換スルノ難易ニ依ル區別ナリトシテ説明セリ

特別資本ニ關シテハ既ニ前項ニ於テ詳説シタルヲ以テ吾人ハ茲ニ專ラ代表資
本ノ特質ニ關シテ論述スヘシ

代表資本ハ生産上ノ實手段タル特別資本ニ對スルノ名稱ニシテ單ニ資本ヲ代

表スル物ナリト云フニ外ナラサルナリ貨幣ノ如キ之ヲ證明スルモノニシテ株
 券公債及手形ノ類ハ又此貨幣ヲ代表スルニ過キス若シ強ヒテ普通ノ用語ニ從
 ヒ資本ナリトスルモ他ノ資本ヲ一般ニ代表スル點ニ於テ資本タルノミ抑モ貨
 幣ハ社會ヨリ觀察スルモ將タ個人ヨリ觀察スルモ常ニ手段タルヘキモノニシ
 テ目的タルコトナキハ何人モ之ヲ疑ハサルナリ何トナレハ何人モ之ヲ以テ交
 換スル他ノ產物ニ依ルニアラサレハ其目的ヲ達スルコトヲ得サレハナリ是レ
 貨幣カ彼ノ個人資本ニシテ社會資本ニアラサル娛樂商品ト其性質ヲ異ニセル
 所ナリ斯ノ如クニシテ貨幣ハ常ニ手段タリト雖モ生産ノ實手段ニアラス多數
 ノ學者ハ貨幣ヲ資本ナリトシ之ヲ流動資本ニ屬セシメロフシエル氏ハ少シク
 之ト異ナリ貨幣ハ社會觀察ニ於テハ交通機關ニ異ナルコトナキカ故ニ固定資
 本ナリ個人觀察ニ於テハ其用法上一回ニ消費セラレ變形シテ他物トナルカ故
 ニ流動資本ナリト論シ何レモ他ノ資本ト同様ニ見做セルハ吾人ノ遺憾トスル
 トコトナリ

ロフシエル氏ハ交通機關ト同一ナリト云フモ交通機關ハ能ク人ト物トヲ接近

セシメ產物ノ位置(能物)ヲ作成スルノ實作用ヲ有セリ之ニ反シテ貨幣ハ決シテ鐵
 道カ物量ヲ輸送シ棉花カ綿糸ヲ作成シ衣食カ勞力ヲ維持スル如ク生産ノ手段
 タルヲ得ス唯交換制度ノ下ニ於テ單個經濟間ノ權利ノ分配ヲ定メ一般的ニ資
 本ヲ代表スルニ過キサルナリ要スルニ貨幣ハ交換ニ關スル代表的手段ニ外ナ
 リサルナリ人或ハ云ハシ彼ノ度量衡器ハ一般ニ交易機關トシ子モ亦先キニ之
 ヲ社會的資本及固定資本トシテ特別資本ニ屬セシメタルカ如シ貨幣モ同種ノ
 交易機關ナルカ故ニ資本ニアラスヤト然レトモ吾人ヲ以テ之ヲ考フルニ度量
 衡器ノ如キハ第一ニ交換ノ手段ニアラス何トナレハ交換ト云フ事實ナキモ社
 會及個人ハ其生産ノ結果ニ關スル大小輕重ヲ知測スルノ用ニ之ヲ使用スヘケ
 レハナリ次ニ一步ヲ讓リテ之ヲ交換ノ手段ナリトスルモ度量衡器ハ交換ニ關
 スル代表ノ手段ニアラス何トナレハ度量衡器ハ交換セラルヘキ兩物ヲ計算ス
 ルニ止マリテ交換スヘキ一物ヲ代表スルモノニアラサレハナリ之ヲ貨幣カ度
 量衡器ト相異ナレル重要ノ點トス同時ニ吾人カ度量衡器ヲ特別ノ資本トスル
 ニ拘ラス貨幣ヲ代表的資本ナリトスル理由亦之ニ存ス以上論スル所ニ依リ吾

人ハ貨幣ハ常ニ手段ナリ常ニ手段タルモ生産ノ實手段ニアラス單ニ交換ニ關スル代表手段ナルカ故ニ僅ニ代表資本ト稱スルコトヲ得ルニ過キスト斷定セゾトス

貨幣ハ直接特別ノ資本ニアラスシテ間接代表ノ手段ナリト雖モ其代表ノ範圍ハ一切ノ特別資本ヲ網羅シ普遍的ニシテ必要ナル效用ヲ爲スコトハ特ニ貨幣ノ本領トシテ吾人ノ注意スヘキ所ナリ例ヘハ鐵道ノ資本タルヤ其效用ハ大ニシテ重要ノ生産手段ナリト雖モ其作用ノ範圍ハ狹隘ナルヲ免レス單ニ人ヲ輸送シ貨物ヲ移轉スルニ限ラレテ衣ヲ織ルヘカラス以テ地ヲ耕スヘカラス又其效用モ必然的ニ價值ヲ維持スルモノニアラス或ハ損耗シ或ハ廢用ニ歸スルコトナキニアラス之ニ反シテ貨幣ハ然ラス以テ鐵道ニ轉換シ以テ衣食ヲ代表シ若シ時間ヲ以テ比較スレハ特別資本ヨリモ人ノ需要ヲ充タスコト甚ク速カナリト云フヘシ而シテ其效用ハ所ニヨリ時ニヨリ甚ク變動セシテ必然的ノ價值ヲ有セリ是ヲ以テ貨幣ハ特別資本ヨリモ之ヲ有スル經濟人ニ取リテ廣汎確實ノ效力ヲ存スヘキ用具ナリト認メラル通俗ノ意義ニ於ケル資本ハ却

テ專ラ貨幣ナルコトノ理正ニ茲ニ存スルヲ知ルヘシ

代表資本ハ資本ノ代表トシテ以上ノ如キ作用ヲ有スルカ故ニ之ヲ特別資本ニ比スレハ凡ソ左ノ如キ特種ノ效果ヲ生ス

一 代表資本ハ特別資本ヨリモ交換ヲ便ニス 蓋シ實物ト實物トノ交換ノミナルトキハ容易ニ當事者ノ意思投合セサルモ一方ノ實物ニ代ハリテ代表資本(貨幣)現ル、トキハ意思ノ投合忽チニシテ行ハル、カ故ニ交換ノ行ハル、度數多カルヘキノ理ナリ

二 資本ノ補充ヲ速カナラシメ生産ヲ擴張セシム 交換ノ取引容易ニ行ハレ産物ノ移轉速カナルトキハ産物生産ニ消費シタル既投ノ特別資本ハ其産物ノ代價トシテ受取リタル代表資本(貨幣)ニヨリ回收セラレ生産者ハ此貨幣ヲ以テ更ニ特別資本ヲ設備スルコト容易ナルカ故ニ資本ハ忽チニ補充セラル實本ニシテ補充セラル、トキハ生産者ハ其生産ヲ休止スルコトナク之ヲ繼續シ否ナ更ニ努力者ヲ増役シテ生産ヲ擴張スルコトヲ得ヘシ從テ社會經濟上ニ於テモ生産ノ増進ヲ見ルヘキナリ

三 代表資本ハ交換ノ代表手段ナルカ故ニ其品質及數量ノ變動ハ忽チニ交易品ノ價格ニ變動ヲ及ホシ其結果生産ヲ獎勵スルコトアルモ又時トシテ投機ヲ助長スルコトアリ

四 代表資本ハ實資本ノ如ク特別ノ有限的作用ヲ有セス一切ノ資本及消費物ニ對スル無限ノ轉換力ヲ有スルカ故ニ特別資本ヨリモ浪費ニ振向ケラル、ノ傾向多シ

五 固定資本ノ賃料、流動資本ノ利息ハ資本ノ生産上ニ於ケル各特別ノ作用ニ從ヒ其報酬(使用ノ)ヲ推定シテ契約上之ヲ前定スルモ代表資本ノ金利ハ元本ノ作用特定スルニ由ナク其報酬(使用ノ)ヲ推定スルコト能ハサルカ故ニ當事者各自ノ需給状態ニ依リテ決定セラル、從テ金利ノ變動ハ殊ニ甚シキヲ常トス

要スルニ資本ノ種類ハ種々アリト雖モ其主要ナルモノハ材料、用器及生計品ニ外ナラサルカ故ニ其生産ニ必要欠クヘカラサルコト論ヲ待タス少クトモ今日ニ於テハ土地ト勞力トノミヲ以テ生産ヲ完了スルヲ得ス必スヤ材料及用器ヲ待ツテ

第七章 生産ノ企業

第一節 企業ノ性質

始メテ土地ヲ耕作シ使用シ衣食アリテ然ル後ニ生産的勞力ヲ維持セサルヘカラサルコト疑ヲ容レヌ是レ吾人カ資本ヲ以テ生産要素ノ第三ナリトスル所以ナリ

土地、勞力及資本ノ三者カ生産ニ必要ニシテ且ツ此三者互ニ相頼リ相扶ケテ以テ生産ヲ完成スル所以ハ以上論スル所ノ如シ然レトモ此要素ヲ結合共働セシメテ之ヲ支配シ生産ヲ經營スルモノアルニアラスンハ三者個々分離ノ状態ニ於テ生産ノ完成ヲ期スルニ由ナシ茲ニ所謂三者ヲ結合共働セシメテ生産ノ完成ヲ期スルコト之ヲ企業(intershim)ト云フ而シテ生産ノ完成セラル、結果ハ必スシモ豫期ニ合スルモノニアラス之ヲ企業ノ危険ト云フ

企業ノ必要及危険ハ財產制ナキ場合若クハ財產制ノ存スル自由生産ノ場合ト雖モ之ヲ認メサルヲ得ス然レトモ此等ノ場合ニ於ケル企業ノ危険ハ専ラ生産技術(上)ノ成敗ニ存ス唯財產制ナキ場合ニ於テハ危険ノ負擔ハ生産結果ノ共有ト共ニ一般ニ歸屬スヘク之ニ反シテ自用生産ノ場合ニ於テハ生産結果ノ所有ト

其ニ企業ノ支配者ニ歸屬スルノ差アルノミ然ルモ生産ノ組織ハ更ラニ進メテ自
用生産ノ單純組織ヨリ複雑ナル自用兼他用生産ノ組織トナリ又更ニ分化シテ分
業兼他用生産組織ノ現今ニ至リテハ企業ノ危険ハ獨リ生産技術上ノ結果ノミナ
ラス此結果ニ關スル交換取引上(格)ノ損益ヲモ包含シ其負擔ハ生産結果ノ所有ト
共ニ其支配者ニ歸屬スルモノナリ而シテ企業ノ支配者トナリテ三要素ヲ結合シ
生産ノ技術上又ハ價格上ノ危険ヲ負擔スルモノ之ヲ企業者(undertaker)ト云フ彼
ノ各種ノ農業者、工業者及商業者ノ如キ皆之ニ屬ス

ミートホフ氏曰ク企業者ハ自己ノ計算及危険ヲ以テ生産各要素ヲ共働一致セシ
メ之ヲ利用シテ其經濟上ニ於ケル重要ノ職分ヲ行フモノナリト

コリン氏曰ハク企業者トハ人的生産力ト物的生産力トノ結合ヲ企テタルモノナリ
ト

ロツシエル氏曰ハク企業者ノ特質ハ販賣ノ目的ヲ以テ自己ノ危険ニ於テ生産ニ
從事スルニ存スト

企業ハ其源ヲ古代ノ自用生産ニ於テ發シ更ニ他人ノ注文ニ應シテ物品ヲ生産ス

ル他用生産ヲ兼スルニ及マテ稍々其形ヲ認メラル、ニ至レリト雖モ他ノ注文ニ
應シテ生産ニ着手スル如キ企業ハ其社會及個人ニ對スル生産ノ效用充分ナラサ
ルカ故ニ之ヲ不完全ノ企業ト云フノ外ナシ然ルニ社會進歩シ分業發達スニ及
マテ企業モ亦次第ニ完全トナレリ完全企業トハ社會ノ需用ニ先チ又ハ其需要ヲ
呼ビ起シテ、生産ヲ行フヲ稱ス現今ノ社會ニ於テモ尙ホ不完全企業ノ行ハル、
モノアリト雖モ漸次各種ノ事業ニ於テ完全企業ノ發達スル傾向アリ

危険ノ反對ハ成功ナリ此成功ハ三要素ノ結合ニ關シテ費シタル總テノ犠牲即チ
生産費(三要素ノ數)ト其之ニヨリテ作成シタル產物ノ産額又ハ價額トノ差額ノ存
亡如何ニ係レリ故ニ企業者殊ニ現今ノ企業者ハ常ニ左ノ注意ヲ爲ササル可カラ
ス

第一 生産費ヲ節省シ又ハ生産額ヲ増加セシメ爲メニ常ニ生産要素ノ結合又ハ補
充ニ關スル適當ノ方法、時期、場所、數量及價額ヲ考量シ且ツ内部ニ於ケル事業ノ
秩序ヲ保持セサルヘカラス

第二 社會ノ需要ニ適應シ他ノ競争ニ對抗シテ販路ヲ維持擴張セシメ爲メニ其生

産スヘキ数量、品質及形状ニ關シテ社會ノ趨向ヲ察シ發明、發見及改良ニ見附シ
同業者ノ資力、生産費及生産額ヲ較査セサルヘカラス。

第三 産物ノ價額ニ於テ結局ノ成員ヲ決セシカ爲メニ内外物價ノ變動、差異ヲ調
査シ同種及代用品ノ供給ヲ計量シ過去ニ徴シ現在ヲ察シ將來ノ見込ヲ附ケテ
産物賣却ノ時期、場所、數量及價格ヲ選擇セサルヘカラス。

企業者カ斯クノ如キ考量ヲ以テ生産ヲ經營スルノ結果ハ獨リ企業者ノ個人經濟
ニ於テ利潤ヲ見ルノミナラス社會經濟上ニ於テモ左記幾多ノ效果ヲ生スヘシ

第一 企業ハ危險集中シテ他ノ危險ヲ減ス

事業ノ成敗ト收益ノ多少トハ企業者ノ一身ニ集中ス企業者ハ之カ爲メニ全力
ヲ擧ゲテ生産上ノ危險ヲ排除スルニ力メ以テ此生産ニ參加セル勞働者、地主及
資本家ノ危險ヲ避ケシム從ツテ參加スヘキ生産的ノ勞力、資本及土地ヲ増加ス
ヘシ

第二 企業ハ生産費ヲ減少セシム

殊ニ現今ノ企業ハ他ノ注文ヲ待タスシテ常ニ資本及勞力ノ運轉ヲ連續シ且ツ

企業者利害ノ第一着ハ生産費ニ存スト云フノ觀念絶エスシテ専心事業ノ管理
ヲ當ルカ故ニ冗費ヲ省キ且ツ用具ノ毀損ヲ減少スルコトヲ得從テ著シク社會
經濟上ニ於ケル生産費ヲ節省シ物ノ事業ニ向ツテ其節省セル部分ヲ供給スヘ
シ

第三 企業ハ消費者ノ需要ニ應ジテ一層迅速ニシテ且ツ善良ナル満足ヲ與フ

企業者ノ結局ノ成功ハ産物ノ價格ニ存シ價格ハ社會ノ需要ニ從フカ故ニ企業
者ハ此需要ニ應ジテ産物ヲ一層佳良ナラシムルノ傾向アルノミナラス完全企
業ハ他ノ注文ヲ待タスシテ多量ニ生産スルモノナルカ故ニ社會ノ消費者ハ其
ノ欲念ノ發生ト同時ニ忽チ此佳良ノ産物ヲ以テ充足セラレヘシ

第四 企業ノ成功ハ更ニ社會ノ生産ヲ増加ス

惟フニ第一ニ所謂企業ハ危險ヲ集中スルモ同時ニ又成功ヲモ集中シ他ノ參加
者ヨリ企業者ニ成功ヲ奪フコトアリ第二ニ所謂生産費ノ節省ハ時ニ或ハ勞動
者ノ需要ヲ減スルコトアリ殊ニ第三ニ關連スル産物價格ノ問題ハ企業者ノ成
功トナリテ社會上消費者一般ノ不利ナルコト少カラス此等ノ諸點ハ個人經濟

ト社會經濟ト相關和セサル部分ニ屬スト雖モ能ク自由競争ノ行ハル、間ハ企業者ノ取得セル成功ノ利潤ハ彼レカ徒ラニ之ヲ浪費セサル限リ獨リ社會ヨリ之ヲ永ク專占スルコトヲ得ス彼レ必ス之ヲ他人ノ企業資本ニ投下スルカ又ハ自己成功ノ企業ヲ擴張スルニ供スヘシ而シテ其結果ハ何レニヨルモ更ニ生産要素ノ使用ヲ増加シ彼レハ第一第二ニ於テ皆テ獨占セル利潤ノ一部ヲ各生産參加者ニ分與シツ、社會ノ生産ヲ増加シ結局ハ產物ノ價格ヲ平均セシメサルヲ得ヌ何トナレハ彼レ企業者ハ三要素ノ一ヲ欠キテ彼カ企業ヲ行フヘカラス又其企業ノ成功ハ素ト是レ社會ノ需要ニ適應スルニ於テ始メテ其ノ運命ヲ有スルモノナレハナリ

第五 共濟企業及公共企業ハ殊ニ社會ノ幸福ヲ増進ス

第一乃至第四ノ效果ハ主トシテ私益的企業ニ關シテ之ヲ論セリ然レトモ私有財産制度ノ下自由競争ノ充分ニ行ハレス企業ノ獨占現ハル、トキハ共同の自由競争ノ方法トシテ共濟企業起リ又獨占企業ニ對シテ公共企業擴張セラル面シテ其共濟企業及公共企業ハ競争ノ基礎ヲ恢復シ獨占ノ弊ヲ防クコトヲ得

ルガ故ニ自由競争ノ完全ニ行ハル、間ノ私人企業ト内シク社會經濟上ノ利益ト其成功ヲ調和スルモノナリ其詳細ハ企業ノ種類トシテ次節ニ之ヲ論述スヘシ

第二節 企業ノ種類

企業ハ其組織目的及規模ノ異同ニ依リテ之ヲ數種ニ分類スルコトヲ得ヘシ其組織ニ依リテ之ヲ分類セシ

第一 個人企業及共同企業

個人企業 (Einkauf unternehmung) ハ個人カ自己ノ損益ニ於テ生産要素ヲ結合シ自ラ經營スル所ノ生産ニシテ其個人ハ之ニ依リ其經濟上ノ獨立ヲ認メラル、モノナリ此企業ニ於ケル生産ノ種類及範圍ハ企業資本ノ多少ニ依リテ定マリ其勞力者ニ對スル關係ハ彼レ企業者ノ精神及道義ノ如何ニヨリテ異同アリ其結果タル損益ハ彼レ一身ニ歸スルカ故ニ勤儉用意最モ鋭密ナルヲ得ヘ、又他ノ弊財ナキニヨリ計畫ノ決定及實行ハ他ノ種類ノ企業ニ比シテ迅速且ツ有效ナルヲ得ヘ、從テ其業務ハ概シテ確實ナリト云フヘシ然レトモ資本ハ割合ニ少ナ

其成功ハ一身上ノ變動ニヨリテ支配セラル、カ故ニ業務ノ範圍ハ大ナルコトヲ得ス

共同企業 *Gesellschaftlichen unternehmung* ハ個人ノ多數カ共通ノ損益ニ於テ生産要素ヲ結合シ共同ニ經營スル所ノ生産ニシテ外部ニ對シテハ一體トナリ内部ニ對シテ互ニ團員トシテ各別ノ權利義務ヲ有ス斯クノ如ク多數ノ共同ナルカ故ニ計畫ノ決定及實行ハ個人企業ノ如ク迅速ナラス時トシテ機會ヲ失シ若クハ方針ノ數次變改スルコトアルヲ免レヌト雖モ其資本及勞力ノ運用ハ大ナルカ故ニ業務ノ範圍ハ廣大ナルヲ得ヘクシテ其效驗モ顯著ナリトス

此共同企業ハ更ニ其目的ニ依リテ之ヲ一營利的ノ共同企業ニ共助的ノ共同企業及ヒ三公共的ノ共同企業ニ大別スルコトヲ得而シテ普通ノ組合會社ノ類ハ其第一種ニ屬シ生産消費及ヒ信用ノ産業組合ハ第二種ニ屬シ官業公有作業ノ類ハ第三種ニ屬ス

第二 大企業及小企業

大企業小企業ノ區別ハ如何ナル標準ヲ以テ之ヲ決定スヘキカ素ヨリ比較的ノ

區別ナルカ故ニ決シテ明切ノ標準アルヘキモノニアラスフイリボヒテ氏ノ如キハ經濟技術及ヒ社會的條件等煩細ノ標準事項ヲ列舉シテ之ヲ區別セントシタリト雖モ到底徒勞ニ歸ス吾人ハ寧ろ通俗ノ觀念ニ從ヒ先ツ國狀及時代ヲ一定シ然ル後テ使用資本ノ多少使用勞力者ノ多少機械應用ノ程度生産物ノ分量如何ヲ標準トシテ比較的ニ之ヲ區別シ大企業トハ大資本ヲ投シ多數ノ勞力者ヲ使用シ機械ヲ据付ケ多額ノ產物ヲ取扱フ所ノ企業ニシテ大農業大工業大商業株式會社及ヒ公共團體企業ノ類之ニ屬ス其然ラサルモノハ小企業ナリト云フノ外ナシト信スルナリ而シテ小企業ヨリ大企業ニ變移スルモノ吾人之ヲ企業ノ擴張ト稱ス

大企業及ヒ小企業ハ前述ノ如ク比較的ノ區別ニ外ナラサルカ故ニ大企業ノ效益トスル點ハ小企業ノ短所トスル所大企業ノ短所トスル點ハ小企業ノ效益ナリト認メテ可ナリ爾レ先ツ大企業ノ效益ヨリ之ヲ論ゼン

一 大企業ノ效益

大企業ハ既ニ企業一般ノ效益トシテ前掲シタルモノ、外向ホ左ノ效益ヲ有

經濟學原論 價值成立論 生産ノ企業 企業ノ種類

セリ

甲 大企業ニ於テハ生産要素ヲシテ一層有益ナル配合ヲ得セシメ殊ニ分業法ノ施行ニ依リ生産ノ結果ヲ大ナラシム

蓋シ大企業ニ於テハ機械ヲ使用シ分業法ヲ施行スルニ適スルカ故ニ機械使用ノ效益トシテ後ニ論述スル所ノモノ及ヒ分業ノ利益トシテ前ニ論述シタル所ノ效益ヲ併有スルコトヲ得ヘシ從テ生産費ヲ減シ生産額ヲ多カラシムルノ理亦明白ナリトス

乙 大企業ニ於テハ事業上一定ノ秩序ヲ生スルカ爲メニ能ク労働量ヲ維持シ且ツ生産費ヲ節約ス

蓋シ小企業ニ於テハ秩序一定セス労働ノ時間、勤情時ニ從フテ消長アリト雖モ大企業ニ於テハ工場ノ設備、労働監督ノ方法具備シ労働ノ時間、労働ノ勤情爲一定ノ律アルカ故ニ其企業ニ關スル労働量日々一定シ材料ノ消費亦從ツテ順序アル連續ヲ爲シ結局亦生産費ヲ節シ産額量ヲ多カラシムルノ理ナリ

丙 大企業ニ於テハ大資本ノ經營ニ依リ企業者ヲシテ取引上有利ナル條件ヲ得セシム

蓋シ大企業ニ在リテハ大資本ヲ有シ巨額ノ原料ヲ購入シ巨額ノ産額ヲ販賣スルカ故ニ低廉ナル信用ヲ利用シ低價ノ原料ヲ仕入レ而シテ販路擴張ニ要スル廣告其他ノ方法ヲ低廉ニ利用スルコトヲ得ヘシ

要スルニ第一及ヒ第二ハ直接ニ社會ニ對シテ生産額ヲ増加シ第三ハ直接ニハ企業者ノ生産費ヲ節減シ間接ニ社會ニ對シテ低價ノ産物ヲ供給スヘキ傾向ヲ有スルモノナリ故ニ若シ自由競争ニシテ完全ニ自由ナラシムルハ大企業ノ效益ハ個人及ヒ社會ニ對シテ兩ツナカラ大ナリト云ハサルヘカラス然レトモ若シ自由競争ニシテ完全ナラサルトキハ企業者ハ必スシモ生産費ノ減少ニ伴フテ價格ヲ引下クルコトヲ要スルモノニアラス此場合ニ於ケル價格ハ益々彼レ企業者ノ政略ニ從屬スヘシ是レ直ニ大企業其者ノ短所トハ稱スヘカラサル也之ニ伴フ弊害ナリト云フコトヲ得ヘシ

二 大企業ノ短所

大企業ニ伴フ弊害ニモ亦個人經濟ニ對スルモノト社會ニ對スルモノトアリ
然レトモ個人經濟ニ對スル短所ハ寧ロ甚ク少ニシテ社會ニ對スルモノハ稍
々大ナリトス

甲 業務ノ熱心ナル注意ヲ缺クコト 小企業ニ在リテハ起業者自ラ其利益
心ノ向フトコロニ從ヒ勤勉細心以テ事ニ從フノ傾向アリト雖モ組織益々
充大ヲ加フルニ從ヒ責任ノ中心ハ漸ク離散シ事ニ從フ者注意ヲ缺クニ至
ルヲ免レヌ是レ其個人經濟ニ採リテ不
ル所トス

乙 價格獨占ノ傾向アルコト 蓋シ大企業ニ於テハ生產要素ノ生産力ヲ増
進シ生產費ヲ節減シ企業者ヲシテ取引上有利ノ條件ヲ得セシムルコト既
ニ論シタル所ノ如クナルカ故ニ其勢ノ趨ク所ハ彼ヲ屬リテ能ク競争場裡
ニ投セシメ低價ノ賣崩シニ依リテ一舉ニ產物ノ價格ヲ低落セシムヘシ此
時ニ當リテハ一般ノ消費者ハ一時之カ利益ヲ享クヘシ然レトモ一旦低價
競争ニ因リテ價格ヲ低落セシムルト同時ニ他ノ不長條件ノ下ニ從業スル
小企業ヲ壓倒スヘシ斯クテ小企業ノ壓倒セラル、ヤ市場ハ彼レ大企業者

ノ獨占スルノ傾向アリ若シ此場合ニ於テ他ノ有力ナル競争者ヲ生スルニ
至ルトキハ彼レ更ニ低價競争ニ依リテ之ヲ壓倒スルカ若クハ之ト企業同
盟ヲ締結シテ供給ヲ制限シ更ニ一大勢力ヲ扶植シテ市場ヲ獨占シ價格ヲ
引上ル利益ノ壟斷ヲ計ルヲ得ヘシ此點ニ關シテハ大企業ハ實ニ大資本家
ノ狀態ヲ保障シ市場ノ供給狀態ヲシテ皆彼等ノ方寸如何ニ係ラシムル
ノト稱スヘキナリ近時米國ノ經濟界ニ流行スル信託同盟 (Trust) ノ如キ其
最モ甚シキモノト稱セラル

吾人ヲ以テ之ヲ見ルニ企業ノ同盟ニ二種アリ一ハ主トシテ國內ニ於ケル
獨占ヲ目的トスルモノ他ハ國際間ニ於ケル獨占ヲ目的トスルモノ是ナリ
而シテ國際間ニ於ケル獨占ヲ目的トスルモノハ消極的ニハ國內ニ對スル
外國企業者ノ獨占ニ對抗セントスルモノト又積極的ニハ國外ニ於ケル外
國企業者ニ對抗セントスルモノヲ常トスルカ故ニ一國經濟政策トシテハ
一種ノ團體的自利心ニ基ク國際的自由競争ニシテ一國經濟上有利ナルト
同時ニ其競争セラル、市場モ亦甚シキ害ヲ蒙ラサルヘシ之ニ反シテ國內

ニ於ケル企業ヲ獨占スル者ニ至リテハ概シテ其社會一般ニ不利ヲ與フルヲ常トス但此場合ト雖モ其獨占ハ一定ノ產物例ヘハ原料品ニ限ラレ廣ク工業品ノ生産ヲ獨占シ得ルモノニアラス且ツ其獨占ハ絶對ノ獨占ニアラズシテ社會ノ需要變動ニ多少ノ關係ヲ有シ無限ニ價格ヲ引上ケ得ヘキニアラス況ンヤ輸入品ノ競争アルニ於テオヤ企業者ハ縱令獨占ノ狀況ニ違スルモ多クノ場合ニ於テ甚シク價格ノ引上ケヲ爲サスシテ寧ロ企業ノ擴張ヲ計リ產物ノ供給ヲ増加シ市場ノ需要ヲ適當ニ維持スルヲ利トス

以上之ヲ要スルニ大企業ハ小企業ニ比シテ其效益大其弊害ノ稍々憂フヘキモノナキニアラスト雖モ亦自ラ調和ノ傾向ナキニアラサルノミナラス之カ爲メニ其效益ヲ沒スルニ足ラサルヤ明カナリトス然レトモ大企業ハ分業法ノ施行ニ適セサル企業ニハ之ヲ行フテ效益ナキカ故ニ産業ノ種類ニ從フテ其效益ニ差アリ例ヘハ製造業、運輸業、鑛業ノ如キハ充分ノ資本ト相當ノ販路トヲ有シ分業ノ施行ニ適スルカ故ニ大企業ニ依リテ前記ノ效益ヲ擧クルヲ得ヘシト雖モ耕作農業ノ如キハ其性質上充分ニ分業法ヲ使

用スルヲ得サルコト既ニ論述シタル所ノ如クナルカ故ニ大企業ノ生産ニ適セス但近時機械ノ發明相繼テ起リ農業ニ關シテモ之ヲ應用シ稍々廣汎ノ仕掛ヲ以テ耕作スルコトヲ得ルニ至レルモノアリ從ツテ穀類及藁草ノ如キ粗笨的ノ生産ニ在リテハ多少ノ效益ヲ擧ケ得サルニアラス商業ハ全ク機械ノ使用ナク又多クノ勞力者ヲ要セサルカ故ニ分業法ノ施行殆ト其要ナク從ツテ大企業ニ適セサルヤ論ヲ待タス但是レトモ近時或種類ノモノニ於テ商業資金ノ合併ニ依リテ大商舖ノ多數カ小商舖ニ代ハリテ起ラントスルノ事實アリト云フ

第八章 生産ノ發達

生産ノ發達トハ生産ノ技術的結果タル物能及其數量ノ増進ヲ意味スルモノニシテ產物ノ品質及產額ノ上ニ現ハレ人欲應給ノ狀態ニ於テ其價值ヲ認メシムル所ノモノナリ生産發達ノ條件ハ生産ニ必要ナル要素及企業ノ狀況ニ存スルコト當然ノ論理ニ屬スルカ故ニ吾人ハ生産發達ノ條件トシテ第一ニ生産三要素各個ノ増進ヲ論シ第二ニ企業ノ増進ヲ論セサルヘカラス

第一節 土地生産力ノ増進

經濟學原論

價值成立論

生産ノ發達

土地生産力ノ増進

土地ノ生産力トハ土地カ生産ニ及ホスヘキ技術的效用ノ謂ニシテ其差異ハ氣候
 外表、地質及地位ノ同異ニ基キテ存スルコト既ニ吾人ノ論シタル所ナリ然ルニ人
 爲ハ此差異ヲ變更スルノミナラス更ニ新ニ土地ノ分量ヲ増加シ又ハ既ニ存スル
 土地ノ性狀ヲ改良シ以テ能ク産額及品質ノ増進ヲ促カスモノナリ
 土地ノ分量及性質ハ種々ノ原因ニ依リテ増進セラルヘキモ其主要ナルモノハ土
 地ノ開拓及改良、耕作法ノ改良、肥料及農具ノ改良、發明並ニ土地制度ノ改良等數者
 ニ外ナラサルナリ

第一 土地ノ開拓及改良

土地ハ開拓及改良ニ依リテ生産的ノ面積ヲ擴張シ産物ノ數量ヲ増加スヘシ開
 拓ハ能ク不毛ノ地ヲシテ生産的ノ土地タラシムルモノニシテ交通ノ發達又ハ
 需要ノ増加ト相待ツテ行ハル土地ノ改良ハ表地ノ高低ヲ均夷シ不用ノ畦畔ヲ
 撤削シ所有ヲ整理シ排水疏水ノ工事ヲ施行シ依テ以テ比較上生産的ナル地積
 ヲ増加セシムルモノニシテ主トシテ生産者ノ協同ニ依リテ行ハル、本邦耕地ノ
 面積ハ凡ソ五百萬町歩ニシテ明治三十二年耕地整理法實施完成ノ結果ハ凡ソ

六萬町歩ノ不用畦畔ヲ撤削シテ田畑地トナスノ見込ナリト云フ亦以テ土地改
 良ハ效果ヲ知ルニ足ルヘシ

第二 耕作法ノ改良

土地ハ輪換栽培、休作法及大農法ノ如キ耕作方法ノ改良ニ依リテ其生産力ヲ増
 加ス、輪換栽培トハ植物カ土壤中ニ存スル物質ヲ要スルノ同一ナラサルヲ利用
 スル爲メニ作物ノ種類ヲ時々變換シテ栽培スルノ方法ニシテ例ヘハ甘藷甜菜
 ト麥類及ヒ馬鈴薯ト同一ノ耕地ニ換栽スルカ如キ是レナリ休作法トハ時々
 休田シテ大氣ノ侵入ヲ促カシ風化ヲ便ニシ以テ其壤土ヲシテ再ヒ同種ノ植物
 ニ與スル養料ヲ得セシムルノ方法ニシテ例ヘハ穀類ニ關シテ二三年宛續耕シ
 三四年目ニ一回休田スル如キハ往々實例ノ存スル所ナリ
 大農法トハ農耕ノ大企業ニシテ大器械ヲ利用シ大規模ニ耕作スルモノナルカ
 故ニ農耕ノ性質上全般ニ適用スルコトヲ得サルモ五穀糞草ノ如ク或程度迄之
 ヲ適用スルコトヲ得ルモノニ在リテハ土地ノ生産力ヲ増進スルノ效用頗ル大
 ナリモハナリ而シテ其效用ハ勞力時間及ヒ監督ノ節約等大企業ニ伴フ凡テノ

效用ナルヲ以テ茲ニ之ヲ論述セス

第三 肥料ノ施用及ビ改良

土地ハ肥料ノ施用ニ依リ其養分ヲ恢復シ増進シ其生産力ヲ増加ス抑モ植物ハ地中ノ砂土ヨリ加里及ヒ磷酸ヲ採リ地外ヨリ自然ニ含窒質ヲ吸收シ以テ其養分ヲ新陳代謝セシムト雖モ耕種精銳ヲ加フルニ從ヒ左ナクモ風雨ノ掃蕩ニ遭ヒ自然ノ養分ハ不足ノ傾向アルカ故ニ更ニ人爲ヲ以テ養分ノ維持増進ヲ計ラサルヲ得ス然ルニ其養分ハ主トシテ窒素、磷酸及ヒ加里ノ三者ヨリ爲ルカ故ニ此等ヲ包有セル物質ヲ注加セハ此目的ヲ達スルコトヲ得ヘキナリ肥料トハ即チ此等ノ物質ニシテ糞尿、米糠、油粕、糠、榨粕、乾鰯、大豆粕、紫雲英、燒酎粕、棉實粕、石灰等植物質、動物質、礦物質ノ別アリ此等ハ皆能ク植物ノ種類ニ應シ其養料ヲ補充シ併セテ壤土ヲ填起セシメ砂土ノ分解ヲ促進スルカ故ニ土地ノ生産力ニ至大ノ效用ヲ與スルコト論ヲ待タス唯此等ノモノハ要素ノ配合必スシモ宜ヲ得サレカ故ニ一面ニハ養料ヲ與フルノ利アルト同時ニ他面ニ却テ害ヲ醸スノ虞ナキニアラズ茲ニ於テカ人造肥料ノ發明改良ヲ計ルノ必要ヲ生シ今ヤ窒素肥料、

磷酸肥料及ヒ硫酸肥料等ノ名ヲ以テ現ハル、モノアルニ至レリ施肥ノ分量ハ固ヨリ各植物ニ依リテ同一ナラス若シ其量ノ多キニ過クルトキハ植物ノ疾病ヲ醸モシ葉病、萎枝、遂ニ結實ヲ見サルニ了ルコトアリ

第四 農具ノ改良

土地ハ耕種ニ使用スル農具ノ改良ニ依リテ其生産力ヲ増進ス歐米ノ大耕作ニ行ハル、耕作機械ハ一基ヲ以テ牛四十頭ノ力ニ敵スルニ足ルト云フ其装置ハ耕地ノ兩端ニ流籠ヲ据付ケ鐵繩ヲ以テ巨鋤ヲ運轉スルニ在ルカ如シ其他用水器械、灌溉器械ノ如キ皆土地ノ生産力ヲ増進スルノ效大ナルモノト云フヘシ、牛耕又ハ馬耕ノ問題ハ農具ニ關スル問題トシテ研究スルコトヲ得ヘシ而シテ一般ノ學說ハ牛耕ヲ以テ馬耕ニ優レリト爲セリ蓋シ牛ハ三歳ノ齡ヲ以テ能ク牡馬ノ力ニ敵シ其食料ハ秣草、菜滓ノ類ニ過キスシテ馬ノ裸麥ヲ要スル如ク高價ナラス其附屬具ニ至リテモ馬具ノ半價ヲ以テ足り其排泄物ハ馬ニ比シテ多量ノ肥料ヲ生スルヲ以テナリ

第五 土地ニ關スル制度及ヒ機關ノ改良

經濟學原論 價值立論 生産ノ發達 土地生産力ノ増進

土地ハ之ニ關スル制度及ヒ機關ノ改良ニ依リテ個人ノ勤勉ヲ促カシ其生産力ヲ増進ス例ヘハ自作的小農ヲ助長スルニ適スヘキ制度小作法ノ制度土地抵當銀行信用組合作物保險地租ノ制度ノ如キ之ヲ開設改良スルトキハ各農耕者ノ希望ヲ保障シ土地ニ對スル投資ヲ容易ニシ作物ノ危險ヲ救済シ土地ノ負擔ヲ平均スルカ故ニ生産者ノ勤勉ヲ促カシ產物ニ於テ其效果ヲ現ハシ土地ノ生産ヲ増進スヘシ

以上ハ土地ノ生産力ヲ増進スル所以ノ原因ナリト雖モ此生産力ハ左記四個ノ事情ニ依リテ制限セラル、ヲ免レヌ

第一 土地ハ地積ニ於テ限アルコト

土地ノ分量ハ地理上ニ於テ既ニ絕對的ナリ而シテ經濟上ノ土地ハ更ニ其一部ニ制限セラル開拓改良又ハ吾人ノ稀レニ目擊スル埋立若クハ漸積ニ依リテ往々土地ノ増加スルコトアルモ其増加ハ益々多量ノ勞費若クハ時日ヲ要スルモノナルカ故ニ容易ニ之ヲ期スルコトヲ得ス吾人人口ノ増殖ニ對比スレハ耕地ノ増加ハ限定的ナリト稱スルコトヲ得ヘシ現今既ニ人口稠密ナル舊國ニ於テ

ハ多少運搬ノ傾向ヲ示サントス

第二 土地ハ地質上養分ニ限アルコト

土地カ植物ニ與フル滋養ハ土壤ノ化學的作用ニ外ナラサルカ故ニ或ル程度迄ハ肥料ノ施用及ヒ改良ニ依リテ之ヲ増進シ得ヘシト雖モ或ル程點ヲ越ユルトキハ肥料ノ増施セラル、割合ニ收穫ノ増加ヲ期スルコトヲ得ス今クールマン氏ノ實驗ニ依ルニ魚精肥料ヲ用キテ一町歩ニ付々六百斤ヲ施シ五千斤ノ乾草ヲ收穫セシモ後其二倍ノ肥料ヲ投シタルトキハ僅ニ八百斤ヲ增收シタルニ過キヤラント云フ

第三 作物ノ被害ハ廣汎ニシテ且ツ頻繁ナルコト

土地ハ廣ク空間ニ露出シテ直接ニ旱魃霖雨風雪雹霰又ハ氣温ノ激變ニ晒ラサレ、カ故ニ其被害ハ廣汎ニシテ作物ノ夭折土壤ノ損害施肥ノ掃蕩類々相繼クマノナリ加フルニ浮塵子、蠅虫、病葉、萎枝ノ災害畢クテ數フヘカヲサレモ、アヲ避ニ蟻鼠ノ害ニ至リテハ容易ニ之ヲ發見スルコト能ハス豫防甚ク困難ニシテ其事後ノ救済モ作物ヲ根拔スルニアラサレハ殆ント術ノ施スヘキモノナリト

云フ

第四 耕作ハ大規模ノ施行ニ適セサルコト

土地ハ廣汎ノ方域ニ亘リ南北氣候相異ナリ東西凸凹一ナラス加フルニ地質ノ異同ニ從テ作物ノ種類及ヒ耕作ノ方法手段甚シク差異アリ故ニ其耕作モ自ラ地方的ニシテ且多種的ナラサルヲ得ス能ク一律ノ規模ヲ以テ大仕掛ニ施行スルニ適セス概シテ各小範圍ノ土地ニ就キテ各別ニ資本及ヒ勞力ヲ分布スルヲ要シ其勞力ハ耕作ノ期節ニ妨クラレテ大分業ヲ行フニ不便ナリ彼ノ五穀及ヒ農草ノ耕作ノ如キ比較的粗笨耕作ニ適スル者ト稱セラルト雖モ其規模其分業自ラ一定ノ範圍アリテ例ヘハ一郡又ハ一縣ト云フ如キ大範圍ヲ目的トシテ一律ノ仕掛ニ依リ分業統一ノ耕作ヲ行フヘカラサルヤ論テキナリ果シテ然ラハ彼ノ規模ヲ大ニシ分業ヲ擴張シ資本及勞力ノ出費ニ對シテ益々生産力ヲ増進スト云フコトハ土地ノ耕作ニ關シテ其多キヲ望ムヘカラサルカ如シ是ニ依リ之ヲ觀レハ土地ノ生産力ニハ自然ニ一定ノ限度アリ此限度ハ不動的ノモノニハアラサルモ漸次相近迫セントスル傾向ヲ有シ土地カ一旦此限度ニ遭遇

スルトキハ其限度ノ如何ナル方法ニ依リテカ遠ク移轉セラルルニ至ルマテハ其投下スル資本及勞力ノ増加スル割合ニ生産力ヲ増進スルヲ得ヌ却テ從來ヨリモ少歩ノ割合ニ以テ生産力ヲ増進スルニ止マラントス經濟上斯クノ如キ傾向ヲ一個人ノ法則ト名ケ呼ビテ報酬漸減法又ハ收穫遞減法ト稱ス此法則ニ關シテハ後ニ述リテ詳論スヘシ

第二節 勞働生産力ノ増進

勞働ノ生産力トハ勞力カ生産ニ及ホス技術的效用ノ謂ニシテ其多少ハ氣候性能男女長幼ノ異同ニ因リテ差異アルコトハ既ニ論述シタル所ノ如シト雖モ更ニ天然又ハ人爲ニ基テ人口ノ増殖教化ノ進歩衛生ノ發達使用ノ適度報酬ノ多寡及ヒ分業ノ發達ニ依リ其生産力ヲ増進シ其結果トシテ產物ノ品性及產額ノ増進ヲ致サシムヘキナリ

第一 人口ノ増殖

人口ハ勞力ノ源泉ナルカ故ニ人口ノ増殖カ勞働量ヲ増加スヘキ至大ノ原因タルヤ疑フ容レヌ而シテ人口ノ増殖ハ既往長年間ニ著シキ増進ノ傾向ヲ示メシ

凡ソ一百年ヲ以テ二倍ニ増進スヘキヲ知ルヲ得タリ吾人今最近ノ實況ニ依リ
 歐米各國ニ區別シテ平均一年ニ如何ナル割合ヲ以テ増進スヘキヤヲ見ルニ英
 國ハ千分ノ十二、佛國ハ千分ノ一、獨逸ハ千分ノ十五、米國ハ千分ノ二十、日本ハ
 千分ノ十二、年々増進スルノ有様ナリ即チ佛國ヲ除クノ外ハ概シテ千分ノ十
 二以上ヲ増進スルモノニシテ凡ソ百年ニ二倍セル既往ノ事實ハ最近ニ於ケル
 各國ノ有様ニ於テモ信用スヘキ推理ナルコトヲ證明スヘシ斯クノ如クニシテ
 各國總人口數カ一定ノ歩合ヲ以テ増進スル以上ハ其總人口ニ一定ノ歩合ヲ有
 スル各國ノ壯勞者モ亦其數ヲ増加シ結局各國ノ勞働量ハ各國總人口ノ増加ニ
 比例シテ増進スルモノト云フヘシ

第二 教化ノ進歩

教育及ヒ宗教ノ發達ハ個人ノ智徳ヲ開發シ依テ以テ勞働ノ實質ヲ改善スルカ
 故ニ勞力ノ生産力ハ之カ爲メ増進セラレ、コト大ナリト云ハサルヘカラス今
 試ミテ普通勞働者ノ智徳ノ開發ニ依リ生産止ニ及ホスヘキ效果ヲ舉タレハ凡ソ
 左ノ如シ

- 一 新式ノ便法ニ馴化シ易スレ 智識ナキモノハ其書ヲ習得シタル所ヲ墨守
 スルノミニシテ進歩改良ノ便法アルモ之ニ馴化スルノ素養ナキカ故ニ舊慣
 ヲ脱スルニ適セス之ニ反シテ教育ノ素養存スルトキハ事物ノ了解甚ク速カ
 ヲシテ能ク改良法ノ利ヲ知リ且ツ之ニ馴化スルコト迅速ナルカ故ニ文明ノ
 進歩ニ應シテ新利ヲ享受スルヲ得ルノ理ナリ
- 二 監督ヲ要スルコト少ナシ 蓋シ勞働者ニシテ智識ニ乏シキトキハ一々ニ
 精察ノ指示ヲ授クルニアラサレハ業務ヲ適當ニ行ハシムル能ハス從テ特ニ
 之ヲ爲メニ常住ノ監督ヲ加ヘ類々ノ制裁ヲ附セサルヘカラス之ニ反シテ其
 智識開發セラレ、トキハ能ク事物ノ性質ヲ知リ且ツ先見ヲ有スルカ故ニ一
 定ノ指示ト制裁トヲ明告シ置キ臨時監督ヲ加フルヲ以テ足レリ斯クノ如ク
 レテ監督ニ要スル勞費ヲ節シ之ヲ他ニ利用セハ更ニ勞働量ヲ加フルト同一
 ノ效アルヘシ
- 三 器具及ヒ材料ヲ損費スルコト少ナシ 勞働者ニシテ智識ニ乏シキトキハ
 器具ヲ保存及ヒ使用ニ適當ノ注意ヲ缺キ材料ノ使用上適當ノ分量ヲ計測ス

ルノ知識ヲ缺ク故ニ或ハ器具ヲ損毀汚損シ若クハ原料ヲ過當ニ浪費スルノ恐レナキヲ得ス勞働者ニ教育ノ必要ナルコト此點ニ繫ルヤ甚ク大ナリ

四、精巧ナル器械ヲ使用セシムルコトヲ得ヘシ 蓋シ機械ハ死物ナリ之ヲ運轉スルハ人ニ在リ如何ニ有效ナル機械ト雖モ之カ運轉者ニシテ其人ヲ得ルニアラヌソハ能ク此效果ヲ舉クヘキニアラス特ニ精密複雜ノ新器械ニ對シテハ用法、順序、日程力、熱度、注油、障害等ニ對シテ技術上ノ修養ヲ要スルコト甚ク多シ教育ノ素養アルモノニアラスソハ到底之ヲ使用セシムルヲ得サルヤ明カナリトス

五、謹慎誠實ニ勞働スヘシ 智識ノ修養ニ基ク先見ハ往々ニシテ誠實ヲ輕視ス、此點ニ於テ勞働者ノ德義心ヲ要スルヤ至大ナリ若シ智識アル勞働者ニシテ謹慎ニシテ誠實ナラソニハ其勞力ノ方向ハ正當ニシテ且ツ繼續的ナルカ故ニ生産ニ及ホスノ效大ナルヘキナリ而シテ此德義心ノ發達ハ宗教ノ力ヲ借ルトキハ最も簡單ニ最も深銳ニ最も廣汎ナルヲ得ヘシ

勞働者ニ要スル教育ノ發達ハ主トシテ普通教育ノ擴張及ヒ簡易ナル技術教育

ノ發達ニ由ス普通教育ノ擴張ハ小學校設備ノ増加、授業料ノ減免及ヒ義務教育ノ長短ニヨリテ定マリ簡易ナル技術教育ノ發達ハ實業學校ノ増加卒業者使用ノ方法其他獎勵助長ノ厚薄ニ依リテ差異アリトス今吾人ノ調査スル所ニ依レハ小學校ノ數ハ最近(明治三十三年)英國ニ於テハ三萬校、佛國ニ於テハ八萬三千校、普國ニ於テハ三萬六千校、歐露ニ於テハ三萬七千校、埃匈國ニ於テハ三萬八千校、本邦ニ於テハ五萬八千校、尋常高等小學校ヲ示メシ實業學校ノ數ハ英、佛ニ於テ明數ヲ得サルモ普國ハ二百五十一校、露國ハ百十三校、埃匈百三十八校、本邦二百二十七校ヲ示セリ是レニ依リテ見ルトキハ本邦ノ教育制度ハ頗ル旺盛ナルヲ示スト雖モ歐米諸國ハ是等ノ外別ニ宗教學校ノ設備極メテ盛シニシテ此等ノ學校又大ニ國民ノ爲メ初等及ヒ實業教育ヲ授クルモノ少カシタルカ故ニ單ニ前記ノ校數ノミヲ以テ比論スルヲ得ス

第三 衛生ノ發達

衛生ハ人身ニ對スル個人的又ハ社會的ノ危險ヲ豫防シ身體ノ發達ヲ計ルモノナルカ故ニ總テノ人ニ探リテ必要ノ要件タルヤ論ヲ俟タサルモ殊ニ勞働者ノ

如キハ體力ヲ以テ生活ヲ資キシ其體力ハ頻々危險ニ遭遇スルノ機會ヲ有スルカ故ニ一層ノ必要ヲ感スルモノト云ハサルヘカラス而シテ衛生ニシテ發達スルトキハ勞働者ノ食物、住居及健康ニ依リ勞働ノ實量ヲ増進シ生産上ニ效果ヲ及ホスニト大ナリトス。

勞働者ノ食物ニシテ改良セラレ低安ニシテ滋養ニ適スルトキハ直接ニ勞働ノ實量ヲ増進シ堅忍、強健ヲ生産ノ繼續ニ堪フヘシ而シテ勞働者食物ノ改良ハ滋養ニ適スル食物ノ供給、勞銀ノ多少、飲食物、飲食具ニ關スル腐敗、加毒ノ取締ニ依リテ其程度ヲ異ニス。

勞働者ノ住居ニシテ改良セラレ低安ニシテ清安ナルニ至ルトキハ疲勞ヲ慰シ疾病ヲ免レ快活、新鮮能ク生産ノ繼續ニ堪フヘシ而シテ勞働者住居ノ改良ハ家賃ノ低安ナル家屋ノ供給、勞銀ノ多少、汚物掃除、下水、水道及市街交通機關ニ關スル設備及ヒ取締ニ依リテ難易アリ。

勞働者ノ健康ハ職業ニ伴フ傷疾、疾病及ヒ其類々近接セル疫病、傳染病ニ依リテ危險ヲ禁ルモノナリ。今若シ工場及社會ノ衛生制度、發達シ平素ニ於テ衛生、滋養變時ニ於テ豫防、檢疫、消毒、隔離ノ制備ハリ彼等ヲシテ能ク少額又ハ無料ニテ此危險ヲ避免スルヲ得セシムルトキハ彼等ノ勞働量ヲ維持スルコトヲ得ヘキノミナラス一國又ハ一地方産業ノ全體ハ疫病ノ蔓延ヲ免レ生産及貿易ノ障害ヲ未然ニ防制スルコトヲ得ヘシ。

第四 使用ノ適度

勞力ノ生産力ハ之ヲ使用スル程度ニ依リテ増減シ或ル點ニ達スル迄ハ其使用ニ從ツテ生産力ヲ増加スト雖モ素ト勞力ハ人體ヲ源泉トスルモノナルカ故ニ人體ト密着ノ關係ヲ有シ其使用ノ程度ニシテ人體ニ障害ヲ與ヘントスルニ至ルトキハ却テ勞働量ヲ減スヘシ故ヲ以テ勞力ノ使用ニハ一定ノ適度アリ。此適度ハ勞力ノ種類、事業ノ性質、勞働者ノ年齢、男女ニ從ヒ勞働時間ノ多少ヲ以テ之ヲ測定スルヲ得ヘシ。今普通ノ勞力ニ關シテ之ヲ見ルニ其事業カ農業及商業ノ類ニ在リテハ勞働ノ量ハ概シテ仕事高ヲ目的トスル勞務ニシテ著シク時間ノ凍結ヲ受クルコトナク且ツ露開ノ場所ニ勞働スルカ故ニ別ニ適度ノ勞働ト稱スヘキモノナキモ工業ニ在リテハ自由ナル家内工業ヲ除クノ外工場ニ於テ衆

工齊シク組織的ノ勞働スルヲ要シ時間ニ依リテ著シク束縛ヲ受ケ且嚴重ノ監督ノ下ニ立ツカ故ニ往々ニシテ過度ノ使用ヲ試ムルコトアリ殊ニ此等ノ工場ニ於テハ分業ノ方法ニ依リ老幼男女各種ノ性格ヲ使用スルカ故ニ更ニ一層ノ注意ヲ要セスンハアラス而シテ幼少者ハ將來ニ強健ノ勞働量ヲ生スヘキ希望ヲ有スルモノナルカ故ニ之カ使用ヲ過度ニスルハ却テ將來ノ勞働量ヲ減少スルニ均シク社會經濟上最モ不生産的ナルハ勿論其使用者ニ採リテモ永遠ノ計トシテハ不利ナルコト明カナリ次キニ女子ハ又將來ノ勞働者ヲ生育スヘキ源泉ニシテ其過度ナル勞働ハ却テ將來ノ勞働量ヲ減少スルニ均シキヲ以テ其年齡及ヒ體力ニ應シ使用ノ適度ヲ定メサルヘカラス壯丁ノ勞働者ト雖モ其使用上自ラ適度アルモノト云ハサルヘカラス然レトモ此等勞働ノ適度ハ各國人種及ヒ氣候ノ異同ニ從テ又自ラ差異アルカ故ニ一概ニ之ヲ論定スルヲ得ス

第五 分業ノ發達

廣義ニ於テ分業ハ社會的分業及ヒ技術的分業ノ二種アルコト既ニ總論ニ於テ論述シタル所ノ如シ茲ニ勞働ノ生産力ニ關シ分業ト稱スルハ主トシテ技術的

分業ヲ意味シ之ヲ狹義ノ分業トス技術的分業ハ或ル一種ノ生産ニ必要ナル技術ヲ數多ノ小部分ニ分割シ多數ノ人ニ於テ各部ニ分力スルヲ云フ例ヘハ留針ノ製造ニ關シテ十八科ノ分業時計ノ製造ニ關シテ百二科ノ分業靴ノ製造ニ關シテ六十四科ノ分業アルカ如キ即チ是レナリ

之ヲ歴史的ニ觀察スレハ分業ハ其初メ先ツ一家内ニ於テ男女間ニ行ハレタルニ起リ漸ク發達シテ職業ノ分業トナリ更ニ發達シテ一種ノ職業ハ數多ノ分派ヲ生シ一派ハ再ヒ數多ノ支派ヲ生シ斯ノ如クニシテ社會ノ進歩文明ノ發達ト共ニ益々技術ノ細分セラル、ニ至リ其生産上ノ效用ハ主トシテ勞働量ノ増進ニ存セリ今其重要ナル效用ヲ舉クレハ凡ソ左ノ如シ

- 一 時間ヲ節シ物品ノ生産ヲ増加ス 各勞力者ハ各其長所ニヨリ各同一ノ場所ニアリテ同一物ノ製作ニ從事スルカ故ニ一ノ仕事ヨリ他ノ仕事ニ移リ一ノ器具ヲ措キテ他ノ器具ヲ採ルニ要スヘキ時間ハ省キセラレ同時間ニ多量ノ物品ヲ製作シ得ルノ理ナリアダム、スミスノ目撃スル所ニ依レハ留針一本ノ製作ニ十八回ノ手續ヲ要シ之ヲ十人ニテ分擔スルトキハ一日ニ五萬本

ヲ製作シ得ヘシト雖モ若シ十八回ノ手續ヲ一人ニテ兼攝シ十人各別ニ之ヲ製作スルトキハ一日僅カニ二百本ノ成功ニ過キスト云フ

二 労働者ノ熟練ヲ増ス 日々同一ノ工事ヲ繰返スカ故ニ精巧ヲ極ムヘキハ必然ノコトハス

三 機械ノ改良發明ヲ促カス 従事スル同一ノ工事愈熟練ヲ極ムルニ從ツテ心力共ニ餘裕ヲ生シ更ラニ工夫ヲ凝ラスヘキ餘地及ヒ思料ヲ有スルヲ以テ遂ニ往々機械ノ發明ニ到達スルモノナリ茲ニ著明ノ一例アリワット氏カ蒸汽機關ヲ發明セルノ始メニ當リ童子ヲ使役セテ専ラ機關ノ辨ヲ閉閉スルコトニ従事セシメシニ童子ハ日々之ヲ閉閉スルノ勞ヲ厭フノ餘糧々工夫ヲ凝ラシテ遂ニ辨ノ自ラ自在ニ閉閉スヘキ機械ヲ案出セリト云フ

四 資本ヲ節省スルノ利益アリ 何ゾトナレハ一人ニ於テ各種ノ業ヲ兼行スルトキハ各種ノ機械ヲ要シ一人五器トスレハ五人ニ二十五器ヲ要スヘキモ一人一業ヲ爲スニ於テハ一人一器ヲ以テ足り五人五器ヲ以テ足ルノ理ナレハナリ

五 各人ノ性能相當ノ業務ヲ探フコトヲ得 生産ノ業務ニハ簡易ノモノアリ複雑ノモノアリ細妙ノモノアリ粗大ノモノアリ而シテ各人ノ性能ニモ男女ノ別アリ老幼ノ異アリ好悪ノ差アリ簡易ノモノハ老幼ヲシテ之ニ當ラシメ從テテ勞銀ノ節省ヲ得ヘク複雑ノモノハ熟練ノ壯丁ニ委シテ高銀ヲ給スルニ適シ細妙ノモノハ婦女ノ纖手ニ適シ粗大ノモノハ男子ニ適ス各人ノ好ムトコロハ生産量カリ厭惡スルトコロハ生産ノ效少ナシ各其性能ニ適スル業ヲ撰ヒテ之ヲ分擔スルトキハ其效驗ノ大ナルヤ知ルヘキノミ分業ノ利此一點ニ於テモ既ニ頗ル多ナリト云フヘシ

六 習業及轉業ノ時日及勞費ヲ短減ス 各人ニシテ若シ一業ノ全部又ハ數業ヲ習得セザルヘカラストスルトキハ爲メニ年月ヲ費シ勞費ヲ損スルコト少カラスト雖モ若シ各人カ單一業又ハ其一部ノ技術ヲ爲スヲ以テ足レリトスルトキハ數月ヲ出テスレテ之ヲ兼習スルコトヲ得ヘク爲メニ少カラサル時間ト勞費トヲ節スヘシ從テテ又一種ノ業ヨリ去リテ他ノ業ニ轉セントスル場合ニ於テモ同様ノ利益ヲ得ヘキノ理ナリ而シテ其結果ハ各人ノ労働量

ヲ速カニ増進シ延イテ一國ノ勞働量ヲ増進スヘシ
 以上述フル所ヲ總括スレハ分業ノ利益ハ各人ノ勞働量ニ關シ起業者ノ生産費
 ニ關シ及ヒ社會ノ生産量ニ關シテ其效驗ノ著シキヲ知ルニ足ルヘシ斯ノ如ク
 分業ハ其配置宜シキヲ得ルトキハ著シク勞働ノ生産力ヲ増加スルノ效アルヲ
 以テ之カ發達ハ一國ノ生産ヲ増加スル爲メニ頗ル有效ノ條件タリ然レトモ分
 業モ亦短所ナキニアラス殊ニ其過度ニ失スルトキハ個人竝ニ社會ニ取リテ害
 ヲ贖スノ原因トナルコトアリ今分業ノ短所トスル所ヲ數フルニ凡ソ左ノ如シ
 一 人ヲシテ機械的ナラシム 分業ノ法タルヤ一業一術ニノミ心ヲ用キテ人
 カヲ一方ニ束縛スルモノナルカ故ニ其常ニ從事スル業務ノ外ハ他ニ用キル
 所ナク人能ヲ固定シテ殆ト機械ト擇フトコロナキニ至ラシムヘシ例ヘハ茲
 ニ一人アリ幼少ヨリ專ラ活字拾ヒニ從事シ年既ニ四五十ヲ超エタリトセヨ
 彼ハ此一術ニ付キテ非常ナル熟練ヲ得ルニ相違ナシト雖モ心身殆ト機械ノ
 如ク固定シテ之ヲ外ニシテハ他ニ從事スヘキ方途ナキニ至ルノ傾キアリ從
 テ一朝其事業ニ變動アリテ工場閉鎖スルカ又ハ一時ノ疾病ニ由リ解雇セラ

ル、如キ場合ニ際會スルトキハ忽チ活路ヲ失フニ至ラシ
 二 勞働者ノ身體及ヒ健康ヲ害ス 分業ニ依リテ一業ヲ專擔スルトキハ其業
 務總ニス單調ニシテ極メテ變化少ナク爲メニ勞働者ヲシテ其勞働ニ對スル
 趣味ヲ減薄セシメ其結果ハ身體及ヒ健康ヲ害スルニ至ラン左ナキタニ分業
 組織ニ成レル工場ニ於テ通例多數ノ勞働者兼合スルカ故ニ時トシテ一般ノ
 風俗衛生ヲ害スルニ至ルコト多シトス
 三 教育ノ普及ヲ妨ク 分業發達ノ結果ハ兒童ニモ適當ノ職業ヲ附與スルコ
 トヲ得ルト雖モ之カ爲メ工場ニ收容セラレタル幼年者ノ教育ハ常ニ等閑ニ
 附セラレ從ツテ教育ノ普及ヲ妨タルノ虞ナシトセス殊ニ幼者ヲシテ絶ニス
 偏固ナル業務ニ從事セシムル如キハ彼等カ有スル將來ノ勞働力ニ向ツテ發
 達ヲ妨タルモノト云ハサルヘカラス

此等ノ短所ハ分業ノ發達ニ伴フモノナリト雖モ一國ニ於ケル工場制度及ヒ教
 育制度ト密著ノ關係ヲ有シ若シ教育ノ制度ニシテ普通教育ヲ強制シ徒弟及ヒ
 簡易技術ノ學校ヲ設備シ又工場制度トシテ就業年齢幼工ノ勞働時間ニ制限ヲ

設ル若壯勞働ノ爲メニ疾病保險ノ制ヲ設クル等ノ如キニ至ラハ以上ノ短所ハ大ニ之ヲ減スルコトヲ得ヘシ

斯ノ如キ制度ノ發達ト相待ツテ分業ノ發達ハ其效驗頗ル大ナルコト疑フ容レスト雖モ分業ハ一定ノ生産又ハ一定ノ場合ニ於テ適用スルニ困難ナルモノアリ今一、二例ヲ舉ケテ之ヲ説明セシ

一 農業ニハ分業ノ適用ニ制限アリ 農業ハ概シテ集約産業ニシテ且ツ順序的ノ季節ヲ有スルカ故ニ分業ニ適セサルコト既ニ論スル所ノ如シ殊ニ橄欖、烟草、葡萄ノ如キ深耕密培ヲ需フモノニアリテハ分業ノ適用殆ト餘地ナキモノト云フヘシ

二 少資ノ産業ハ分業ニ適セス 分業ハ大仕掛ノ工業ニ尤モ利益アルモノニシテ從ツテ多クノ資本運轉スルモノニ適ス若シ資本ノ少ナキニモ拘ハラズ事業ヲ分割スルトキハ徒ラニ多數ノ勞働者ヲ使用スルノミニシテ產物ハ割合ニ多カラサルヲ見ルヘシ

三 狹隘ノ販路ハ分業ニ適セス 分業ハ一時ニ多量ノ產物ヲ製造スルニ利益

アルモノナルカ故ニ其產物ノ販路ハ確實ニシテ且ツ廣汎ナラサルヘカラス若シ夫レ之ニ反シ(一)住民貧困ニシテ物品ノ需要少ナキ地ニ於テハ產物ノ却テ不用ニ歸スルモノアリテ生産費ノ回收ヲ期スルニ由ナカルヘク又(二)人民各所ニ散居シテ物品ヲ運送スルノ便ニ乏シク從ツテ販路殆ト狭ムヘカラサル地ニ於テ分業ヲ適用セトスルトキハ供給忽チ需要ニ超過シテ放賣ノ低價ヲ見ルニ至リ生産費ノ回收又頗ル困難ヲ極ムヘシ是レ僻陬ノ村落ニ於テ爾ニル荒物屋又ハ萬屋ナルモノ、多カル所以ナラソカ

第三節 資本生産力ノ増進

資本ノ生産力トハ資本カ生産ニ及ホスヘキ技術的作用ノ謂ニシテ資本其モノノ種類ニ限リテ差異アルコト既ニ第六章ニ於テ論述シタル所ノ如シト雖モ更ニ又此生産力ハ貯蓄ノ發達、利用ノ進歩、運轉及ヒ移轉ノ便易ニ依リ大ニ其分量及ヒ效驗ヲ増進スルコトヲ得而シテ其結果ハ產物ノ數量又ハ品性ノ上ニ著シキ關係ヲ有ス

第四 貯蓄ノ發達

貯蓄ハ消費ノ節省ナリ故ニ消費論ニ密接ノ關係ヲ有スルコト論ヲ俟タスト雖
モ消費論ニ依リテ講究スヘキ適當ナル消費ノ方法ニ依リ消費ヨリ節省セラレ
タル剩餘的產物ハ更ニ生産ノ手段トナリテ爾ユル資本ノ數量ヲ増加スルカ故
ニ生産論上至大ノ關係ヲ有スルモノナリ
斯ノ如ク貯蓄ナルモノハ消費ト生産トニ跨リテ其位置ヲ有シ消費ニ對シテハ
反對ヲ意味シ生産ニ向テハ増殖ヲ意味スト雖モ消費ト貯蓄トハ目的ニ於テ
全ク一致スルモノトス強ヒテ之ヲ區別スレハ直接ト間接トノ差アルノミ何ト
ナレハ貯蓄ハ又遂ニ消費ニ終ルノ外ナケレハナリ然ラハ吾人ハ何故直チニ消
費セシテ遂ニ之ヲ消費スルヤ是レ他ナシ人口ノ増加ハ無限ニシテ產物ノ基
礎ハ限リアリ人生ハ朝露ノ如クナラスシテ社會ハ永久ニ存在スルカ故ナリ此
故ニ個人モ社會現在ニ於ケル不急ノ消費ヲ節省シ之ヲ後ノ生産手段トシテ長
遠ノ生産ヲ爲スニアラサレハ長遠ノ消費ニ對スル長遠ノ生産ヲ維持スルニ由
ナカラントス是ニ依リテ之ヲ考フルニ貯蓄ハ生産ト消費ト亦互ニ連結スル
連鎖ニシテ吾人ノ生存發達ヲシテ長遠ナラシムル唯一ノ方法ナリト稱スヘキ

カ如シ

貯蓄主要ノ作用ハ過去ノ產物ヲ節省シテ將來ノ資本ヲ増加シ之ニ依リテ以テ
現在ト將來トヲ連結スルニ存スルコト以上説述スル所ノ如シ而シテ貯蓄ハ此
主要ナル作用ニ伴フテ又幾多ノ效益ヲ吾人ニ與フルモノナリ今左ニ之カ概目
ヲ列舉セシ

- 一 貯蓄ハ獨立及ヒ發達ノ基礎ヲ與フ
 - 二 貯蓄ハ吾人ニ二倍ノ時間ヲ與フ
 - 三 貯蓄ハ吾人ノ智徳ヲ増ス
 - 四 貯蓄ハ吾人ニ信用ヲ與フ
 - 五 貯蓄ハ吾人ノ罪惡及ヒ危險ヲ除去ス
- 貯蓄カ個人ノ獨立ヲ維持シ品位及ヒ權勢ヲ高カメ能ク他ノ商略ニ抗シ徐ロニ
持久シ期ヲ待テテ決行スルニ適セシムルカ如ク又能ク一國ノ獨立ヲ維持シ國
力ヲ扶植シ國際權力ヲ擴張スルニ效アルコト吾人ノ常ニ目撃スル事實ニシテ
何人モ疑ハサル所ナラシ且ツ夫レ貯蓄ハ吾人ニ生活ノ餘裕ヲ與フルカ故ニ生

活ノ爲メニ要スル吾人ノ勞働時間ハ全ク之ヲ他ノ發達的事業ニ投スルニ適セ
 取ル從テ吾人ノ時間ハ恰カモ二倍ノ増加ニ同シ既ニ斯ノ如クニシテ吾人ノ
 時間ハ二倍シ此時間ニ使用スヘキ貯蓄ノ餘利アリトセハ吾人ハ茲ニ智識ヲ開
 キ進歩ヲ涵養スルノ境遇ヲ得ヘシ世ニ所謂恒産アル者ハ恒心アリト稱スルモ
 ノハ主トシテ貯蓄ノ利益ヲ説明シタルモノト云フヘシ其他貯蓄カ吾人ノ信用
 ヲ増シ罪惡腐敗ヲ豫防シ又ハ疾病災厄廢勞ヲ保險スルノ利益アルカ如キ喋々
 ヲ要セスシテ明白ナリトス殊ニ吾人ハ本邦ノ如キ智ト富ト各人一致セス智ア
 リテ富ナキモノ政治ニ參シ富アリ智ナキモノ産業ニ從ヒ上ニ貪利ノ政人多ク
 下ニ蓬蓬ノ民繁ク奢侈内ニ萌シテ國威外ニ振ハサル國狀ニ於テ吾人ハ貯蓄ノ
 必要ヲ感スルコト極メテ切ナリ

貯蓄ノ利益ハ實ニ以上所論ノ如シ然ラハ貯蓄ハ如何ニシテ之ヲ發達セシムル
 コトヲ得ルヤ是レ吾人ハ貯蓄發達ノ條件トシテ夫ニ論セヨト欲スル所ナリ

貯蓄ノ發達ハ凡ソ左ノ四條件ニ依リテ支配セラル

一 貯蓄心ノ發達 貯蓄ハ消費ノ節省ナルカ故ニ人ノ節省心ニ密接ノ關係ヲ

有ス此節省心ヲ貯蓄ノ意思ト云フ此意思ハ個人ノ天性ニ依リ又ハ教育ノ效
 果ニ依リテ強弱アリト雖モ文明ノ進歩ト共ニ發達スルコト疑ヲ容レズ歐米
 諸國ニ於テハ學校貯金ノ制度ヲ設ケテ普通教育ノ傍ラ學齡兒童ニ向テ貯
 蓄心ノ發達ヲ獎勵ス之ニ關シテ教育學者間議論紛々タリト雖モ今日ニ於テ
 ハ之カ爲メ著シク教育上ノ障害ヲ與フルヲ見ス事口貯蓄心ノ發達ヲ促シタ
 ルノ利益ヲ收メ得タルカ如シ

二 貯蓄スル餘裕 消費ヨリ節省セラル、産物之ヲ貯蓄スル餘裕ト稱ス此餘
 裕ハ個人又ハ社會ノ收入中必要ノ消費ヲ控除シテ殘剩スルトコロノ産物ノ
 總量ニシテ即チ貯蓄ノ目的物タルモノヲ云フ如何ニ貯蓄心ノ發達スルモ此
 目的物存在セザルトキハ資本ノ貯蓄ヲ見ルニ由ナキナリ而シテ此餘裕ハ素
 々ト過去生産ノ結果ナルカ故ニ過去生産ニ關係ヲ有スルコト勿論ナルモ消
 費ノ方法及分量ニ密接ノ關係ヲ有シ消費ノ分量ハ又物價ノ高低ニ關係ヲ有
 ス例ヘハ物價騰貴スレハ消費増加シ消費増加シテ貯蓄減少シ貯蓄減少シテ
 資本亦減少シ資本減少シテ種子騰貴スト云フカ如キ之ヲ證明スルモノナリ